

福島まで(新幹線)

東京から約**1時間40分**
 小山から約**1時間10分**
 宇都宮から約**45分**
 仙台から約**30分**
 山形から約**1時間10分**

大学まで

JR 東北本線金谷川(かなやがわ)駅下車 徒歩**10分**
 バス 福島駅から二本松方面行き乗車
 福島大学下車 徒歩**10分**

高速バス

仙台駅から福島駅まで約**1時間20分**
 会津若松駅バスターミナルから福島駅まで約**1時間30分**
 郡山駅から福島駅まで約**1時間10分**
 新潟駅から郡山駅まで約**2時間50分**

茨城方面からお越しの場合

高萩駅よりJR常磐線特急でいわき駅まで約**35分**
 日立駅よりJR常磐線特急でいわき駅まで約**45分**
 水戸駅よりJR常磐線特急でいわき駅まで約**1時間10分**
 いわき駅より高速バスで福島駅まで約**2時間**

入試に関するお問い合わせ先

福島大学入試課 〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地

TEL. **024-548-8064** (平日/9:00~17:00)

※お問い合わせは、できるだけ受験者本人が行ってください。



福島大学公式
 マスコットキャラクター
 めばえちゃん

プロフィール
 「福島大学 めばえちゃん」
 で検索!

4歳の女の子。4月7日生まれ。
 出身地 福島県阿武隈高地
 性格 のんびり屋 いつもニコニコ
 お仕事 福島っ子の応援・福島県産品のPR
 福島県の復旧・復興のお手伝い
 福島大学のPR

Facebookで
 動画公開中!




FUKUSHIMA UNIVERSITY
GUIDE 2019

新しい元号に変わる2019年

福島大学は 未来にむけて変わります。

Change for the Future

福島大学学長 中井 勝己

2019年4月、福島大学は新しく生まれ変わります。

既存の人文社会学群人間発達文化学類・行政政策学類・経済経営学類、理工学群共生システム理工学類に加え、新しく農学群食農学類(仮称)ができ、3学群5学類体制になります。

食農学類(仮称)は、東日本大震災と福島第一原発事故後の福島における食の安全と農業の再生・復興にこたえるため、食と農の課題に主体的・創造的に取り組むリーダーを養成し、豊かな専門性と学際的な思考力を養います。こうした人材を育成するため、生産を囲む環境、生産の現場、食品加工と流通、食の流れ(フードシステム)を強く意識した「4つの専門コース」を設けています。

人間発達文化学類は、子どもから大人まで、地域に生きる人たちの発達を支援する人材を養成します。教育や支援のための各種資格・免許状の取得が可能で、卒業生の3分の1が教員になるほか、保育士、公務員として、また民間企業で活躍しています。

行政政策学類は、地域社会の課題に向き合い、地域づくりに貢献できる人材を養成します。さまざまな分野の学際的な学びをする中で、理論だけでなく実践で学ぶことも重視しており、フィールドワークなど少人数でのアクティブ・ラーニングを特色としています。

経済経営学類は、経済活動に対するグローバルな視野を養い、地域経済や国際経済をリードする人材を養成します。基礎・基本からの積み

上げ式学習で専門性を深めるとともに、地域から学ぶ外部団体講義や、大学院レベルの内容に早期に挑戦するための仕組みなど、学生の意欲的な希望に応える環境を整えています。

共生システム理工学類は、科学技術を幅広く学び、21世紀の諸問題の解決に主体的に関わることでできる人材を養成します。文理融合型人材育成の意図を継承し、より高度な専門知識や研究経験に基づいて異分野の専門家とも協力した思考・行動ができるようカリキュラムを構築します。

2019年4月には、これら4学類についても専攻を「専門コース」に改編し、各分野における学びの専門性を深めるとともに広範囲な学習をより柔軟に行うことができるようになります。

さらに、人文社会学群のもとに置かれていた夜間主コース(現代教養コース)も、行政政策学類夜間主として再編し、社会人に特化した夜間主のカリキュラムを提供します。

組織改革と併せ、大学教育も抜本的に見直し、地域実践型の学びを盛り込んだ教育改革を行います。この教育改革の背景には、東日本大震災と原発事故の復旧・復興活動とそこから得られたさまざまな知見を次世代を担う学生の教育に活かすということにあります。

例えば、2013年度から2017年度まで実施した教育プログラム「ふくしま未来学」(COC事業)では、被災地を学びのフィールドとして、震災復興に関わる自治体の首長や住民の方たちから聞き取り調査をし、自

ら何ができるかを考え行動することを学ぶもので、学生の大きな成長がみられました。「ふくしま未来学」で培った教育を2019年からは「地域実践特修プログラム」として全学的なカリキュラムに位置付け、引き続き福島の再生・復興に貢献できる人材を育成します。

また、本学はグローバル人材の養成にも力を入れています。国際交流センターが中心となって実施している「Fukushima Ambassadors Program」(F.A.P.)では、海外の交流協定校の留学生たちが福島の被災地を視察し、そして本学学生たちが留学生のサポーターをし、意見交換・交流を行うという「体験型被災地学習」であり、内外から非常に高い評価を得ています。新しいカリキュラムでは、こうした国際交流と、既存の4学類がそれぞれ開講しているグローバル教養科目、語学を強化する英語グレードアッププログラム、留学などを一本化させた「グローバル特修プログラム」を設けます。

福島第一原発事故に起因する「福島の課題」(地域・コミュニティの再生、産業、医療、教育的課題)は、ある意味では我が国が抱える「21世紀の課題」です。こうした現代社会におけるさまざまな課題(=解のない問い)にチャレンジできる人材を育てたいという教育理念のもと、「問題解決を基盤とした教育」への大学教育の転換を進めています。

福島大学での学びは、皆さんが将来進む道において必ずや大きな力になると確信しています。ともに福島大学で学びましょう。

CONTENTS

- 04 「解のない問い」にチャレンジする!
- 06 ミライ改革PROJECT
- 06 I. 地域実践特修プログラム
- 08 II. 環境放射能学専攻
- 10 III. 食農学類(仮称)
- 12 食農学類(仮称)
- 14 学類・コース INDEX

- 16 人間発達文化学類
- 22 教育実践コース
- 22 心理学・幼児教育コース
- 23 特別支援・生活科学コース
- 23 芸術・表現コース
- 24 人文科学コース
- 24 数理自然科学コース
- 25 スポーツ健康科学コース

- 26 行政政策学類
- 地域政策と法コース
- 地域社会と文化コース
- 36 夜間主
- 38 経済経営学類
- 42 経済学コース
- 44 経営学コース
- 46 コース横断プログラム

- 48 共生システム理工学類
- 54 数理・情報科学コース
- 54 経営システムコース
- 54 物理・システム工学コース
- 55 物質科学コース
- 55 エネルギーコース
- 55 生物環境コース
- 56 地球環境コース
- 56 社会計画コース

- 56 心理・生理コース
- 58 大学院
- 60 国際交流
- 62 キャンパスマップ
- 64 福島大学附属図書館
- 65 年間スケジュール
- 66 STUDENT Life

- 68 めばえる福大人!
- 70 サークル紹介
- 71 学費・奨学金
- 72 就職支援
- 73 進路状況
- 74 入試データ
- 75 募集要項の請求方法・発表時期
- 75 オープンキャンパス



福島大学の教育が変わる! -7つのポイント-

1 入学から卒業まで、手厚く教職員がサポートします。

入学前教育—入学後のサポート—授業・学習—サークルやボランティア—留学などの各種活動—就職支援—卒業研究、などの4年間の学生生活を、一貫した体制でサポートしていきます。これによって、誰でも目標に向かって意欲的に大学生活を送ることができ、さまざまな活動にチャレンジできます。



2 初年次の基盤教育を充実させます。

1年次生が学ぶ初年次教育(教養教育)を大きく変え、本学独自の

教育体系をつくります。高校までの学び(教科書に書かれた知識を学ぶ)を大学での学修(自ら主体的に学ぶ)につなげる教育体系として「基盤教育」を充実させました。基盤教育として、入学後、大学での学びを身につけるためのスタートアップとしての「接続領域」、幅広い教養の基礎を形づくる「教養領域」、現実の問題をフィールドワークやグループを通し、時には一人で、時には学生間で意見を交わし課題を深く掘り下げ、そして解さばくしていく「問題探究領域」が新たに設定されます。



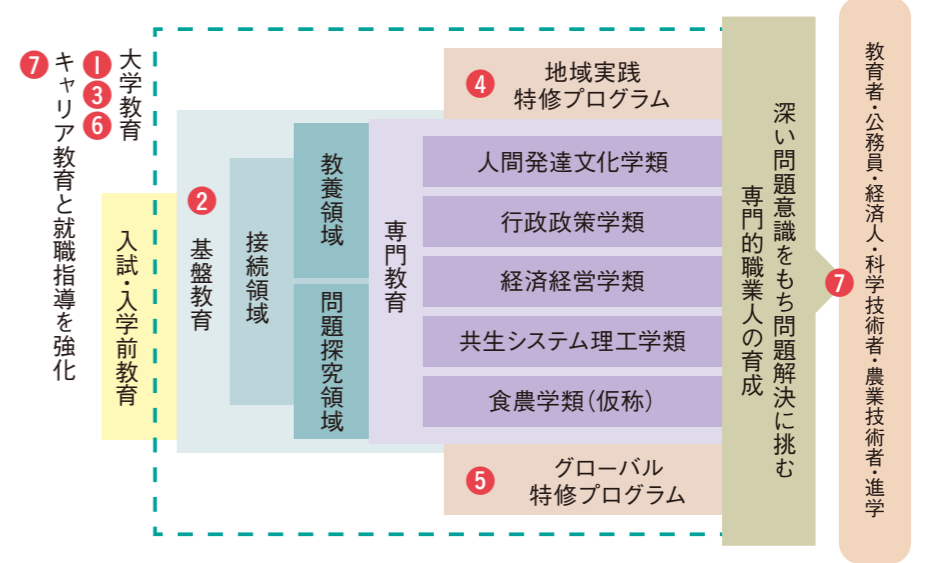
3 身につけた力を「見える化」します。

科目や科目群の学習目標を明示して、どのような能力を伸ばすのか、どのように伸ばしたのかを情報技術を使って「見える化」します。アクティブラーニングや実践的な学習を取り入れ、学生の学びを活性化させます。

福島大学でしか学べないことを学ぶ!

- 福島県は、2011年3月東日本大震災とそれに伴う東京電力福島第一原子力発電所事故に見舞われ、甚大な被害を被り、「Fukushima」は世界に知れ渡ることとなりました。
- 福島大学は東日本大震災以降、被災地のフィールドワークや地域おこし、自然再生エネルギー人材育成などに取り組み、ユニークな教育を進めてきました。
- 世界も、日本も、地域も、時代の大きな変化の中にあり、たくさんの課題を抱え、容易に「答え」を導き出せない問題に満ちあふれています。福島大学は「解のない問い」にチャレンジする学生を育てる教育を創造します。

福島大学における人材育成のイメージ



「解のない問い」にチャレンジする!



4 地域に学ぶ活動を強化します。

東日本大震災のみならず、地域は多様な課題を抱えています。「地域実践特修プログラム」を中心として、本学で学べる地域学習を広げ、地域の現状に触れ地域で活動する学習を増やし、問題探究・問題解決の力を伸ばします。

5 グローバル教育を充実させます。

学類を超えて、語学教育をグレードアップし、欧米圏やアジア圏との国際交流の機会や、海外留学を希望する学生にさまざまな情報や機会を提供します。海外から高い関心を集めている福島を海外とつなげていきます。



6 情報教育を実践的に変えていきます。

現代の情報化社会にふさわしい教育体系に変わります。各自がパーソナルコンピュータを通して、学内外のさまざまな情報にアクセスし、情報の収集や分析、まとめ、プレゼンテーションを実践します。21世紀の読み・書き・算を身につけます。

7 キャリア教育と就職指導を強化します。

本学で先進的に取り組んできたキャリア教育をさらに発展させます。自治体や企業との連携を強化し、インターンシップの機会や就職指導を充実させて、就職に強い人材、社会に出て魅力的な仕事ができる人材を育てていきます。



注目! ミニ動画公開中!

福島大学の教員によるミニ講義をWebで見ることができます。福大生の気分になってみよう♪



福島県の地域課題を実践的に学び、 未来を創造する人材を育てるために

1年次から4年次まで地域(コミュニティ)に
継続的に関わりながら地域づくりや
地域課題を学ぶ特別プログラム

「地域実践特修プログラム」

地域実践特修プログラムは「問題解決」を基盤とした、地域に根ざしたプロジェクト学習で構成された学類横断の科目群です。
学類の特性に応じて、またゼミ活動などで、自分の関心や進路に合わせて科目を選択できます。



地域で学ぶ

住民と交流をしながら五感を通じて地域の
実態を学びます。



実践者から学ぶ

地域の最前線で課題解決に取り組む実践者
からお話を伺います。



グループで解決策を考える

地域の課題発見・分析、解決策まで仲間と
ともに考えます。



地域で実践する

事例 1 畑を借りて自分たちで育てた野菜を使った
料理をカフェで提供し、地域の魅力を発信。



事例 2 村の多世代交流機会の創出を目的に
スポーツイベントを企画・実施。

地域実践特修プログラムは、「むらの大学」の
他に、問題探究科目や学類専門科目、
自主学習プログラムなどから自由に選択
できる科目群です。



福島大学の
ミライ改革
PROJECT ①

地域実践特修プログラム

地域の中で 未来を考える。



フィールドワークで得たもの ～「むらの大学」を1年間履修して～

経済経営学類 国際地域経済専攻2年
鶴蒔 かれんさん
(私立桜の聖母学院高等学校(福島市)出身)

震災や原発事故で大きな被害を受けた南相馬市は、子どもの頃から慣れ親しんできた祖父母の家があるまちです。そのため「ふくしま未来学」では、南相馬の地域課題に直接向き合い、まち本来の魅力を再発見したいと、「むらの大学」を受講しました。フィールドワークのエリアは南相馬の小高区。私たちの班は小高の農業をテーマに、苗植えや稲刈り、法人農家と個人農家への聞き取り調査などを行い、未来に残すべき農業のあり方について考えました。現地で復興に向けて努力している方々と交流したこの1年は、小高の問題をより身近に主体的に考えることとなり、被災地の復興と活性化に貢献したいとの思いを強めました。また何より一緒に学んだ仲間や私たちを温かく歓迎してくださった地域の方々とのつながりは、かけがえのないものとなりました。この経験は、教室で講義を受けているだけでは決して得られないものだったでしょう。今後は、ボランティア活動の一環などで海外に行く機会があるので、そこで得た経験や視点を地域の課題解決に活かせるような取り組みをしていけたらと考えています。

キャンパスから飛び出して 「カッコいい大人たち」に会いに行こう

総合教育研究センター
前川 直哉 特任准教授

震災・原発事故で大きな被害を受けた福島県の各地域には、逆境にめげず、地域、子ども、未来のために地道に前を向いて歩み続けている「カッコいい大人たち」がたくさんいます。地域実践特修プログラムの科目のひとつである「むらの大学」は、キャンパスを飛び出し、「カッコいい大人たち」と交流しながら、地域の復興に向けて何ができるのかを考えていく創造的なプログラムです。対象は主に全学類の1年生。南相馬市または川内村で、住民の皆さんからお話を伺ったり、農作業や地元のお祭りに参加したりしながら、地域の「いま」を体感するフィールドワークを年3～4回行います。その後は少人数のグループに分かれ、自分たちが設定したテーマについてプロジェクト型学習を実施。正解のない課題について、仲間たちと楽しく学ぶ力を身につけていきます。実際、「むらの大学」を受講した学生には分析力や思考力、発想力、実行力といったさまざまな力の成長が確認され、自分たちでプロジェクトを立ち上げて実行しているグループも多くあります。自分がどんな大人になりたいか、「むらの大学」でぜひ見つけてください。

原子力災害に直面する福島県で 世界の環境放射能研究をリードするために

福島第一原子力発電所事故から 環境放射能学専攻(大学院)設立まで 「環境放射能研究のあゆみ」

① 2011年3月 東日本大震災発生

福島第一原子力発電所の事故によって放出された放射性物質が、環境にどのような影響を与えるのか。福島大学は、その世界的課題を調査研究するために、「環境放射能研究所」の設立準備を開始しました。

② 2013年7月 環境放射能研究所(IER) 設立

筑波大学、東京海洋大学、広島大学、長崎大学、放射線医学総合研究所、福島県立医科大学との連携のもと、福島大学構内に附属研究所を設立。国内外から環境放射能に関わる研究者が集結し始めました。

③ 2014年7月 分析棟竣工

2017年2月 本棟・保存棟竣工

現在、環境放射能研究所は5部門15分野による6つのプロジェクトを進めながら、2019年4月の大学院設立を準備中です。

● 授業科目「放射線対策科学専修プログラム」

環境放射能に対する研究は長期にわたるため、人材を持続的に育てなければいけません。そのため共生システム理工学類では2017年度から学類生を対象とした「放射線対策科学専修プログラム」を開始。希望者が自分の専門性に合わせ、「放射線科学」「廃炉支援」「環境動態」のいずれかを学び、国家資格である放射線取扱主任者の素養を身につけていきます。

● 研究分野のひとつ、廃炉へのアプローチ

環境放射能研究所の動きと並行し、共生システム理工学類の教員もそれぞれの分野から差し迫った課題である「廃炉」を促進させるための技術研究も進めてきました。研究室に所属する学類生や院生もそれらの最先端技術に関わりながら、廃炉という国際的課題に向き合っています。

福島大学の
ミライ改革
PROJECT II
環境放射能学専攻

環境放射能を研究する 世界初の大学院誕生。

グローバルな環境放射能の専門家を継続的に育成するために

2011年に福島第一原子力発電所の事故によって環境に放出された放射能は広い範囲に沈着しました。それらの除染は人々の生活圏内を中心に進められましたが、山などにはまだまだ沈着しています。放射能は時間が経てば減りますが、そのひとつであるセシウム137は半分に減るまで(半減期)30年かかると言われています。その間、環境中に残り続ける放射能は雨が降れば山から川に流れるし、食物連鎖によって動植物間で移動するなど、常に動き続けます。それをわれわれは環境放射能の「動態」と呼び、環境放射能研究所(IER)では主にその動態を研究しています。

1986年に起きたチェルノブイリ原発事故でも大量の放射能が放出されました。しかし福島とチェルノブイリでは沈着する土の性質も降水量も地形も違うので、動態がまったく違います。今、世界を見れば途上国は原発を増やしているし、世界各地にある原発もはや絶対に安全だとは言えません。その時に、環境中の放射能がどう動き、今後どうなっていく、どう対処したらよいのかという知見を持つことは、非常に重要な世界の課題なのです。

もうひとつの重要な課題が、この問題に携わる専門家を継続的に育てることです。今回の大学院設立の話は、原発事故が起きた直後

から出ていました。世界中の研究機関から学生や研究者を派遣したいと話があったのです。そのため大学院は、福島を最大限に活用した実践的な教育機関にしようと、フィールドワークを大切にしながら「生態学」「モデリング」「計測」の3分野で、専門的人材を育てる予定です。いずれは世界で必要な数の専門家をすべてここから輩出していければ。それがこの大学院の最大目標と言えるでしょう。

Profile

環境放射能研究所
高橋 隆行 教授
共生システム理工学類人間支援システム専攻所属。
専門分野はロボット工学、制御工学。

CLOSE UP ① 環境放射能研究所 (IER) について

福島大学環境放射能研究所(Institute of Environmental Radioactivity:IER)は、環境放射能の動きとその影響を科学的に解明するために設置されました。スタッフのおよそ3分の1は外国の研究者で、中には1986年に起きたチェルノブイリ原発事故後の環境放射能研究に携わった人もいます。国際的にも重要な研究拠点として位置づけられています。

研究所の
詳細は
こちらへ



研究所
教員紹介は
こちらへ



詳しくは58ページへ

福島で学ぶことに意義がある。

福島大学の
ミライ改革
PROJECT Ⅲ
食農学類(仮称)



未来の食と農を考える 新しい学びがスタート。

地球レベルの課題を抱える福島で、食農の地域リーダーを育成す

福島は農業県です。全国で上位の収穫量を誇る農産物も多く、林業や水産業も盛んです。しかし意外なことに農学系の学部がありませんでした。ここ福島では震災以降、風評被害など、原発事故の影響で食と農にも深刻な問題があります。昨年の夏、チェルノブイリ原発事故で被災したベラルーシ共和国を訪問し、改めて福島での専門的研究や人材育成の重要性を認識しました。その意味でも食農学類(仮称)の開設は大きな一歩です。

事実、福島大学に農学部を開設してほしいとの強い要請が、2014年頃から県の農林業の分野を中心に広がりました。開設の方針を決

定すると、県内各地から“キャンパスを自分たちの地域に”という要望書が多数届きました。最終的に拠点は金谷川キャンパスになりましたが、食農学類が県内をフィールドにした教育を重視するのは、こうした背景があるからです。

代表的なプログラムが2年後期に始まる「農学実践型教育」です。この科目は1年半の長期にわたって地域に通い、農業や林業、食品製造業などの課題を学び、解決策を考えるものです。初回の2020年度は県内9地区で、異なる専門分野の学生と教員が混成チームを組んで活動します。もともと「農学」は現実の課題を解決するために始

「実践的な食農学類(仮称)の教育とは？」

① 入学後すぐに始まる「農場基礎実習」

一般に多くの農学系学部では、1~2年で座学を学び、一部の学生のみ3年生になって初めてフィールド実習を行います。しかし食農学類の実習は入学後すぐに開始。1年生は基礎教育科目と専門基礎科目を学ぶと同時に、全員が「農場基礎実習」で農場実習に参加します。

② さらに2年後期~3年は「農学実践型教育」に挑戦

4つのコースに分かれて専門分野を学ぶ2年後期からは、福島県内の現場に向いて地域の課題を学ぶ「農学実践型教育」が始まります。本学類の学生は全員が1年半かけて、地域の人たちと交流しながら課題を発見し、解決策を提案する一連のプロセスを経験し、専門的な実践力を身につけていきます。

③ 現代のフードシステムを理解する学際的な学び

農林水産業といった原料生産の現場から食品製造業や外食産業まで、現代の農学は、長大化・複雑化する「フードシステム」の流れに沿って課題を解決する必要があります。そのため本学類では4つのコースの教員が密に連携した教育を行うことで、フードシステムに対する幅広い見識と思考力を養います。

④ 学際的なコミュニケーション能力の向上も大切

2年後期から始まる「農学実践型教育」では、4つのコースに所属する学生が混成チームを組んで活動します。この経験によって学生は専門外の知見に触発されるとともに、社会的なコミュニケーション能力を高めます。

CLOSE UP

2

食農学類(仮称)について



2019年4月設置予定の食農学類の入学定員は100名程度。専任教員数は38名程度。学生は2年後期から「食品科学コース」「農業生産学コース」「生産環境学コース」「農業経営学コース」のいずれかに所属します。食農学類の学類棟は、金谷川キャンパス内の「うつくしまふくしま未来支援センター」の隣りに新設。あわせて実験や実習の農場を学内と近隣の農地に設置します。

るために

まった学問です。その意味でも、食農学類の新たな実践型のカリキュラムは、農学本来のあり方を取り戻すチャレンジと言えるかもしれません。

今、農業に新たな可能性を感じて挑戦する若者たちが増えています。これからの日本社会を担う高校生の皆さんには、ぜひ時代のフロントランナーとして、食と農をリードする人材に育っていただきたいものです。

Profile

農学系教育研究組織設置準備室 室長

生源寺 眞一 教授

専門は農業経済学。食農学類(仮称)開設に向けて2017年4月に着任。日本フードシステム学会会長、農村計画学会会長などを歴任。

詳しくは12ページへ

食農学類 (仮称)

Faculty of Food and Agricultural Sciences



「食農専門教育」と「農学実践型教育」の2つの柱からなる農学教育により、実践的に農学を学び、食と農の課題に幅広く取り組む力を養います。

学類のホームページはこちら
<http://www.agri.fukushima-u.ac.jp/>

特長 1 食と農をつなぐ「農学専門教育」

有機的に結びついた「4つの専門コース」で、38名の教員と100人の学生が密接に連携しながら共に学び、専門性と学際的な思考力を養います。

食品科学コース

食品の機能性を先端技術から科学する

常に高度に発展した解析技術を理解し、食品加工技術や発酵・醸造技術に落とし込み、地域の素材を生かして「新たな食産業」を生み出していける人材を養成します。



農業生産学コース

高品質農作物を最新技術から開発する

作物の状態を的確に解析・診断し、最適化した品種や栽培技術を開発し、「農業を実践から指導」まで幅広く行える人材を養成します。



生産環境学コース

持続可能な農村作りとICT(情報通信技術)を融合する

農林業の現場を知り、環境マネジメントから地域計画まで幅広く修得し、総合力を発揮して、「自治体や農業団体を牽引」できる人材を養成します。



農業経営学コース

農業経営と流通構造を戦略的に学ぶ

先進的な農業生産技術を理解したうえで、付加価値をつけた商品をどのように売るか、高度なマーケティングに挑戦することにより「もうかる農業」を実現できる人材を養成します。



例えば
食農学類の4コースが学際的に福島産農産物を国内外にアピールする方法を学ぶとしたら?

食品科学コースでは

最先端の分析技術をもとに、地域ごとに食品の機能性解析を行い、農産物に高付加価値を見出します。

農業生産学コースでは

地域にあった作物を開発・探索するとともに適正な管理技術を開発し、高品質な農作物を生産する方法を確立します。

生産環境学コースでは

周辺の農林環境や農村構造を解析し、作物が効率的に育つ環境を整備し、鳥獣害の対策を最新のフィールドICT(情報通信技術)を利用しながら行います。

農業経営学コースでは

商品・顧客を高度にマーケティング分析することで、高機能商品を的確にアピールする方法を探ります。

ゴール!

4コースそれぞれが専門性を活かしながら「高付加価値のある福島産農産物を国内外に広くアピールすること」を考え、学ぶ力を身につけます。



地域課題・キーワードの例

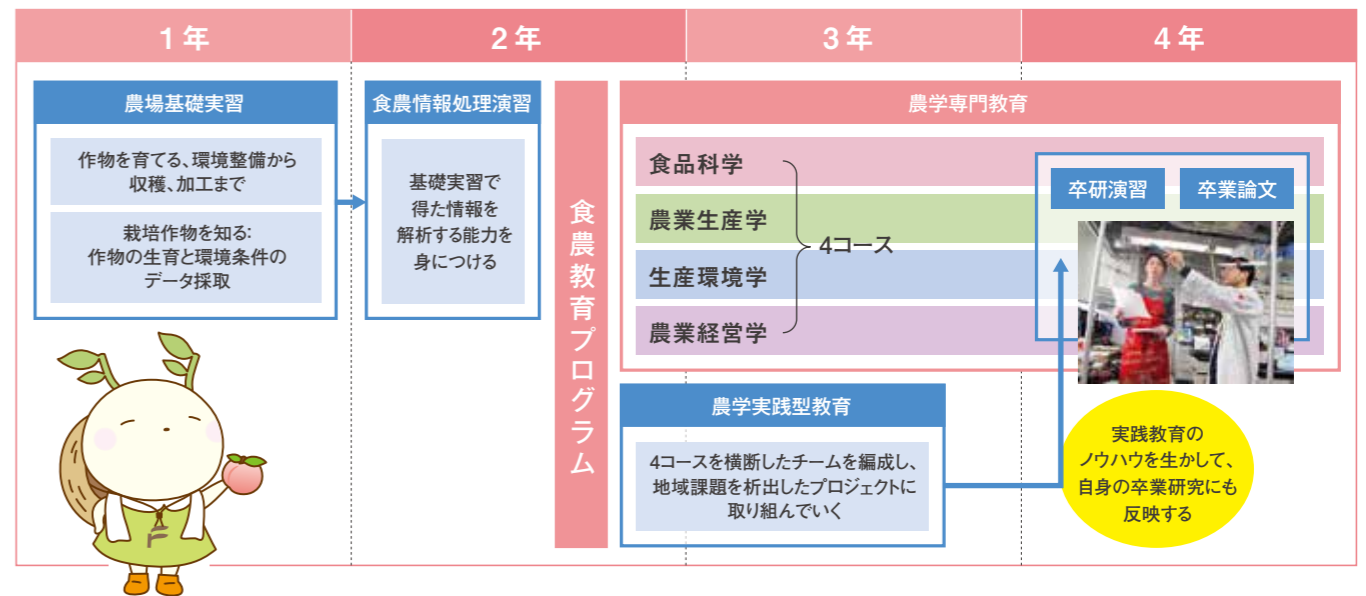
- 6次産業化
 ワイン・日本酒、発酵食品(納豆・味噌など)、機能性食品、医福農連携
- 福島ブランドの復興
 県特産品のブランディング(米・畜産・園芸)、風評払拭、地産地消マルシェ
- 先端農業の推進
 スマート農業とICT(情報通信技術)活用、農産物認証、「もうかる農業」の事業モデル構築
- 地域再生
 里山再生、循環型農業、菜の花で地域づくり、バイオマス活用と地域創生

特長 2 福島全域がキャンパス「農学実践型教育」

福島県全域を教育のフィールドとして、地方自治体・農業関係組織と密接に連携しながら、地域が抱えている課題の解決を目指す7+2のプロジェクトを設置します。このプロジェクトでは、学生・教員全員が地域に通いながら、課題の発見から解決策の提案までを経験し、現場ニーズへの対応力や専門知識を応用する実践力を身につけます。



◎カリキュラム体系イメージ



取得できる資格(予定)

- 高等学校教諭一種免許(農業、理科*)
- 食品衛生管理者(任用資格)
- 食品衛生監視員(任用資格)
- 食の6次産業化プロデューサー
- 測量士補
- 危険物取扱者
- フードスペシャリスト
- HACCP管理者 など

想定される主な進路

- 食品関連企業
- 農業生産法人
- 農林技術職
- (国家・地方公務員、JAなど)
- 高校教員(農業、理科)
- 農業・農村起業家
- バイオマス関連企業
- 医薬品メーカー
- 試験研究機関
- IT・エレクトロニクス産業
- 地域おこし協力隊
- 復興支援員 など

*他学類で開講されている授業科目の単位修得により取得できる免許です。

◎主な専門教育科目

食品科学コース	食品機能学I・II、食品分析学、食品素材科学、食品加工学I・II、食品保蔵学、発酵・醸造学I・II、食品安全学
農業生産学コース	作物育種学、稲作学、環境保全型農業論、園芸学(蔬菜、花卉、果樹)、応用昆虫学、植物病理学、土壌科学、植物栄養学、飼料資源学
生産環境学コース	森林育成学、森林保護学、森林利用学、里山管理論、農村計画学、水資源利用学、土壌物理学、農業リモートセンシング、スマート農業論、土壌生態学
農業経営学コース	農業経営学、食品マーケティング論、フードシステム論、協同組合論、農業政策学、農林資源経済論、農業物流通論、アグリビジネス論

*内容は構想段階(平成30年4月1日現在)であり、科目名などは変更になる可能性があります。

人間発達文化学類

生涯を通じた学びや人の成長を支える人材を育成
Faculty of Human Development and Culture

教育実践コース

学校教員になりたい人を中心としたコースです。今、学校は複雑な社会環境にさらされています。多様化する学校現場での実践力と即戦力を育成します。

心理学・幼児教育コース

心理学や幼児教育を広く深く学んだうえで、学校教員や公務員心理職、あるいは幼稚園教諭や保育士を目指す人に向いているコースです。

特別支援・生活科学コース

知的障害・肢体不自由などサポートを必要とする子どもの発達支援をしたい人や、生活の基礎を学び、学校教育や関連分野で活かしたい人に向いているコースです。

芸術・表現コース

芸術表現者の育成とともに、音楽や美術にかかわる小中高校教員やアートコーディネーターなど、芸術の力を地域で活かせる人材を育成します。

人文科学コース

言語や文学、地域や社会のあり方、歴史や思想について広く学ぶコースです。人文学諸分野の知識を活用した仕事に就きたい人や、学校の教員を目指す人に向いています。

数理自然科学コース

社会において数学や自然科学に深く関わっていきたい人や、算数や理科に強い小学校教員、また中・高の数学教員を目指す人に向いているコースです。

スポーツ健康科学コース

体育教員になりたい人、一流のアスリートやコーチを目指す人、さらにスポーツを通して地域に活力を与える仕事をしたい人に最適なコースです。

学類のホームページはこちら <http://hdc.educ.fukushima-u.ac.jp/> >>>



- 学士(発達文化)
- 幼稚園教諭一種免許状
- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状 (国語/社会/数学/音楽/美術/保健体育/家庭/英語/理科※1)
- 高等学校教諭一種免許状 (国語/地理歴史/公民/数学/音楽/美術/保健体育/家庭/英語/理科※1)
- 特別支援学校教諭一種免許状※2



P.16

など

行政政策学類

「地域・自治の時代」のニーズへ学際的に取り組む
Faculty of Administration and Social Sciences

地域政策と法コース

地域社会の課題に取り組むには、住民の多様な参加と幅広い合意形成を目指す「自治」の仕組みを活かすことが不可欠です。地方議会の活性化や市民活動の充実など、「自治」の新たな時代を生み出そうとする試みも広がっています。地域の実情を的確に捉えながら、地域の「自治」を支える法や行政の仕組み・運用を知り、政策づくりからその実施、効果の測定と見直しまで、一連のプロセスに取り組むための幅広い知識の修得と実践を目指します。

地域社会と文化コース

よりよい地域社会を目指すには、地域社会の歴史やのもとで、「地域のくらし」を客観的に捉える必要があり、より開かれた文化を生み出そうと試みる人と現状を的確に捉える手法を学び、よりよい地域社会

文化を深く知ると同時に、国境を超えたグローバルな視座を。また、持続可能な地域社会を創るために、新しい暮らしの取り組みから学ぶことも大切です。地域社会の歴史を創るための幅広い知識の修得と実践を目指します。

夜間主(社会人教育)

「働きながら学ぶ」「学びながら働く」人たちのためのコースです。夜間主で学ぶコースは、本学類が設置する「地域政策と法コース」と「地域社会と文化コース」の2つ。長期履修制度や放送大学の活用、昼間の授業の受講など、柔軟なカリキュラムで、「学び」と「仕事」の両立を支えます。

学類のホームページはこちら <http://www.ads.fukushima-u.ac.jp/> >>>



- 学士(法学)、学士(社会学)
- 中学校教諭一種免許状(社会)
- 高等学校教諭一種免許状(地理歴史・公民)
- 社会教育主事(基礎資格)※3
- 学芸員※4
- 社会福祉主事(任用資格)※5



P.26

※ 行政政策学類夜間主は、教員免許状の取得はできません。

経済経営学類

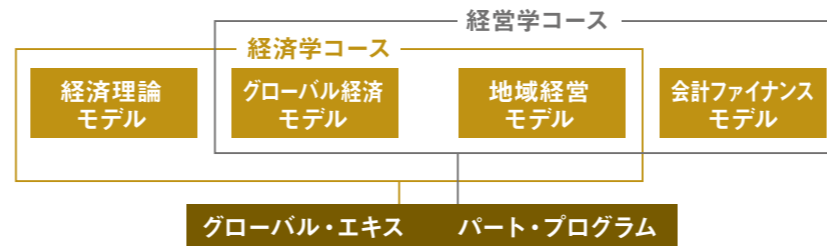
グローバルな視野で経済社会をリードする人材を創出する
Faculty of Economics and Business Administration

経済学コース

これまでの経済分析専攻と国際地域経済専攻を、ひとつの「経済学コース」へと統合しました。経済社会の課題、歴史と現在と未来を考えるために、各教員がこれまで以上に密接に協力し合って研究と教育を進めます。

経営学コース

経営学コースでは、非営利組織(自治体、NPOなど)を含め、より幅広い視野で経営現象を捉えます。とりわけ、地域経済と経営、会計とファイナンス(金融)について、基礎を修めながら垣根を超えて学びます。



学類のホームページはこちら <http://www.econ.fukushima-u.ac.jp/> >>>



- 学士(経済学)
- 高等学校教諭一種免許状(商業)



P.38

共生システム理工学学類

21世紀の課題を「共生の科学・技術」で解決する
Faculty of Symbiotic Systems Science

数理・情報科学コース

数理学・数学、情報科学領域の知識を体系的に学び、高度情報化社会におけるデータ分析やシステム構築に貢献できる人材を育成します。

経営システムコース

経営の諸問題を体系的に整理し、個々の課題をシステムとして捉え、工学的手法を活用して解決策を提示できる人材を育成します。

物理・システム工学コース

物理や機械・電気工学に関する基礎知識の習得を基に、さまざまな分野で役立つ「もの」や「技術」の創出を担うエンジニアを育てます。

物質科学コース

化学を基盤とする物質・材料関連分野について、さまざまな講義や実験を通して体系的に学び、先進的「ものづくり」に貢献する人を育てます。

エネルギーコース

持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育てるため、エネルギー資源の状況と省エネ・創エネ・蓄エネの技術を幅広く学びます。

生物環境コース

生態学、形態学、分類学、遺伝学、微生物学など生物学の基礎を学び、多様な実験・野外実習科目で実践力をつけ、環境・生物保全や自然史に関する素養を持つ人材を育成します。

地球環境コース

地球科学とその応用分野を基礎から学び、複雑な自然現象の解明や各種の環境問題への技術的対応に資する人材を育成します。

社会計画コース

環境を構成する自然、社会、文化を総合的に学び、持続可能な社会の構築に向けた計画を立案・実行できる人材を育成します。

心理・生理コース

心理学や生理学を基礎から学び、人間や動物の心や行動の理解とそのメカニズム解明を目指した専門的研究のエキスパートを育成します。

学類のホームページはこちら <http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/> >>>



- 学士(理工学)
- 中学校教諭一種免許状(理科/技術/数学※6)
- 高等学校教諭一種免許状(理科/工業/情報/数学※6)



P.48

食農学類

主体的・創造的に対応する地域リーダーの育成
Faculty of Food and Agricultural Sciences

食品科学コース

常に発展した解析技術を理解し、食品加工技術や発酵・醸造技術に落とし込み、地域素材を生かし「新たな食産業」を生み出す人を育てます。

農業生産学コース

作物の状態を的確に解析・診断し、最適化した品種や栽培技術を開発し、「農業を実践から指導」まで幅広くできる人材を養成します。

生産環境学コース

農林業の現場を知り、環境マネジメントから地域計画まで幅広く修得し、総合力を発揮して、「自治体や農業団体を牽引」できる人材を養成します。

農業経営学コース

先進的農業生産技術を理解し、付加価値をつけた商品をどう売るか、高度なマーケティングに挑戦したうえで「もうかる農業」を実現できる人を育てます。

学類のホームページはこちら <http://www.agri.fukushima-u.ac.jp/> >>>



- 学士(農学)
- 高等学校教諭一種免許(農業、理科※7)
- 食品衛生管理者(任用資格)
- 食品衛生監視員(任用資格)
- 食の6次産業化プロデューサー
- 測量士補
- 危険物取扱者
- フードスペシャリスト
- HACCP管理者



P.12

など

資格の注釈 ※1 理科については他学類で開講されている授業の単位を取得する必要があります。 ※2 特別支援学校教諭の免許状は単独では取得できず、小学校、中学校、高等学校および幼稚園教諭免許状のうちいずれかを併せて取得 ※3 必要単位を修得し、卒業後、地方公務員として任用され、福祉事務所などの部署に配属される必要があります。 ※4 数学については他学類で開講されている授業科目の単位を修得することにより取得できる免許状。 ※5 他

しなければなりません。 ※6 必要単位を修得し、卒業後1年以上、社会教育主事補としての職に従事することが必要です。 ※7 「博物館に関する科目の単位」を修得することが必要です。学類で開講されている授業科目の単位修得により取得できる免許です。 ※ 教員免許においては、文部科学省における審査の結果、変更となる可能性があります(平成30年6月1日現在)。

人間発達文化学類

Faculty of Human Development and Culture

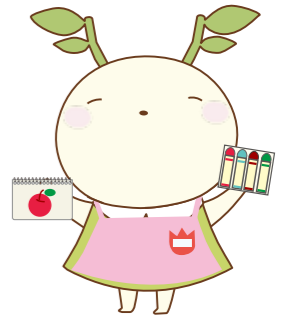
次世代を担う子どもたちの成長を支える学校教員や、文化を通して地域の人たちを支える人材を養成します。

学類のホームページはこちら
<http://hdc.educ.fukushima-u.ac.jp/>



Admission Policy | こんな人に学んでほしい

- 保育士・幼稚園や小学校・中学校・高校・特別支援学校の先生になりたい人
- わかりやすく教えられる先生になりたい人
- 人間の心理や行動の不思議について学びたい人
- 現代生活に関わる衣食住や生活経営について学びたい人
- 音楽や美術について学びたい人
- 日本・アジア・欧米の言語や文学について学びたい人
- 地域や世界の地理・歴史・経済・社会・思想について学びたい人
- 数理学や自然科学について学びたい人
- スポーツ科学や健康科学について学びたい人



2019 学類改革のポイント

3つの専攻を7つのコースへと改編して、各分野における学びの専門性を深めるとともに、広範囲にわたる学習をより柔軟に行うことができるようにしました。また、各コースの学習内容を確かなものとするために、コース専門プログラムを用意しました。

新しい学類構成

教育実践コース

心理学・幼児教育コース

特別支援・生活科学コース

芸術・表現コース

人文科学コース

数理自然科学コース

スポーツ健康科学コース

取得できる教員免許

- 幼稚園教諭一種免許状
- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状
(国語/社会/数学/音楽/美術/保健体育/家庭/英語/理科^{*1})
- 高等学校教諭一種免許状
(国語/地理歴史/公民/数学/音楽/美術/保健体育/家庭/英語/理科^{*1})
- 特別支援学校教諭一種免許状^{*2}

その他の資格

- 社会教育主事(基礎資格)^{*3}
- 保育士^{*4}
- 日本語教員^{*5}
- (公財)日本体育協会公認スポーツ指導者^{*6}
- 社会福祉主事(任用資格)^{*7}
- 公認心理師^{*8}

^{*1} 理科については他学類で開講されている授業の単位を取得する必要があります。
^{*2} 特別支援学校教諭の免許状は単独では取得できず、小学校、中学校、高等学校および幼稚園教諭免許状のうちいずれかを併せて取得しなければなりません。
^{*3} 必要単位を修得し、卒業後1年以上の社会教育主事補あるいは5年以上の学校教員などの教育関係職に従事する必要があります。
^{*4} 15名の定員があります。心理学・幼児教育コース所属のみ取得可能です。ほかのコース所属では取得できません。
^{*5} [日本語教員養成コース]の単位を修得する必要があります。
^{*6} 指定する科目を習得することにより「スポーツリーダー」「スポーツプログラマー」「ジュニアスポーツ指導員」および「共通科目(他のスポーツ指導者資格取得時に必要)」の講習免除資格(講習会の受講が免除される)を取得することができます。上記資格などは卒業年度に日本体育協会の試験を受けることで、付与されます。
^{*7} 必要単位を修得し、卒業後、地方公務員として任用され、福祉事務所などの部署に配属される必要があります。
^{*8} 国家資格「公認心理師」の受験資格取得に必要な科目を開講します。

卒業後の進路

- 保育士
- 幼稚園教員
- 小・中・高校教員
- 特別支援学校(盲学校・聾学校・養護学校)教員
- 社会教育主事
- 児童館専門員
- 学童保育指導員
- 塾講師
- 国家公務員
- 地方公務員
- 専門コンサルタント
- 医療・福祉関連
- 一般企業
- 日本語学校教員
- 英会話講師
- NGO職員
- 銀行員
- SE、マスコミ・出版業
- 旅行・サービス業
- 不動産業
- 商社・企業(国際交流・海外事業担当)
- 社会人教育サービス
- 大学院進学 など
- 音楽教室講師
- 音楽サークル指導者
- イベント企画者
- 劇伴・コマーシャル音楽制作者
- 印刷・広告業
- イラストレーター
- インテリア用品デザイナー
- スポーツ選手
- スポーツ指導者
- フィットネスクラブ
- マスコミ・出版業(スポーツ分野)
- スポーツマネジメント業
- 健康増進産業 など

カリキュラムの特長

コース専門プログラム制による確かな学力と実践的な応用力の形成

人間発達文化学類では、生涯にわたる人間の発達を個人・社会・文化との関わりにおいて支援していく人材の養成を目指しています。保育士・幼稚園教員は心理学・幼児教育コースで、特別支援学校教員は特別支援・生活科学コースで、小学校・中学校・高等学校教員は全コースで養成しています。学類生は、自らの興味・関心や目指す進路に応じて、1年次からいずれかのコースに所属し、各コースの用意するプログラムを選択して学んでいきます。それにより、専門に関する確かな知識・技術と実践的な応用力を身につけることができます。

小・中・高教員は全コースで養成

※カリキュラムは構想段階(平成30年4月1日現在)であり、科目名などは変更になる可能性があります。

	1年次	2年次	3年次	4年次
学びの目標	発達・文化のリテラシー(基礎・基本)を学ぶ 学びのプログラムを選択する	発達・文化の専門的な知識・技術を学ぶ 問題解決型学習の基礎を学ぶ	自ら課題を立て、専門的知識・技術を活用して 課題を解決するなかで、専門的知識・技術の 実践力を身につける	専門的知識・技術をさらに深めると ともに、学びの集大成である卒業研究を 完成させる
基盤教育	接続領域 ・スタートアップ科目 ・ライフマネジメント科目 ・外国語 ・コミュニケーション科目	1年次の授業風景 1年次にはアカデミックスキルを 学ぶ授業があります。		
	教養領域 ・学術基礎科目 ・キャリア設計科目 ・健康・運動科目 ・外国語科目 ・情報科目	・キャリアモデル学習 ・インターンシップ ・教職入門	4年次の授業風景 少人数のゼミで、卒業論文 のテーマについて研究したり、 討論したりします。	
	問題探究領域 ・問題探究科目 ・自主学習プログラム ・問題探究セミナーI	・問題探究セミナーII		



学類長メッセージ

入学時から専門のコースへ主体的に柔軟な学習を

人間発達文化学類は、学生の皆さんが自ら選んだ専門分野について、より深く学ぶことができるように、現在の3専攻という構成を2019年度から7つのコースに改編します。入学の時点から各コースに所属することにより、各分野における専門的な学びをこれまで以上に深めるとともに、その専門的な学びを軸として、一人ひとりの興味や関心、希望する進路などに応じて、主体的に柔軟な学習を行うことができるようになります。

さらに、これまで重視してきた地域での実践をさらに充実させます。課題解決のための具体的な取り組みを通して、子どもたちや地域の方々ともふれあいながら、それぞれの学びの成果を現実の社会に応用する力を養います。

人間発達文化学類長 朝賀 俊彦 教授

研究テーマ／統語と意味の語彙的インターフェイス研究



※平成30年4月1日現在

教員紹介

教育実践コース 阿内 春生(教育の条件整備を考える) 秋山 了(数学科「わかる・できる・おもしろい」授業づくり) 鶴沼 秀雅(社会科教育とカリキュラム開発) 太田 光一(西洋教育思想) 北川 裕子(保健体育科における理論と実践研究) 坂本 篤史(授業研究における教師の学習過程の研究) 齋藤 幸男(学校経営に関する実践的研究) 芝田 直久(社説・コラム等の授業での活用、スピーチや実用英語の研究) 嶋 英治(音楽科における授業理論の研究) 谷 雅泰(日本教育史、近代的学校の起源) 高橋 正人(高等学校における国語科教育に関する指導方法についての研究) 中田 スウラ(競争的学歴世界を変える生涯学習) 浜島 京子(子どもの家庭生活と家庭科の教育) 松下 行則(道徳!好きですか。道徳って何?) 三浦 浩喜(中学校の美術教育の実践的研究) 森本 明(算数、数学の授業とカリキュラムの構成) 野崎 修司(小学校理科教育、エネルギー領域)	渡辺 隆(児童虐待、障害児者の家族支援) 特別支援・生活科学コース 内田千代子(生徒の問題行動、学校精神保健) 大関 彰久(社会の変化に対応した特別支援教育のあり方) 角間 陽子(家庭科教育の研究、生活経営学) 鈴木 晃(住まい方から読み解く居住者のニーズについて) 高橋 純一(障害理解の促進、障害児者の見え方・感じ方) 鶴巻 正子(発達障害児の読書、書字への支援) 千葉 養伍(食品成分とその関連酵素の研究) 千葉 桂子(衣服のデザインと機能、衣生活文化) 中村 恵子(調理のコツとおいしさについて)	佐藤 佐敏(読みの力を高める国語科教育) 佐藤 元樹(英語の言語現象・構文の研究) 澁澤 尚(漢文学、漢字文化、古代の思想・文学・神話、漢字教育) 高木 修一(英語教育学[英語リーディング、英語テストング]) 高田 英和(イギリス文学、文化研究) 高橋 優(ドイツ、ロマン主義の文学と思想) 高橋 由貴(日本近代文学、比較文学研究) 中川 祐治(日本語の文法、語彙、日本語教育) 中村 洋介(自然災害科学、防災教育) 初澤 敏生(地域文化構造の調査と分析) 半沢 康(日本の方言の研究) 牧田 実(コミュニティとまちづくり)		
心理学・幼児教育コース ・知覚・認知心理学 ・社会・集団・家族心理学 ・障害者(児)心理学	・人間関係の発達と保育 ・幼児の環境と保育	・司法・犯罪心理学 ・健康・医療心理学	・保育カリキュラム論 ・総合表現(劇)	・幼児臨床心理学
特別支援・生活科学コース ・知的障害者教育課程論 ・知的障害者の行動観察とアセスメント ・重複障害・軽度発達障害教育総論	・食物学 ・生活経営学	・知的障害者学級経営論 ・知的障害者心理学特講	・人間と衣服 ・住環境学	・食品加工概論および実習
芸術・表現コース ・絵画 ・彫刻 ・美術科教育法	・器楽演奏研究 ・指揮法研究 ・音楽史	・声楽アンサンブル ・ピアノアンサンブル ・音楽科授業研究	・美術史演習旅行 ・美術解剖学 ・芸術学	
人文科学コース ・古代・中世文学史 ・日本語の変異 ・自然災害と人間	・日本史史料講読 ・英語学概論 ・初期近代英米文学	・英語学演習 ・英米文学演習	・現代日本経済論 ・ヨーロッパ古代・中世史	・書道 ・日本語教育実習特
数理自然科学コース ・代数学II ・幾何学II ・確率論・統計学	・理科学習指導論 ・理科の実験指導	・代数学統論 ・幾何学統論	・物質化学 ・生命環境の科学	・地球惑星の科学
スポーツ健康科学コース ・スポーツ運動学 ・スポーツと文化 ・救急処置および看護法	・スポーツ心理学 ・体カトレーニング	・スポーツ指導論 ・スポーツ政策論 ・運動処方	・健康科学演習 ・野外活動	
※代表的な科目です。 学際・教養科目 卒業研究科目 自由選択	コース専門科目以外の学類科目を履修することで、発達・文化に関する 学びの幅を広げる 卒業研究基礎演習 卒業研究演習 卒業論文 プレゼンテーション演習			
アドバイザー教員 学習や進路など大学生活全般のアドバイスを行います。 1年次前期 …… スタートアップセミナー教員 1年次後期～3年次前期 …… 問題探究セミナー教員 3年次後期～4年次 …… 卒業研究指導教員	●左記の担当教員をアドバイザーとする小集団教育を行います。			



人間発達文化学類の学生が 4年間で体験し、学ぶこと

人間発達文化学類では、人間の発達を支援する教育や文化に関する基礎的、専門的知識や技術を有し、社会における現代的、地域的課題への問題意識をもち、それらの解決に実践的に取り組む人材の養成を目指します。学類生は、1年次から7つのコースに所属し、学類基礎、学類専門、自由選択、卒業研究のカリキュラムを通じて学んでいきます。また、専門知識・技術の確実な定着と、認知的・社会的スキルの高度化、学際的課題への対応をはかるために、コース専門プログラムを設置しています。



PICK UP!

1年前期

「自然体験実習」



小中学生が参加する「自然体験学校」を企画運営します。8月の本番に向けて、仲間とともに企画を考え、話し合い、準備する中で、考えを伝える力や聴く力、企画力が身につく。子どもとの関わりのイメージがつかめるとともに、多くの仲間を得られます。

3年前期～

「教育実習」



教師を目指す人にとって必修の科目。理論を知っているだけでは教師は務まりません。理論を実践力として働かせる必要があります。理論を実践力につなげていく最初の学びの場が「教育実習」です。4週間、幼稚園や学校に通って学びます。

2年前期～

「学校教育支援実習」 (学校ボランティア)



学校現場で教員の実務の補助にあたり、実践的指導力を養い、学校理解を深めます。2年次では3年次の教育実習への準備、3・4年次では教育実習で身につけた知識や技能を生かし、教員としての資質能力を高めます。教職登録をした2年生以上が対象です。

人間発達文化学類
教育実践コース
心理学・幼児教育コース
特別支援・生活科学コース
芸術・表現コース
人文科学コース
数理自然科学コース
スポーツ健康科学コース



卒業生と在学生に インタビュー!

実践的な学びと 仲間との交流が支えに

現在、私は小学校で4年生の担任をしています。子どもの成長を見て、支えていける教師の仕事は、とてもやりがいがあります。新任1年目から担任クラスを持つにあたって非常に役立ったのが、教育実習や学校ボランティアでの経験でした。また教員をともに志した大学時代の仲間との交流も私の支えです。現場での悩みを相談し合ったり、実践事例の情報交換をしたりと、いつも刺激を受けています。皆さんも福島大学で実践的な学びをし、たくさんの友人と出会ってください。

福島市立小学校教諭
卒業生 高坂 琴香さん
(2016年度人間発達専攻卒)



理論と実践の両面で バランスのよい成長を

私の目標は、大学院へ進学して研究・実践に携わる心理学の専門家になることです。そのため他大学を卒業後、心理学を学べる人間発達文化学類に学士入学しました。実際に学び始めると、さまざまな心理学の分野の先生が基礎から応用まで幅広く体系的に教えてくれるので、理論と実践の両面がバランスよく成長できていると感じています。現在は青年心理学を扱うゼミに所属しているので、大学院進学後の研究にもつなげていけるような質の高い卒業研究をしたいと考えています。

人間発達専攻4年
在學生 三上 佳祐さん
(青森県立八戸西高等学校出身)



1年次からはじまる専門コース

教育実践コース

教育実践コースは、学校教員になることを目指す学生が中心になるコースです。学校現場は社会・地域の変化など複雑な環境に晒されています。その中で子どもの学びを支え、確実な成長を助ける教員が求められています。本コースでは学校教員として求められる実践力をつけることを目指します。

主な科目

- 子どもと学習活動
- 社会科教育法
- 教育行政学
- 理科学習指導論
- 子どもの歴史
- 家庭科学習指導論A
- 子どもと道徳
- 子どもの生活と遊び
- 国語科教育法
- 子どもと自然A

特徴的な科目

教育の方法A

坂本 篤史

これからの学校教育に向け、何をどのように教えるのかについて広くかつ深く学びます。授業では、今まで受けてきた学校教育を教師側の視点に立って振り返りつつ、具体的な事例や文献資料を基にした学生同士の意見交流や話し合いを通して、自身の授業観を磨いていきます。

算数科学習指導論

森本 明

算数科の学習指導に必要な基礎的・基本的な資質・能力を身につけます。小学校算数科の目的・目標、育成すべき資質・能力、学習指導の内容および学習指導の方法について理解するとともに、指導案作成や模擬授業を通して、算数科授業を構成・実践できるようにします。

心理学・幼児教育コース

本コースは、人の行動・心理についての知識を得るとともに、実験・調査・観察などの科学的手法によって研究を行う心理学の分野と、乳幼児の発達を学びつつ、幼児期に相応しい経験とは何かを探る幼児教育の分野で成り立っています。小学校教員や公務員心理職などをを目指す人、幼稚園教諭や保育士を目指す人に向いています。

主な科目

- 発達心理学
- 保育・幼児教育の人と思想
- 教育心理学
- 幼児発達心理学
- 教育相談心理学
- 保育カリキュラム論
- 心理学的アセスメント
- 幼児の表現と保育
- 教育・学校心理学
- 幼児と音楽

特徴的な科目

心理学的支援法

富永 美佐子

心理的な支援者の状況に応じて、適切な支援方法を選択・調整する力と他職種連携に必要なコミュニケーション力を育成します。心理療法・カウンセリングの知識はもちろん、グループワークで、実践の基礎を経験し、その後の演習・実習につなげます。

臨床幼児教育研究

原野 明子

本授業では、模擬保育を体験しながら、保育に対する理解を体験的に深めていきます。実際に保育をする際には、保育のねらいや時期を設定したうえで、活動内容を決め、保育案を書き、実践します。まずは、体で保育者の動きを少しばかり経験し、その後実習に臨むことになります。

特別支援・生活科学コース

知的障害・肢体不自由・病弱などサポートを必要とする子どもの発達支援に関する理論や、家庭・地域社会に関わる生活科学の基礎について広く学び、実践を通して理解し身につけ、探究していきます。子どもたちの発達を支援し特別支援学校教諭を目指す人や、生活の基礎をきちんと学びたい人に向いています。

主な科目

- 特別支援教育概論
- 食と健康
- 知的障害者の行動分析
- 食生活論
- 病弱者の生理・病理・心理
- 衣服のデザインと機能
- 知的障害者教育指導法
- 住生活学
- 知的障害者教育課程論
- 家庭科教育法・授業研究

特徴的な科目

知的障害者の心理・生理・病理

鶴巻 正子

知的障害児・者への支援を行うためには、その前提となる特性の理解が必要となります。この講義では、心理学、生理学、病理学などの基礎的観点から、知的障害児・者の特性を学習し、支援に生かす方法について学びます。

調理学及び基礎実習

中村 恵子

料理をおいしく仕上げるためには、「料理のコツ」を知って食材を活かす必要があります。この授業では、家庭で扱う基本的な料理作りをとおして、料理のコツといわれる操作の科学的な理由や、調理過程で変化する食品の特性について学習します。

芸術・表現コース

芸術の意義を理解し、音楽や美術に関わる力量を理論的、実践的に身につけるための、芸術の薫り高いコースです。芸術表現者の育成とともに、芸術領域(音楽・美術)を活用できる学校教員(小・中・高)、さらにはアートコーディネーターといった芸術の力を地域で活かせる人材を育成します。

主な科目

- 子どもの音楽表現
- 子どもの造形活動
- 作曲基礎
- 絵画
- 声楽演奏研究
- 彫刻
- ピアノ演奏研究
- 工芸デザイン
- 音楽科教育法
- 美術史

特徴的な科目

ピアノ基礎II

中畑 淳

この授業では、ピアノ演奏のための基本的な技術を学びながら、楽曲を仕上げていきます。また、伴奏法や鍵盤楽器の歴史もとりあげながら、楽曲の解釈研究やピアノによる演奏表現を深めていきます。

素描II

新井 浩

この授業では諸造形科目の基礎となる見方・考え方を学びます。現代のさまざまなメディアから発信される現代的イメージも押さえながら、優れた表現者・教育者に必要な事の本質的把握、ならびに興味を持って事象に迫る探究心を養います。



卒業生と在學生にインタビュー!

漠然としていた将来像が 明確な将来の夢へ

大学生生活は時間の使い方が自由です。授業も、自ら考え、仲間と創り上げるものが多くなります。また地域生活文化クラスでは、社会知識を広く身につけ、人に教えることの大切さと難しさを学びました。ボランティア活動も社会を深く考えるきっかけとなりました。この濃厚な4年間によって漠然としていた将来像が、卒業する頃には明確な将来の夢となりました。今、大学で得た知識と経験を結びつけて考察する力や自己管理能力は、仕事にとっても活かされていると感じています。

静岡県職員
卒業生 佐藤 和也さん
(2013年度文化探究専攻卒)



未来を創る子どもと 地域課題の解決を

私は教師を目指して人間発達文化学類に入学し、教科の専門性を高めるために文化探究専攻を選びました。そして講義や地域の学びの中で、東日本大震災によって生じた福島固有の地域課題などに直面し、今後はそれらを解決していくための教育が必要であると強く感じました。そのためゼミで今、問題解決を特徴とする理科教育と科学的根拠を構成する数学を学び深めています。卒業後は、小学校教員として未来を創る子どもたちとともに地域課題の解決に携わってまいります。

文化探究専攻4年
在學生 菊地 実咲さん
(福島県立福島南高等学校出身)



1年次からはじまる専門コース

人文科学コース

言語や文学、地域や社会のあり方、その歴史や思想など、文化について広く深く学ぶことができます。そのような学びを踏まえて、地域の文化を継承し、発展させていく力を養います。人文学諸分野の知識を活用した仕事に就きたい人、国語・英語・社会に強い小学校教員や、中学・高校の国語・英語・社会の教員を目指す人に向いています。

主な科目

- 漢字・漢文学概論
- 英米文学史
- 現代社会と文化
- 日本文学特講
- ヨーロッパ言語文化論
- 各教科教育法・授業研究
- 日本語教育学概論
- 日本近代社会史
- 英語学概論
- 都市とまちづくりの地理学

特徴的な科目

国語科教育学 佐藤 佐敏

近代文学、古典文学、漢文学、言語学、日本語学といった言語文化の教養をベースとして、国語に強い小学校教員を目指したり、中学校、高等学校の国語の教員免許状を取得したりするために、国語科教育の理論と実践を学習します。楽しく力のつく国語の授業方法を学び合います。

異文化理解 高木 修一

ロールプレイやケーススタディなどさまざまなアクティビティを行い、異文化理解における諸問題を体験します。その後、ペアやグループでのふり返りを通して、異文化コミュニケーションの理論と実践力を身につけます。

戦争と平和の倫理学 小野原 雅夫

本授業では、戦争と平和についての各自の思いを出発点として、グループディスカッションなどを通じて、根拠に基づく確固とした考えへと深化させていきます。非暴力コミュニケーションのワークショップも行い、身近な紛争を解決するスキルも学んでまいります。

数理自然科学コース

身近な自然や先端的課題の中から数学や自然科学に関わる諸問題を見だし、それらを探究的に解決する学びを重ねていくことで専門性を高めていきます。社会において数学や自然科学に深く関わっていききたい人、算数や理科に強い小学校教員、中学・高校の数学教員を目指す人に向いています。

主な科目

- 行列とベクトル
- 基礎解析学
- 代数学
- 幾何学
- 数学科教育法・授業研究
- 子どもと自然
- 物理学
- 物質化学
- 生命環境の科学
- 地球惑星の科学

特徴的な科目

解析学統論 和田 正樹

高校で学んだ数列の極限や関数の連続性について、論理記号を用いた厳密な定義を学び、それに基づいた証明を不等式による評価で行えるようになることを目指します。加えて、関数列の極限などの新しい概念や、それを踏まえた高度な計算の技術について学びます。

理科学習指導論 平中 宏典・水澤 玲子・野崎 修司・村上 正義

小学校の先生を目指す人を対象とした理科の指導法に関する授業です。模擬授業を教員役や児童役として経験する中で、子どもの見方・考え方に沿った授業の創り方、身近な自然を対象とした教材の取り扱い方、具体的な観察実験の方法や安全管理の方法などを学びます。

スポーツ健康科学コース

最新のスポーツ理論と技術を通してスポーツ技能の向上と指導力を高めるとともに、生涯にわたるスポーツライフの実現と健康福祉について学びます。体育教員になりたい人、一流のアスリート、コーチを目指す人、さらにスポーツを通して地域に活力を与える仕事に就きたい人に最適なコースです。

主な科目

- 生理学
- 解剖学
- 生涯スポーツ論
- 運動処方
- スポーツと文化
- スポーツ心理学
- 保健体育科教育法
- コーチング論
- スポーツ医学
- スポーツ実技科目

特徴的な科目

スポーツ企画演習 蓮沼 哲哉・小川 宏

受講生が地域の課題のニーズを調査し、実際にスポーツイベントを企画、準備から開催まで行う授業です。学生が主体となって計画を立て、大学外の各団体などと連携しながら準備を進め、当日のイベント運営まで取り組むことにより、社会で必要な実践力を身につけていきます。

トレーニングマネジメント 川本 和久

トレーニングは、アスリートとしての最高の状態(競技の状態)を作り上げることが最重要課題です。陸上競技のナショナルコーチとしての経験を活かして、トレーニングの周期性と期分け理論をもとに競技力を向上させるためのトレーニング計画の構成方法を紹介します。

PICK UP!

特別支援教育概論

「障害に対する理解を深める」

知的障害や発達障害など、支援の必要な子どもたちの特性と支援方法について主に1年生を対象として基礎的内容を広く学びます。受講した学生の障害に対する理解を深めることも講義のねらいです。



健康科学演習

「運動中の生体情報を収集・分析」

運動や運動をくり返すこと(トレーニング)によってヒトの体は変化します。この演習では、それら生体に関するデータの収集法について習得し、健康やスポーツ競技にどのように活かすかについて学びます。



行政政策学類

Faculty of Administration and Social Sciences

被災地の復興、持続可能な故郷づくり、コミュニティ再生—現代社会が抱える課題のなかで、市民として、職業人として、地域に必要とされる人材を育てます。

学類のホームページはこちら
<http://www.ads.fukushima-u.ac.jp/>



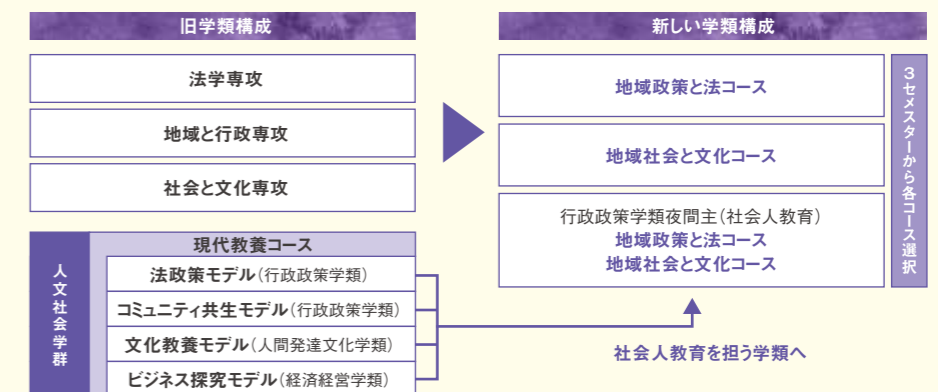
Admission Policy | こんな人に学んでほしい

行政政策学類では、現代の地域社会が直面している諸課題について、広く学際的な観点から学び、より暮らしやすい健康で文化的な地域社会を作り出すために、卒業までに次の5つの力を身につけたいと考える学生を受け入れます。特に夜間主は、働きながら学ぶ人、さまざまな社会経験をもとに学びたいと考える人を対象とします。

- (1) 法・政治・行政・社会・文化などの研究分野に関する基礎的かつ専門的知識
- (2) 国・地域・社会における諸課題を自ら発見し、調査・分析する能力
- (3) 発見し、調査・分析した諸課題につき、解決する能力
- (4) 学際的な創造力で社会に貢献する応用的な能力
- (5) 修得した知識・考察した結果を発表し、議論する能力

2019 学類改革のポイント

地域に学び、地域に貢献し、地域とともに歩んできた行政政策学類は、理論知を実践知とする学びを目標に、創設30周年を迎えました。今回の学類改革にあたっては、従来の3専攻を「法・政治・行政などを柱とする学び」と「地域社会・地域文化・言語文化などを柱とする学び」の2コースに再編すると同時に、2コース間の垣根を低く設定し、学際的かつ柔軟な教育を目指します。また夜間主も4分野の学びから行政政策学類の2コースによる学びに再編し、社会人に特化したカリキュラムを提供します。



取得できる資格

- 中学校教諭一種免許状(社会)
- 高等学校教諭一種免許状(地理歴史・公民)
- 社会教育主事(基礎資格)^{※1}
- 学芸員^{※2}
- 社会福祉主事(任用資格)^{※3}

^{※1} 必要単位を修得し、卒業後1年以上、社会教育主事補としての職に従事することが必要です。

^{※2} 「博物館に関する科目の単位」を修得することが必要です。

^{※3} 必要単位を修得し、卒業後、地方公務員として任用され、福祉事務所などの部署に配属される必要があります。

※ 行政政策学類夜間主では、教員免許状の取得はできません。



卒業後の進路

- 国家公務員(一般職、裁判所職員、国税専門官など)
- 地方公務員(都道府県庁、市町村職員、警察官など)
- 教員(公立学校、私立学校)
- 司法書士・行政書士などの法律専門職(法科大学院進学者を含む)
- 民間企業(建設、製造、運輸、情報通信、金融、医療、専門サービス業など)
- 法人職員(社会福祉法人、商工会議所など)
- NPO/NGOなどのスタッフ
- 大学院進学(福島大学、東北大学など)
- 民間プランナー
- 各種協同組合の職員
- 学芸員(博物館・埋蔵文化財)
- 社会教育関係(公民館)職員
- マスコミなど

カリキュラムの特長

地域課題に取り組む「知と活動の拠点」、行政政策学類。
多様な「学びのかたち」で道を切り拓く!

行政政策学類では、理論研究からフィールドワークまで、さまざまな「学びのかたち」を使って、現代社会の課題や、地域が抱える問題の核心に迫ります。1年次には、幅広い教養を学びながら、「大学での学びの基礎(大学生としての基礎力)」を習得します。2年次進学時には、それぞれの関心にしたがってコースを選択します。3、4年次には、教員+少人数の学生で運営する「専門演習」を基盤に、自分が「解き明かしたい」「解決策を提案したい!」と思う課題に、より専門的に迫ります。「卒業研究」は4年間の学生生活の総まとめ。斬新で個性あふれる研究成果が期待されています。

※カリキュラムは構想段階(平成30年4月1日現在)であり、科目名などは変更になる可能性があります。

	1年次	2年次	3年次	4年次
学びの目標	行政政策学類における学びの基礎を学ぶ	専門教育の本格的開始 アクティブ・ラーニングの実践	専門知識の応用力・実践力を身につける	専門知識を深めるとともに、 大学における研究の成果を示す
基盤教育	接続領域	<ul style="list-style-type: none"> スタートアップ科目(スタートアップセミナー) ライフマネジメント科目 外国語コミュニケーション科目 		
	教養領域	<ul style="list-style-type: none"> 学術基礎科目 キャリア設計科目 健康・運動科目 外国語科目 情報科目 	<ul style="list-style-type: none"> キャリアモデル学習 インターンシップ 	
	問題探究領域	<ul style="list-style-type: none"> 問題探究科目 自主学習プログラム 問題探究セミナーI 		



専門演習
専門演習では、より高度で専門的な手法を用いてテーマや課題に迫ります。参加者はより少人数となり、教員も含めそれぞれの学生が、自らの研究テーマをもって演習に参加することが求められます。専門演習での学びを通じて、4年間の学生生活の集大成としての卒業研究をまとめていきます。

学類長メッセージ

学際的に、アクティブに、
社会に貢献する人材を

行政政策学類は、法・政治・行政・社会・文化を有機的に総合して課題に迫ることを目指す学類として誕生し、30年が経ちました。今回の改革では3専攻から、「法・政治・行政などを柱とする学び」と、「地域社会・地域文化・言語文化などを柱とする学び」の2コースに再編します。そして、互いの分野を学際的に学び合うことにより、「人権」「地域振興」「福祉」「歴史」「言語文化」など多様なテーマを深めていきます。また、行政機関や地域の人々・団体と協働してフィールドワークを行うなどアクティブ・ラーニングを重視しています。夜間主の学生とともに学び合うのも魅力です。行政政策学類での学びを通じて、社会や地域、さまざまな人々に貢献できる人材として育てて欲しいと思います。多くの人々に接しながら、自らの興味関心を伸ばし、自分らしい学びを進めてください。

行政政策学類長 鈴木 典夫 教授



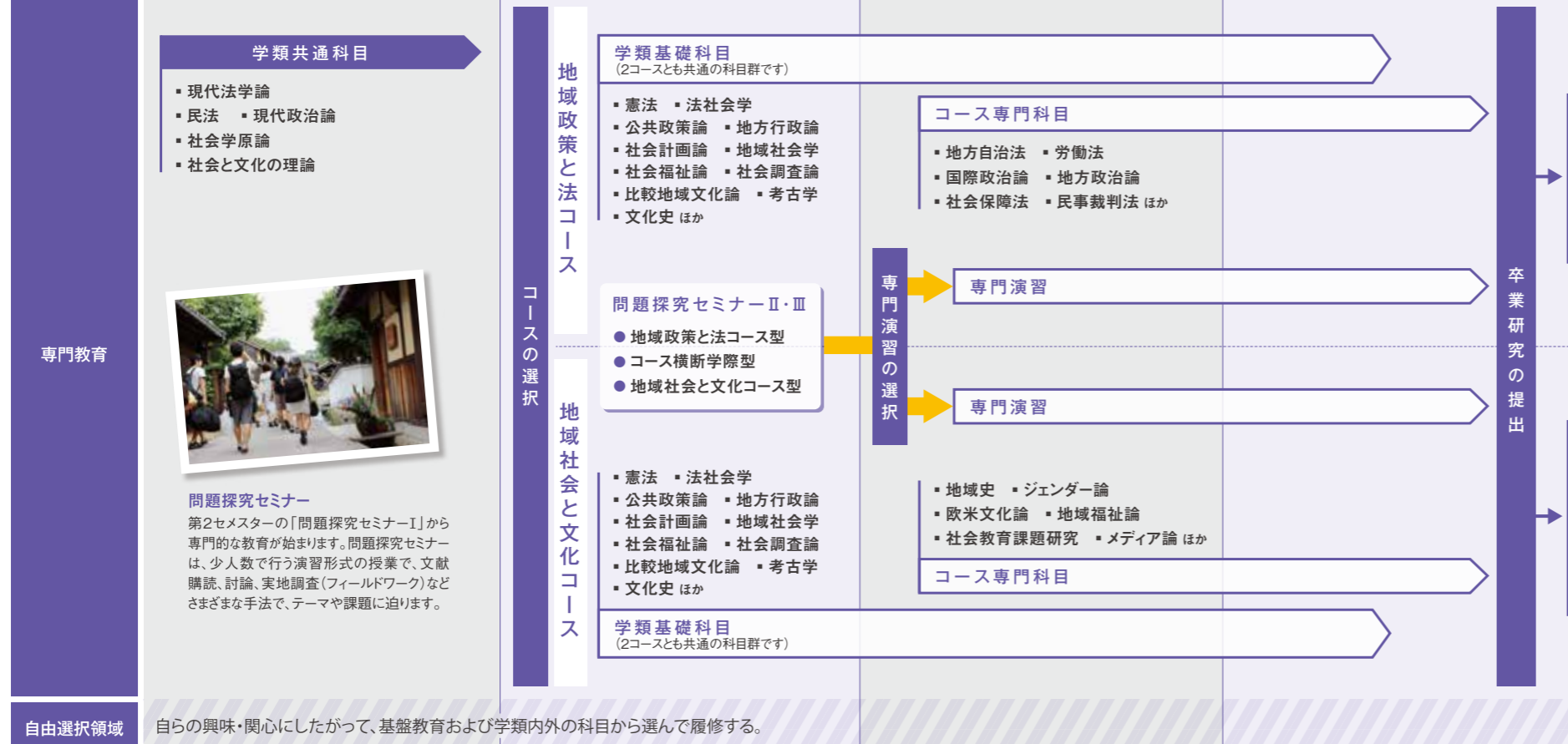
研究テーマ/地域福祉、地域援助技術(コミュニティワーク)



専門演習



法廷教室



問題探究セミナー
第2セメスターの「問題探究セミナーI」から専門的な教育が始まります。問題探究セミナーは、少人数で行う演習形式の授業で、文献購読、討論、実地調査(フィールドワーク)などさまざまな手法で、テーマや課題に迫ります。

アドバイザー教員制度 研究の方法や進路など大学生活全般へのアドバイスを行います。
1年次 …… スタートアップセミナー/問題探究セミナーI 担当教員 2年次 …… 問題探究セミナーII・III 担当教員 3年次・4年次 …… 専門演習担当教員

●少人数教育(最大で20名程度)で、授業担当者がアドバイザー教員となります。

教員紹介

- ※平成30年4月1日現在
- 浅野 かおる (社会教育論、職業教育・訓練論、教育学)
 - 阿部 浩一 (日本中世史、戦国期の地域社会論)
 - 荒木田 岳 (地域制度史、地方行政論)
 - 今西 一男 (都市計画論、都市社会学、社会調査論)
 - 岩崎由美子 (社会計画論、農村社会学、法社会学)
 - 上床 悠 (行政法)
 - 垣見 隆禎 (行政法、地方自治法)
 - 加藤 眞義 (理論社会学、社会学学説史、農村社会学)
 - 金井 光生 (憲法、法哲学)
 - 川端 浩平 (社会学、カルチュラル・スタディーズ)
 - 菊地 芳朗 (考古学による古墳時代社会の復元)
 - 金 炳学 (民事手続法)
 - 金 敬雄 (言語文化交流論)
 - 久我 和巳 (文芸社会学)
 - 切刀 俊洋 (日本政治論、地方政治論)
 - 黒崎 舞 (国際政治学、国際政治史)
 - 後藤 史子 (アメリカ文学、アメリカ学)
 - 阪本 尚文 (憲法)
 - 坂本 恵 (スコットランド・イギリス文学、現代思想)
 - 佐々木康文 (情報化・メディアの発達と社会変動)
 - 塩谷 弘康 (法社会学)
 - 清水 晶紀 (行政法、環境法)
 - 新藤 雄介 (メディア論)
 - 鈴木 典夫 (地域福祉、地域援助技術、コミュニティワーク)
 - 鈴木 めぐみ (国際法)
 - 大黒 太郎 (政治過程論、先進産業社会の比較政治)
 - 高橋 準 (現代社会論、社会運動論、ジェンダー論)
 - 高橋 有紀 (刑事法、刑事政策)
 - 田村奈保子 (フランス文化、フランス文学)
 - 照沼 かほる (アメリカ文化・文学と映画を中心に)
 - 徳竹 剛 (地域史、日本近代史)
 - 富田 哲 (民法)
 - 中川 伸二 (現代政治論、政治学)
 - 中里 真 (民法、消費者法)
 - 新村 繁文 (刑事人権法、権利擁護制度論)
 - 西崎 伸子 (アフリカ地域研究、環境社会学)
 - 西田奈保子 (行政学、都市行政論、都市・地域政策)
 - 長谷川珠子 (労働法、社会保障法)
 - 福島 雄一 (商法、保険法)
 - 真歩仁しょうん (第二言語習得、英語教育、文学)
 - 村上 雄一 (日豪関係史)
 - 山崎 暁彦 (民法、法方法論)



詳しい経歴はこちら



● 1年次:行政政策学類生の始まり!
— 基礎はしっかり、幅広く

行政政策学類生としてはじめの1年は、今後の学びの基礎をしっかりと築くための時間です。英語に加え、第2外国語の授業が始まります。卒業後の進路や生活を考える時間も用意されています。特に大切なのは、2年次以降のような専門領域に進んでも必要とされる基礎知識をしっかりと持つことです。重要な指定科目はもちろんのこと、自分の関心から遠いと思われるような科目も含め、幅広く学んで視野を広げましょう。



PICK UP!

大学で学ぶ方法の習得を目指す
スタートアップセミナー

大学での学びに「教科書」はありません。教科書なしに学ぶってどういうことでしょうか。スタートアップセミナーでは、「大学での学び=研究」の方法とスキルを学びます。メモをとり、関心のあるテーマの文献を探し出し、レジュメを作成し、調査を企画・実施し、仲間と議論する—大学での「研究」の進め方を身につけましょう。

食と農の問題からみえる
日本社会とこれからの農業



佐々木ゼミ1年 山田 棕大さん
(聖光学院高等学校出身)

佐々木ゼミでは、「食と農の問題からみえる日本社会とこれからの福島」とのテーマで、現在の社会問題について議論しています。また農家さんのご協力のもと野菜栽培もしています。最終目標はみんなで育てた野菜でピザを作ること。この1年間、福島だけでなく日本の食と農の未来について考えながら、仲間と一緒に楽しく充実したゼミにしていきたいです。

大学1年生は「大人」?
現代社会におけるその基準を考える



清水ゼミ1年 吉田 陽向さん
(福島県立会津学鳳高等学校出身)

清水ゼミの一番の魅力は、先生を含めた16人のうち中国人4名、ベラルーシ人2名と国際色豊かなことです。そのため、ゼミのテーマである「大人」と「子ども」の境界についてディベートすると、その定義は国によっても異なり、日本人のみで行うディベートとは一線を画した興味深い内容となります。そのため毎週木曜日は胸を弾ませながらゼミに足を運んでいます。

文献検索、議論の進め方…
大学生の必須技能を楽しく身につける



久我ゼミ1年 及川太基さん
(宮城県石巻高等学校出身)

演習テーマは、大学での研究活動の基礎となる文献探査や議論の進め方、レポートの書き方といった必須技能を学ぶことです。最初はみんな四苦八苦でしたが、チームに分かれて議論したりすることでできるようになってきました。今だからできること、このメンバーだからできることはたくさんあります。個性豊かなメンバーと全力で楽しみ、成長していきたいと思っています。

学生生活は自分たちでつくる!

学友会と
学生自治

私たち学友会学生部会は、行政政策学類の学生自治会として、「学生主体」をテーマに活動しています。その活動は、学生間の親睦を深めるイベントの企画、運営やオープンキャンパスのスタッフなど多種多様ですが、役員全員で協力して行っています。皆さんも私たちと一緒にこの行政政策学類をもっと良い学類にしてみませんか?



学友会学生部会執行委員長
地域と行政専攻3年
三浦 瑠歌さん
(福島県立安達高等学校出身)

合宿ガイダンスと
シニター制度

シニターとは、行政政策学類にしかない新生たちの大学生活をサポートする組織のことです。履修指導や交流会などを企画、運営しています。一泊二日の「合宿ガイダンス」では、ゼミでの討論会や、体を動かすウォークラリーなど楽しいイベントが盛りだくさんです!一緒に最高の思い出を作りましょう!お待ちしております!



シニター2018事務局長
地域と行政専攻3年
柴田 雄登さん
(秋田県立湯沢高等学校出身)

行政政策学類
あぶくま学生支援事業

入学して大学生活が始まり、新しい友達がたくさんできると、みんなで何か面白いことをやりたくなります。行政政策学類「あぶくま学生支援事業」は、そうした皆さんの気持ちを形にするお手伝いをする基金。行政政策学類の卒業生たちでつくる同窓会「阿武隈会」からの寄付金が原資となっています。持ちこまれた斬新な企画には、最大10万円の予算が準備されます。審査員の度肝を抜く、わくわくする企画が実現しています!

採用
プロジェクト

台湾の学生と交流するワン!
仲良くしてニャン♥♥♥



行政政策学類1年 衣笠 彰眞さん
(宮城県白石高等学校出身)
22名のプロジェクトメンバーと台湾を訪問し、台北大学社会学部の皆さんとフィールドワークや台北市内のまち歩きを行います。台湾の食文化や歴史、同世代の学生の政治とのかかわり、先住民族のこと、地震災害などなど、事前に勉強したうえで、本当の台湾を確かめに行きます。



卒業生

株式会社オリエンタルコンサルタンツ
岡崎 遥香さん
(2015年度地域と行政専攻卒)

卒業生と在学生にインタビュー!

在学生

社会と文化専攻4年
菅野 正樹さん
(福島県立福島高等学校出身)

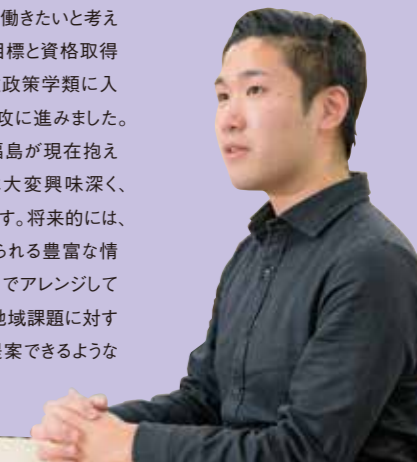
ゼミでの学びが今に大きくつながっています

私は現在、東京の総合コンサルタント会社で企画提案営業などを行なっています。顧客は主に行政組織です。大学時代、行政組織の仕組みや役割について座学で学び、地域住民や自治体職員の方々とフィールドワークで関わることができたことが、今につながりました。またその時に抱いた“行政の中から地域のために活動するのではなく、行政ができないことを支援したい”との思いは、今も仕事へのモチベーションとなっています。今後も地域住民の暮らしに役立つ提案を行ってまいります。



学類での学びを通じて地域の将来をより良いものに

以前から福島県内で働きたいと考えていたので、自分の目標と資格取得のことを踏まえ、行政政策学類に入学し、社会と文化専攻に進みました。実際、地域文化や福島が現在抱える問題を扱う講義は大変興味深く、重要な情報が多いです。将来的には、行政政策学類で得られる豊富な情報と経験を自分の中でアレンジして応用させ、将来的な地域課題に対する具体的な対策を提案できるような人材になりたいです。



2年次:コース選択とアクティブ・ラーニング

行政政策学類には、「地域政策と法コース」と「地域社会と文化コース」の2つのコースが設置されています。地域社会の課題に取り組み、よりよい地域社会に向けた新しい道を切り開くことを目指すという行政政策学類の目指すものは共通していますが、学生は、それぞれの関心にしたがって自ら進みたいコースを選択し、2年目(3 Semester)からは、それぞれのコースで本格的な研究に取り組むことになります。コースは2つですが、現代の地域社会が抱える課題は数多く、学生一人ひとりが抱える研究テーマも無限にあります。それぞれのコースに所属しながらも、自分が抱える研究テーマに必要な講義は自由にとることができますし、関連文献の検索、フィールドワークの計画と実施、地域活動の参与観察など、自らが主体的かつ積極的にオリジナルな研究計画を立て、それぞれの研究を深めていくことになります。

「地域政策と法コース」と「地域社会と文化コース」の選択

「地域政策と法コース」では、法政策や地域行政にかかわる科目を総合的に履修し、法や行政の仕組みや運用の分析、政策形成プロセスの検討、自治体の取り組みや市民活動を知るフィールドワークなどを通じて、新しい地域づくりに取り組む力を身につけます。「地域社会と文化コース」では、社会と文化にかかわる科目を総合的に履修し、社会調査や比較地域研究、発掘調査などを通じて地域社会をより客観的に捉える手法を習得するとともに、新たな地域社会と文化の創造に向けた各地の取り組みを学び、新しい地域づくりの主体となる力を身につけます。

問題探究セミナー 地域政策と法コース

「『行政する住民』の研究」

人口減少社会のなかで、「住民」が公務・公共役務・公共サービスを担うことが増えています。「住民自治」や「協働」の名のもと、無料または奉仕の形で「行政」の役割を担う住民が、どのような制度の下、いかなる現状にあるのかを、文献講読や社会調査の手法を通じて明らかにします。



問題探究セミナー 地域社会と文化コース

「地方都市の若者の世界観」

本セミナーでは、自分の身近な世界で起きていることや「他者」の存在について学びなおすために、身近な世界のフィールド調査を行ってその手法を学びます。また地方都市の若者の世界観に関する文献を通して、観察した事象を言語化するためのスキルを学びます。



3年次・4年次: 学生生活の成果を形に —「卒業研究」に向けて

行政政策学類生は、卒業時に「卒業研究」を提出します。卒業研究は、いわば、4年間の学生生活の総決算。その作成に向けて、どの講義や専門演習を履修し、どのような調査やインターンシップを実施するかなど、自ら学びのプロセスを作り出していくことになります。アドバイザー教員や専門演習の仲間たちとともに、それぞれの問題意識やテーマにしたがって、オリジナルで個性あふれる卒業研究をまとめることが求められます。



センパイたちの学び

センパイ A

将来は国際連合の職員になりたいくて、多文化共生社会について学んでいます。

社会と文化専攻4年 阿倍 浩佑さん
(福島県立安積黎明高等学校出身)

国際文化交流論演習(村上ゼミ)に所属
主に、オーストラリア社会や国際文化交流について学びます。

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 3年次に選択した科目 | 4年次に選択した科目 |
| ● 欧米文化論 ● 比較地域文化論 ● 言語文化論 | ● 専門演習(ゼミ) ● 憲法 ● 行政法 |

卒論のテーマ:
日本とオーストラリアにおける「多文化主義」の比較研究

センパイ B

選挙や地方政治に関心があり、課題解決の生きた学びを経験

地域と行政専攻4年 春菜 孝明さん
(市立函館高等学校出身)

現代政治論演習(中川ゼミ)に所属
地方議会をフィールドに、地方政治を学んでいます。議員の方と懇談を持ちたり、議会活動を分析したりしています。

- | | |
|---------------|--------------------|
| 3年次に選択した科目 | 4年次に選択した科目 |
| ● 労働法 ● 地方政治論 | ● 国際政治論 ● 専門演習(ゼミ) |

卒論のテーマ:
労働組合の選挙支援とその効果



卒業生

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
土谷 一貴さん
(2012年度地域と行政専攻卒)

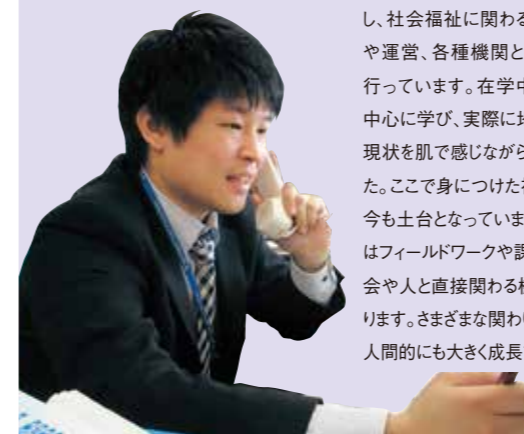
卒業生と在學生にインタビュー!

在學生

地域と行政専攻3年
土田 有夏さん
(福島県立福島高等学校出身)

社会と関わるチャンスが多く「活きた学び」が経験できます

現在は全国社会福祉協議会に勤務し、社会福祉に関わる研修会の企画や運営、各種機関との連絡・調整を行っています。在学中は地域福祉を中心に学び、実際に地域に赴くことで、現状を肌で感じながら知識を深めました。ここで身につけた視点や考え方は、今も土台となっています。福島大学にはフィールドワークや課外活動など、社会や人と直接関わる機会がたくさんあります。さまざまな関わりを経験しながら、人間的にも大きく成長できる大学です。



フィールドワークを通して得られる判断力や行動力

将来的に公務員として地域に関わることを考え、行政政策学類に入学しました。経済についても興味があるので、他学類の専門分野も学べる福島大学のカリキュラムはありがたいです。現在はゼミで飯館村にフィールドワークに行き、復興の様子を映像記録に残す活動をしています。この活動を通してコミュニケーション力や判断力、行動力が身につきました。また行政政策学類は、勉強面以外でも仲間と一緒に協力しながら活動する機会が多いので、そこで得られる達成感も多いです。



講義だけじゃない

行政政策学類 まなびのかたち

大学での学びは、「講義を聞くこと」だけではなくありません。行政政策学類には、さまざまな「まなびのかたち」が用意されています。

法学専攻3年 助川 琳太郎さん
(福島県立白河高等学校出身)
行政政策学類では、法律討論会という法律問題についてのゼミ対抗の発表会が行われています。専門的な知識が必要とされる法律に関する問題を、わたしたち学生が中心となり解答を作り出していきます。難題を自力で解くこと、知識を上手く伝えること、などを学ぶためのいい経験になりました。

法律討論会



地域は大学生のフィールドだ!

大学を出て、地域での活動を通じて学ぶことの多い行政政策学類。特徴あるいくつかの科目や取り組みを紹介します!



社会教育課題研究

社会と文化専攻4年 長尾 由莉菜さん
(学校法人尚志高等学校出身)
「地域づくりと住民」という視点のもと、年間を通して公民館の事業に関わっていきます。実習に取り組むなかで、自ら課題を発見する力や地域住民との接し方など、多様な方面で力をつけることができました。



ゼミでの地域活動

地域と行政専攻4年 齋藤 一騎さん
(福島県立福島西高等学校出身)
帰村後の飯館村で農地をどう使い続けていくか、やりがいと収入のある仕事をどう作るかという課題に、大久保・外内集落と協働でとりにくんでいます。集落内の農地で荏胡麻を栽培、搾油し、飯館村の道の駅での販売を目標に活動しています。



考古学実習

社会と文化専攻4年 安藤 史章さん
(福島県立須賀川桐陽高等学校出身)
考古学実習では、考古学に関わるさまざまな作業を行います。室内作業は遺物の実測などで、屋外作業は測量や発掘です。そして、年間の実習成果を報告書にまとめ刊行しています。

02

海外フィールドワーク実習

地域と行政専攻4年 渡部 嘉子さん
(福島県立小野高等学校出身)
ドイツの農村地域で進む「再生可能エネルギーによる村づくり」。その取り組みは、人口数百～数千人規模の小さな自治体が担っています。住民800人の村にホームステイしながら、住民とのサッカー交流や農家訪問などを通じて、日本における持続可能な地域づくりに



何が必要かを学びました。

03

学生論文集「嶺風」

嶺風編集委員会委員長
社会と文化専攻3年 佐々木 春奈さん
(秋田県立横手高等学校出身)
行政政策学類では学生論文集「嶺風」を学生が主体となって一から作成しています。研究論文をはじめとして、エッセイや小説などジャンルを問わずさまざまな作品を掲載しています。論文の書き方や大学での学びをイメージできる良い機会かと思えます。ぜひ一度手に取って読んでみてください。



行政政策学類
夜間主

「働きながら学ぶ」「学びながら働く」
一より深く、専門的に、仕事や社会とむきあうために

毎日仕事に出かけ、そのうえ大学に通って学ぶのは、確かに大変です。しかし、「働きながら学ぶ」「学びながら働く」という大学生活は、人生のなかできっと得がたい経験になるはずです。「大学でもっと専門的な知識を得て、キャリアアップを目指したい」、「仕事のなかで直面した課題や新たなテーマにじっくり取り組んでみたい」、「幅広い教養を得て、自分の人生をもう少し客観的に見直してみたい」、「仕事と学生生活、二足の草鞋(わらじ)で社会経験を豊かにしたい」、「以前諦めてしまった大学進学を、今こそ実現したい」——理由はいろいろでも、「働きながら学びたい」、「学びながら働きたい」という願いに応えるために、行政政策学類は、夜間開講の授業を主として受講して卒業を目指す「夜間主」を開設します。夜間主で学ぶコースは、本学類が設置する「地域政策と法コース」と「地域社会と文化コース」の2つ。2年次(3セメスター)への進学時に、それぞれの関心と目標に合わせて、どちらかのコースに進みます。卒業時に得られる学位は、それぞれ「学士(法学)」(地域政策と法コース)と「学士(社会学)」(地域社会と文化コース)です。長期履修制度や放送大学の活用、昼開講の授業の受講など、行政政策学類夜間主は、「学び」と「仕事」を両立させるための柔軟なカリキュラムを用意して、みなさんの大学生活を支えます。



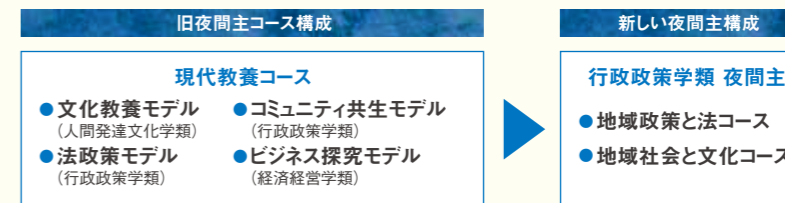
- 1. 夜間開講の授業の履修を基本としながら、柔軟な単位取得を可能にするカリキュラム**
行政政策学類の昼開講授業の履修(受講数に制限あり)、放送大学や資格試験を利用した単位取得、長期履修制度などを組み合わせ、それぞれの就労状況に合わせて柔軟に学生生活を設計可能です。
- 2. 入学科・授業料は半額**
これまでの「現代教養コース」同様、入学科や授業料等は、半額となっています。
- 3. 2つのコースを選んで地域課題に学際的にアプローチ**
2年次進学時(3セメスター)から、それぞれの関心と目標にしたがって、「地域政策と法コース」もしくは「地域社会と文化コース」を選択します。
- 4. 卒業時に得られる学位は「学士(法学)」、もしくは「学士(社会学)」**
卒業時には「学士(法学)」もしくは「学士(社会学)」が授与されます。
- 5. アルバイト・パートのみなさんもチャレンジ可能!**
年齢が22歳に達している人、もしくは、年齢が22歳に達していなくても入試出願時に就職している人(主婦・主夫業も含みます)、または、入学後に就業しながら(労働時間が週平均20時間以上)大学に通う意思がある人は、受験・入学することができます。

※詳しくは募集要項をご確認ください。

福島大学の「夜間主コース」は大きく変わります!

福島大学は、主に夜間開講される授業を履修して学士取得コースを設置し、「働きながら学ぶ」「学びながら働く」人たちの「知」と「スキル」の学びを提供し、これまで多くの人材編に合わせ、「夜間主コース」は大きく再編されます。これまで学類の2コースが、福島大学の伝統ある社会人教育の役割

を目指すコース(夜間主)として「現代教養コース」に、職業人として地域の課題解決にとりくむたを送り出してきました。2019年度の全学再での「現代教養コース」に代わって、行政政策学類を担います。



行政政策学類

地域政策と法コース



主な授業科目

- 社会科学の基礎
- 現代法学論
- 自治体の政治
- 現代政治論
- 企業組織と法
- 自治体の行政
- 日常生活と民法
- ほか、指定された放送大学の科目 など

こんな人に学んでほしい

- 公共部門の仕事に関心があり、法律の運用や政策形成プロセスの実務を学びたい人
- 職業で法律の専門知識を必要とする方や、地域や市民の合意形成に関心のある人
- まちづくりや地域の活性化に興味があり、とくに法や政策の視点から学びを深めたい人

卒業時に得られる学位 **学士(法学)**

行政政策学類

地域社会と文化コース



主な授業科目

- 社会科学の基礎
- 現代社会と計画
- 現代文化論
- 地域と文化の歴史
- 現代の地域問題
- 現代社会と計画
- 現代社会と文化
- ほか、指定された放送大学の科目 など

こんな人に学んでほしい

- 農山村や地方都市の生活実態を知り、地域の持続可能性を高める施策や計画に関心のある人
- 地域福祉や歴史・文化史に関心があり、公共部門やNPOなどで専門的業務に携わりたい人
- 法律の運用や政策形成に社会の実態や課題をよりリアルに反映させたいと考える人

卒業時に得られる学位 **学士(社会学)**

卒業後の進路

- 就業中の職種へのフィードバック
- NPO/NGOなどのスタッフ
- 大学院進学
- 国家公務員(一般職、裁判所職員、国税専門官など)
- 地方公務員(都道府県庁、市町村職員、警察官など)
- 司法書士・行政書士などの法律専門職
- 民間企業(建設、製造、運輸、情報通信、金融、医療、マスコミ、プランナーなど)
- 法人職員(社会福祉法人、商工会議所など)
- 学芸員(博物館・埋蔵文化財)
- 社会教育関係(公民館)職員 など

取得可能な資格

- 社会教育主事(基礎資格)^{*1}
- 学芸員^{*2}
- 社会福祉主事(任用資格)^{*3}

^{*1} 必要単位を修得し、卒業後1年以上、社会教育主事補としての職に従事する必要があります。
^{*2} 「博物館に関する科目の単位」を修得する必要があります。
^{*3} 必要単位を修得し、卒業後、地方公務員として任用され、福祉事務所などの部署に配属される必要があります。

※カリキュラムは構想段階(平成30年4月1日現在)であり、科目名などは変更になる可能性があります。

被災地での復興活動体験を地元の活性化へ

私は将来的に大好きな地元黒磯の活性化にかかわりたいと考え、幅広い学類の授業を受けられる夜間主コースを選択しました。現在はコミュニティ共生モデルのゼミ活動で飯館村での復興活動や地域問題の日独比較、研修などを行っています。地域活性化にはその地域のどこに問題の核があるかを見抜く力が重要です。現場に行って五感で体験する大切さも学びました。卒業後は大学で得た知識と経験値と人とのつながりを活かしながら、黒磯を盛り上げていきたいです。

行政政策学類(現代教養コース) コミュニティ共生モデル4年 **大林 裕太さん**
(栃木県立黒磯高等学校出身)



大学での学びを、自分の仕事にフィードバックして

私にとって学ぶことの意義は、働く場から少し距離を置いたところで社会を見つめ直し、仕事にフィードバックすることです。現代教養コース在学中は、自由な対話の中でさまざまな気づきが得られました。福島県は今、2040年頃をめどに、県内のエネルギー需要量100%以上を再生可能エネルギーで生み出すという目標を立てています。私はこの目標実現に向け、福島県をこの分野の先駆けの地とするべく、その中核的機関で海外連携の推進を図る仕事をしています。

エネルギー・エージェンシーふくしま **清松 美穂さん**
(公益財団法人福島県産業振興センター) (2016年6月現代教養コースコミュニティ共生モデル卒)



経済経営学類

Faculty of Economics and Business Administration

〈100年の伝統と実績〉を引き継ぐ学類として、幅広い教養と経済・経営の専門知識をもって、未来を拓く実践力をもつ人材の育成を目指しています。

学類のホームページはこちら
<http://www.econ.fukushima-u.ac.jp/>



Admission Policy | こんな人に学んでほしい

経済経営学類では、グローバルな視野に立って現代の経済社会を理解し、経済と経営に関わる専門的な知識および能力を身につける意欲を持ち、卒業するために次の3つの力を身につけたいと考える学生を受け入れます。

- (1) 社会の課題に主体的、実践的に取り組み、客観的に分析し、論理的に思考する力
- (2) グローバルに思考し、必要な実践に進む力
- (3) 自立し、協働する力

2019 学類改革のポイント

今日的な課題も見据えた骨太のリテラシー科目

経済経営学類生にとって共通の学術基礎となるリテラシー科目を再編しました。必修科目(リテラシーA)にはデータ・サイエンス時代を見据えて「入門統計学」を加えました。選択必修科目(リテラシーB)には「多文化理解」と「地域と経済」を加え、大学生活の早い段階から、世界と地域を〈両利き〉で捉えるグローバルな視点に触れます。

垣根を超える、コース/モデル制

2年後期から所属する専門分野として、これまでの3専攻を2つの「コース」へ再編しました。これにより経済学と経営学をより横断的・多角的に学べるようになります。そのうえで、効果的な履修の道標となる4つの「モデル」を設定しています。

フィールドで学ぶ。アクティブに学ぶ。

今日的な課題解決能力を高めるために、フィールド・スタディや能動的な学びの場を多数用意しました。

詳しくは46・47ページへ

経済経営だからこそ学べる、これからの「働き方と暮らし方」

昨今「働き方改革」やワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の重要性が叫ばれています。将来のために夢と「武器」をもつことは大切ですが、長い人生で自分と自分の周りの人びとを守りながら働き暮らしていくためには、夢と「武器」だけでは足りません。

経済経営学類には、多角的で現実的な内容をもった「キャリア形成論」をはじめ、労働制度や社会保障についての科目を通じて、身を守ることも学んでもらう用意があります。他方で人材マネジメントに関する科目から経営の考え方を学術的に知ることでもできます。

わたしたちは学問の世界から学生の皆さんに伴走する存在でありたいと思っています。社会を生きるための「護身術」をいっしょに学びましょう。

取得できる資格

- 高等学校教諭一種免許状(商業)

卒業後の進路

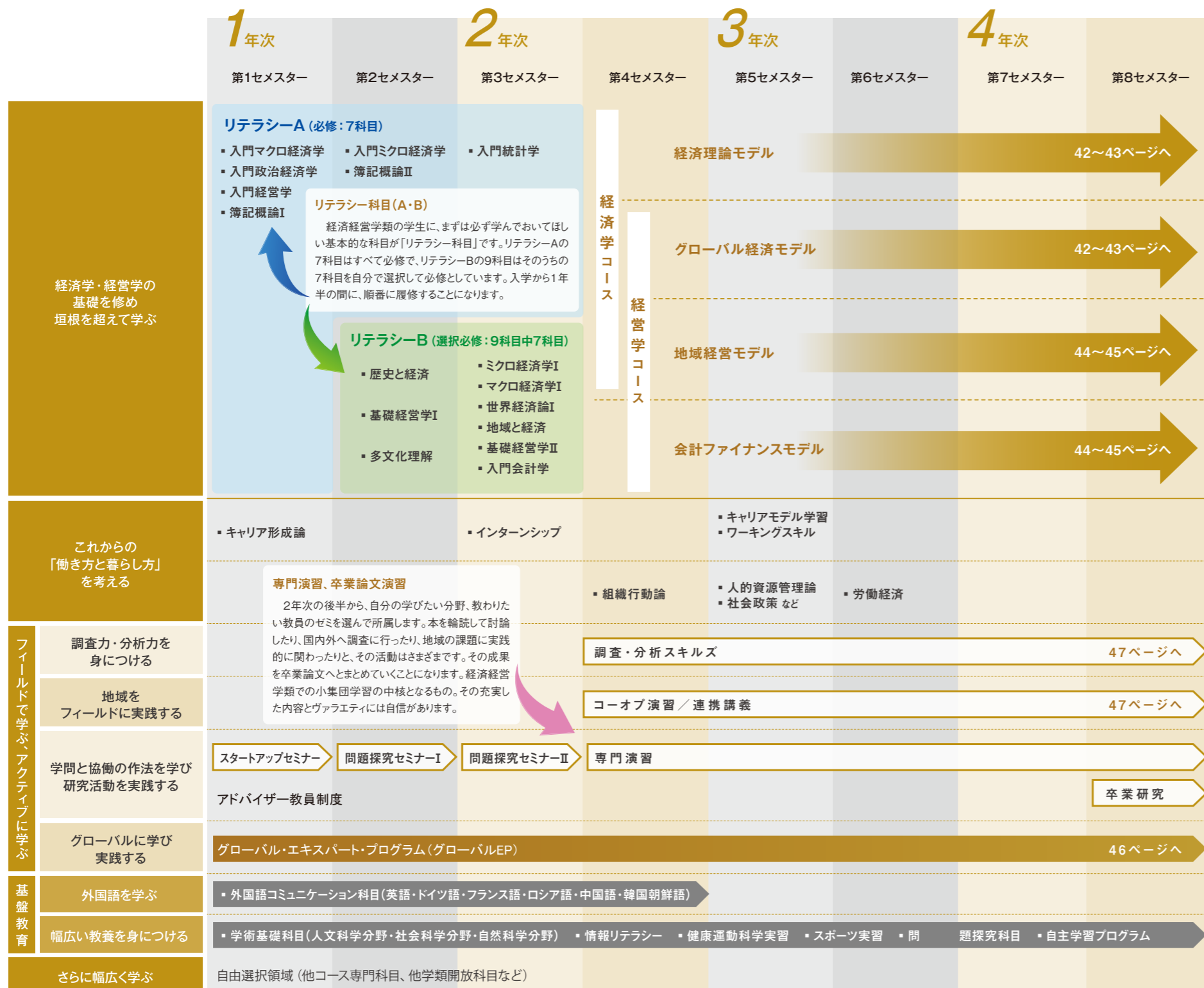
- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 国家公務員
一般職(経済産業省、国土交通省、農林水産省、金融庁など)
国税専門官、財務専門官、労働基準監督官など ● 地方公務員
自治体(福島県、宮城県、仙台市、福島市、郡山市、山形市など)
県警、消防 ● その他公共機関・各種団体(日本年金機構、農業協同組合など) ● 金融機関
都市銀行(三菱UFJ銀行、三井住友銀行、みずほ銀行、ゆうちょ銀行など)
地方銀行(七十七銀行、東邦銀行、山形銀行、足利銀行、常陽銀行など)
保険(東京海上日動、第一生命、住友生命、日本生命、かんぽ生命など)
証券(野村証券、大和証券など)
大手政府系金融機関(日本政策金融公庫、農林中央金庫など) | <ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー(東北電力、北海道電力、東京ガスなど) ● 鉄道・航空・観光(JR東日本、成田空港、JTBなど) ● 製造業(クボタ、小松製作所、福島キャノン、キーエンスなど) ● 建設・不動産
(三井不動産レジデンシャル、住友不動産販売、積水ハウスなど) ● メディア(福島放送、テレビユー福島、福島民報、福島民友など) ● 情報通信(NTT東日本、NTTドコモ、富士通など) ● コンサルタント、マーケティングリサーチ
(アクセンチュア、マクロミルなど) ● 専門職(商業高等学校教諭、税理士、社会保険労務士など) ● 大学院進学
東北大学、一橋大学、筑波大学、神戸大学、福島大学など |
|--|---|

カリキュラムの特長

小集団学習をベースにした積み上げ式の教育体系

経済経営学類に入学したらまず全員が「リテラシー科目」を第1 Semesterから第3 Semesterまで学び、経済経営の基本を身につけます。そのうえで第4 Semesterから専門演習に所属し、それぞれの活動や研究を展開します。第7 Semesterから卒業論文をまとめていきます。この積み上げ式のカリキュラムによってグローバルな思考と実践力を養成します。

※カリキュラムは構想段階(平成30年4月1日現在)であり、科目名などは変更になる可能性があります。



学類長メッセージ

100年の実績と未来への革新、福大経済

経済経営学類のつよみは、100年の伝統と課題解決力を高める革新的なグローバル教育です。今回の改革では、経済学コース・経営学コースの2コースに加えて、グローバル人材育成を目指すグローバル・エキスパート・プログラム(グローバルEP)を設定します。また多様な興味関心と将来の進路に対応する、4つの履修モデル(経済理論モデル、グローバル経済モデル、地域経営モデル、会計ファイナンスモデル)を設定します。さらに、連携講義(銀行・証券会社・税理士会ほか)やコーオプ演習(コンサルタント企業、鉄道会社、官公庁)など多様な授業を用意しています。4年間の大学生活で、経済経営学類の伝統力と革新力を活かして、成長して欲しいと願っています。

経済経営学類長 佐野 孝治 教授

研究テーマ／開発経済学、世界経済論



演習の様子



合同ゼミ発表会

教員紹介

※平成30年4月1日現在

- 経済学分野**
- 荒 知宏(国際経済学)
 - 井上 健(計量経済学)
 - 岩本 吉弘(社会思想史、経済学史)
 - 大川 裕嗣(日本経済史)
 - 菊池 智裕(ヨーロッパ経済論、比較経済学)
 - 熊沢 透(労働経済、社会政策)
 - 佐藤 英司(産業組織と規制の経済学)
 - 佐藤 寿博(ミクロ経済学)
 - 眞田 哲也(政治経済学)
 - 佐野 孝治(開発経済学、世界経済論)
 - 朱 永浩(アジア経済論、社会開発論)
 - 末吉 健治(日本経済論)
 - 十河 利明(アメリカ経済論、世界経済論)
 - 沼田 大輔(環境経済学)
 - 藤原 一哉(財政学、地方財政論)
 - 吉田 樹(地域経済論、交通政策論)

- 野口 寛樹(経営組織論)
 - 平野 智久(財務諸表論)
 - 伊 柳烈(経営戦略論)
- グローバル・スタディーズ分野**
- 伊藤 俊介(韓国朝鮮語、朝鮮近代史)
 - 井本 亮(日本語学)
 - 吉高神 明(英語、国際関係論)
 - クスネツォーフ・マリナ(ロシア語、比較社会論)
 - グンスケフォンケルン・マルティナ(ドイツ語、外国語教育法)
 - 佐々木俊彦(英語、英文学、カルチュラル・スタディーズ)
 - 手代木有見(中国語、中国近代思想史)
 - 福富 靖之(英語、理論言語学)
 - マクマイケル・ウィリアム(英語、グローバル人材育成プログラム)
 - 松浦 浩子(英語、応用言語学)
 - マッカーズランド・フィリップ・リロイ(英語、異文化コミュニケーション論)
 - 吉川 宏(ロシア語、ロシア文学)

- 経営学分野**
- 伊藤 宏(原簿計算)
 - 福村健太郎(租税法)
 - 岩井 秀樹(人的資源管理論、地域デザイン)
 - 遠藤 明子(マーケティング論)
 - 奥本 英樹(財務管理論、現代ファイナンス)
 - 奥山 修司(管理会計)
 - 貴田岡 信(コスト・マネジメント)
 - 根建 晶寛(経営情報分析)

詳しい経歴はこちら



アドバイザー教員
 スタートアップセミナー、問題探究セミナー、専門演習の教員が学習や進路など大学生活全般のアドバイスをを行います。専門演習に所属しない学生は別途アドバイザー教員となる教員を決定します。



大学で得た学びをもとに
信頼される人材へ。

福島大学には自分の学びたいこと、やってみようという環境があります。私は2年次後半から所属したゼミで、専門知識やプレゼンスキルを獲得できました。さらにゼミ活動の一環で中国を訪問し、現地調査や異文化交流を行い、現地に赴いて学ぶことの大切さを実感しました。現在、私は証券会社に勤めています。まだ研修期間中ですが、ゼミで得た、特にアジア地域の経済動向を読み解く力を活かしながら、社内外から信頼される人へと成長していきたいです。

卒業生
大和証券株式会社
澤田 果奈さん
(2017年度卒)

卒業生と在学生に
インタビュー!



日本経済を多視点で
考察できるように。

多くの課題を抱える福島で日本の経済を学びたいと考え、福島大学に入学しました。大学は講義の取り方から課外活動まですべてを自分自身でカスタマイズする自由があります。その分、大変さもありますが、自分次第で興味関心を追求でき、その過程でともに頑張る仲間や親切な先生方に出会うことができます。おかげで私は日本経済を国際面や歴史面など多面から考察できるようになりました。今後はさらに身近な情報から日本経済を考察し、予測できるようになりたいです。

経済経営学類3年
川島 史奈さん
(栃木県立小山高等学校出身) 在学生

● 専門的な知識を深める

経済学コース

これまでの経済分析専攻と国際地域経済専攻を、ひとつの「経済学コース」へと統合しました。経済社会の課題、歴史と現在と未来を考えるために、各教員がこれまで以上に密接に協力し合って研究と教育を進めます。学生のみならず、各教員がこれまで以上に密接に協力し合って研究と教育を進めます。学生のみならず、各教員がこれまで以上に密接に協力し合って研究と教育を進めます。学生のみならず、各教員がこれまで以上に密接に協力し合って研究と教育を進めます。

主な科目

- ミクロ経済学
- 政治経済学
- 公共経済学
- 産業組織と規制の経済学
- 国際経済学
- 世界経済論
- 経済学史
- マクロ経済学
- 財政学
- 労働経済
- 計量経済学
- 国際関係論
- アメリカ経済論
- 日本経済史
- 入門金融論
- 経済政策
- 環境経済学
- 日本経済論
- 開発経済学
- アジア経済論
- 比較経済史



● 主体的に実践する

経済理論
モデル

「物価が下がってきている」「株価が上昇している」「人手不足が深刻になりつつある」といった経済事象について、その背景にある要因を探ったり、適切な対応方法を選択したりするためには、経済理論の理解が不可欠です。これまでに積み重ねられてきた経済理論をその歴史的な経緯も含めて体系的に理解し、現実の経済問題に適用することができる人材の育成を目指します。

グローバル
経済
モデル

Think Globally, Act Locally. グローバリゼーションが進む現代では、地域で活躍する場合でも、世界的規模で考え、分析することが必要です。国際経済学などグローバルな視野に立った経済学・経営学をはじめ、欧米やアジア地域を対象とした科目を学んだうえで、グローバル・エキスパート・プログラムで実践的語学力を身につけることで、グローバル人材育成を目指します。

活動Pick Up! | ERE (経済学検定試験)

学生有志が、ゼミの枠を超え学習組織を立ち上げ、ERE (経済学検定試験) の勉強会を開いています。EREとは、経済学の基礎知識と初歩的な応用能力のレベルを判定する全国規模の検定試験で、多くの大学が大学院試験で取り入れています。勉強会では、学生同士が議論を重ねて問題の理解を深め、ERE大学対抗戦でも成果を上げています。学生が主体なので、知識のみならず、自主性を身につけるよい機会となっています。また、公的機関や金融機関の方々からお話を伺う企画を立てるなど、活動の範囲を広げています。経済学にむきあうことを通じて、知識を深め、社会経験を積み、絶好のチャンスです。



活動Pick Up! | 海外インターンシップと「Work Experience Abroad I・II」

本学類では、年間を通じた教育プログラムとして海外インターンシップを提供しています。まずインターンシップに先立ち、身につけておくべき文化や技術をネイティブスピーカーの教員から英語で学ぶ授業があります (WEA I)。そして8月から9月の約2ヶ月間、米国テキサス州ヒューストン市役所でインターンシップに参加します。職場体験だけでなく、現地の大学 (University of St. Thomas) で福島について発表するなどの機会もあります。帰国後は各自の体験を英語で報告する授業が用意されており、学びをさらに深めることができます (WEA II)。



地域経営モデル



卒業生と在學生にインタビュー!

自分で考え、決断し行動できる人間へ

在学中は経営情報分析をテーマとしたゼミに所属し、財務分析による論理的な企業分析力を身につけました。それらは就職活動や株式投資などに役立ったと感じています。現在は福島県内で就職を考える人や企業のリクルート活動を企画支援するプランナーの仕事をしています。まだ入社2年目で未熟な面もありますが、高校までとは違う大学での自由な学びや学類の枠を超えた豊富な交流経験が、今の仕事でも、課題に対して自分で考え、行動することにつながっていると思います。

株式会社ヒューコム
卒業生 佐藤 翔太さん
(2016年度卒)



ゼミの学びを通して自己表現力をアップ

2年生になって関わりが増えた友人や先輩の影響から、企業経営専攻で企業戦略や財務会計を中心に学んでいます。ゼミに所属してからは、特定の分野の学びを深めると同時に、ディスカッションなどを通して自己表現力を高めることができました。学んだことを「ビジネスプランコンテスト」などで披露する機会もあるので、やりがいを感じています。社会の出来事の背景についても興味を持つようになりました。この主体的に学ぶ姿勢や表現力は、私の自信にもつながっています。

経済経営学類3年
在學生 高谷 優希さん
(福島県立安積黎明高等学校出身)



● 専門的な知識を深める

経営学コース

経営学コースでは、非営利組織(自治体、NPOなど)を含め、より幅広い視野で経営現象を捉えます。とりわけ、地域経済と経営、会計とファイナンス(金融)について、基礎を修めながら垣根を超えて学びます。

主な科目

- | | | |
|-----------|------------|--------------|
| ● 経営戦略論 | ● 経営組織論 | ● 組織行動論 |
| ● 人的資源管理論 | ● マーケティング論 | ● 消費者行動論 |
| ● 地域企業経営論 | ● 地域経済論 | ● 地域政策論 |
| ● 応用経営学 | ● 調査法 | ● 租税法 |
| ● 経営情報分析 | ● 財務管理論 | ● 現代ファイナンス |
| ● 中級簿記 | ● 上級簿記 | ● 財務諸表論 |
| ● 原価計算 | ● 管理会計 | ● コスト・マネジメント |



● 主体的に実践する

地域経営モデル

少子高齢化や人口減少は現在の日本社会全体が抱える課題ですが、とりわけそれが著しいのが地方都市です。そこで地域経営モデルでは、いわば「課題先進地域」といえる地方都市をフィールドに、経営分野と地域経済分野について重点的に学びます。これによって、マネジメントと地域振興の視点を併せ持った人材の育成を目指します。

会計ファイナンスモデル

企業活動の結果を分析し、将来に向けて適切な経営意思決定を行うためには、会計情報を活用する知識の習得が不可欠です。会計ファイナンスモデルでは、外部報告のための財務会計、経営管理のための管理会計、財務管理のためのファイナンス手法を体系的に学習し、会計数値を経営行動に活用できる人材の育成を目指します。

活動Pick Up! | 会津若松の「おちょこパス」

会津若松市内を運行するまちなか周遊バスの「おちょこパス」。これはバスのフリー乗車券と会津塗のおちょこ、会津木綿パスケースをセットで購入すると、20余りの協賛店をおちょこを片手に巡ることができるというものです。経済経営学類の吉田ゼミが会津乗合自動車株式会社と商品企画しました。発端は市内を現地調査した学生が、観光施設を点と線でつなぐ観光ではなく、人の流れを生み出す面の観光が必要と考えたことで、学生が街とむきあうことで生まれた企画です。今、おちょこはまち歩きのごきげとなり、人と地域をつなげる小さなコミュニケーションツールとなっています。



活動Pick Up! | 東邦銀行との「地域戦略研究会」

福島大学と東邦銀行との共同研究会である「地域戦略研究会」では学生と東邦銀行の行員が、地域や企業のさまざまな課題について討論会を実施しています。年末には公開報告会の「地域戦略フォーラム」を開催し、地域の企業や自治体へ研究報告や提言をしています。社会人と一緒に考え、議論し、プレゼンすることは、学生たちにとって得難い大きな経験となります。





コース横断プログラム

グローバル・エキスパート・プログラム (グローバルEP)

中国、韓国、ロシア、ドイツ、米国、カナダ出身の教員を擁する経済経営学類。異なる国籍、文化的背景を持つ人々の中で他者に共感しつつ、自らの周りの諸課題を地球規模で考える。これが経済経営学類の目指す国際性です。

グローバルEPには、学生が海外に飛び立てる、また福島で外国人留学生と交流できる特色ある授業があります。少人数の英語ゼミに所属し、英語で発表する、議論するなど、実践的な英語力を磨いていきます。また日本語、英語とともに、欧州評議会が提案している複言語主義に基づき、英語以外の外国語を学修し、三言語の運用能力の向上を目指します。身につけた語学力を武器に、留学、海外調査、海外インターンシップなどさまざまな異文化体験を積むことができます。

Step out of your comfort zone! 成長を望むなら「快適な空間から飛び出さない」という意味です。このプログラムは、あなたがその一歩を踏み出す一助となるはず。ぜひ福島で世界を感じ、世界とコミュニケーションしましょう。

毎日英語

「毎日英語」として英語授業を毎日受講できます。ネイティブスピーカーの英語による授業も選べます。

Fukushima Workshop

世界各国の協定大学から短期で来日する留学生と、東日本大震災の被災地を訪問したり、市内の農家で桃狩りなどをしつつ交流を深める Fukushima Workshop (Fukushima Ambassadors Program) を開講しています。

海外調査

中国、タイ、ベトナム、ミャンマーなどのアジア地域やドイツなどのヨーロッパ地域に渡航し、現地の企業活動や社会問題に関する調査を行い、同時に現地のさまざまな文化に触れることのできる授業です。

Work Experience Abroad (WEA)

米国テキサス州の最大都市ヒューストンに2か月間ホームステイし、現地の企業や市役所で実務研修を受けます。研修で使用する言語はもちろん英語です。研修期間が終了する頃には、英語力が飛躍的に向上する、と評判です。

実践ドイツ語演習、実践ロシア語演習

ドイツやロシアに渡航し、語学研修を受けます。同時に現地の小学校を訪問、幼児教育の現場を視察、少数民族の村を訪れるなど、さまざまな社会的・文化的なエクスカージョン(小旅行)に参加します。

調査・分析スキルズ

さまざまな意思決定の場において、経験にもとづく判断のみでは対応できない状況が生じています。そこで、必要となるのが、データにもとづく判断です。まずは、課題を正しく把握したうえで、その課題の解決に向けた計画を立てる必要があります。計画の中では、適切な調査のやり方、収集するデータの種類の種類などについて丁寧に確認していくことが要求されます。調査の実施後、集まったデータを適切に処理し、そこから具体的な解決方法を見つけていきます。

このようなデータにもとづく意思決定を行うための方法を習得するために、「調査設計を身につけるための科目」「データの分析方法を身につけるための科目」の2種類の領域についてさまざまな科目を開講しています。また、それらの科目の中では、データの処理に不可欠となるコンピュータによる処理方法についても学んでいきます。



コーオペ演習 / 連携講義

企業や業界団体など、さまざまな外部組織と提携した実践的な科目を多数揃えています。演習形式の「コーオペ演習」と講義形式の「連携講義」があります。

コーオペとは「cooperative(協同の)」のことで、外部組織と大学が協同運営する新しい演習形態です。短期のインターンシップでは得られない、実践的な課題解決を体験することができます。連携先には、東邦銀行、アクセンチュア(コンサルティング会社)、JR東日本、自治体、NPOなどがあります。

一方、連携講義は、連携先の外部組織が講義を担当するもので、現実のケースを通じて専門的な内容を学ぶことができます。租税法概論(東北税理士会)、地域金融論(東邦銀行)、証券市場論(野村證券)、財務諸表監査(公認会計士協会東北会福島県会)などがあります。



共生システム理工学類

Faculty of Symbiotic Systems Science

「共生」に関わる多様な知識と広い視野、そして実践的研究経験をもち、現代社会や地域の問題を「システム」的にとらえて解決できる「理工」系人材を育成します。

学類のホームページはこちら
<http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/>



Admission Policy | こんな人に学んでほしい

共生を科学する新しい教育・研究システムのもとで、卒業までに次の4点を身につけたい学生を受け入れます。

- (1) 幅広い理工学的基礎知識と確かな専門性
- (2) 論理的で的確な立案力と決定力
- (3) 学際的・国際的に実践する力
- (4) 積極的かつ持続的な貢献意識

2019 学類改革のポイント

文理融合型の人材育成を継承しつつ、より高度な専門知識や研究経験に基づいて異分野の専門家と協働できる人材を育てるために、深さと幅広さのバランスをとったコース制を導入します。学生は卒業時に、自分がどのような分野の基礎と専門を学び、どのような研究を行って、どのような能力を身につけたのか、明確に自己PRできるようになります。

旧学類構成 (2年次前期から専攻に所属)	新しい学類構成 (2年次前期からコースに所属)
人間支援システム専攻	数理・情報科学コース
産業システム工学専攻	エネルギーコース
環境システムマネジメント専攻	経営システムコース
	生物環境コース
	物理・システム工学コース
	地球環境コース
	物質科学コース
	社会計画コース
	心理・生理コース



取得できる資格

- 中学校教諭一種免許状 (理科/技術/数学※)
 - 高等学校教諭一種免許状 (理科/工業/情報/数学※)
- ※数学については他学類で開講されている授業科目の単位を修得することにより取得できる免許状。

資格試験受験の補助制度

- 福島大学共生システム理工学類後援会が、1～4年生を対象に行っている補助制度があります。
- 資格試験1種類につき3,000円を補助 (3,000円以下の場合は半額補助)
 - 種類が異なれば年間何回でも補助可能
 - 年度が変われば、同じ試験にトライ可能
- また、福島大学理工同窓会さびたき会が行っている補助制度もあります。
- 資格試験1種類につき全額補助(ただし、年に1回のみ)

卒業後の進路

- 家電・自動車・住宅関連企業や医療・福祉関連企業および制御機器メーカーの技術者・研究者
- 製造業企業・エネルギー関連企業の技術者・研究者・技術経営管理者
- 商社・流通関連企業
- 地方公務員
- 水・環境・防災・建設関連企業の技術者・環境管理者・環境計量士
- 水・環境・土木関連の国家・地方公務員
- 理科・情報・技術・工業などの教員
- 大学院進学 など

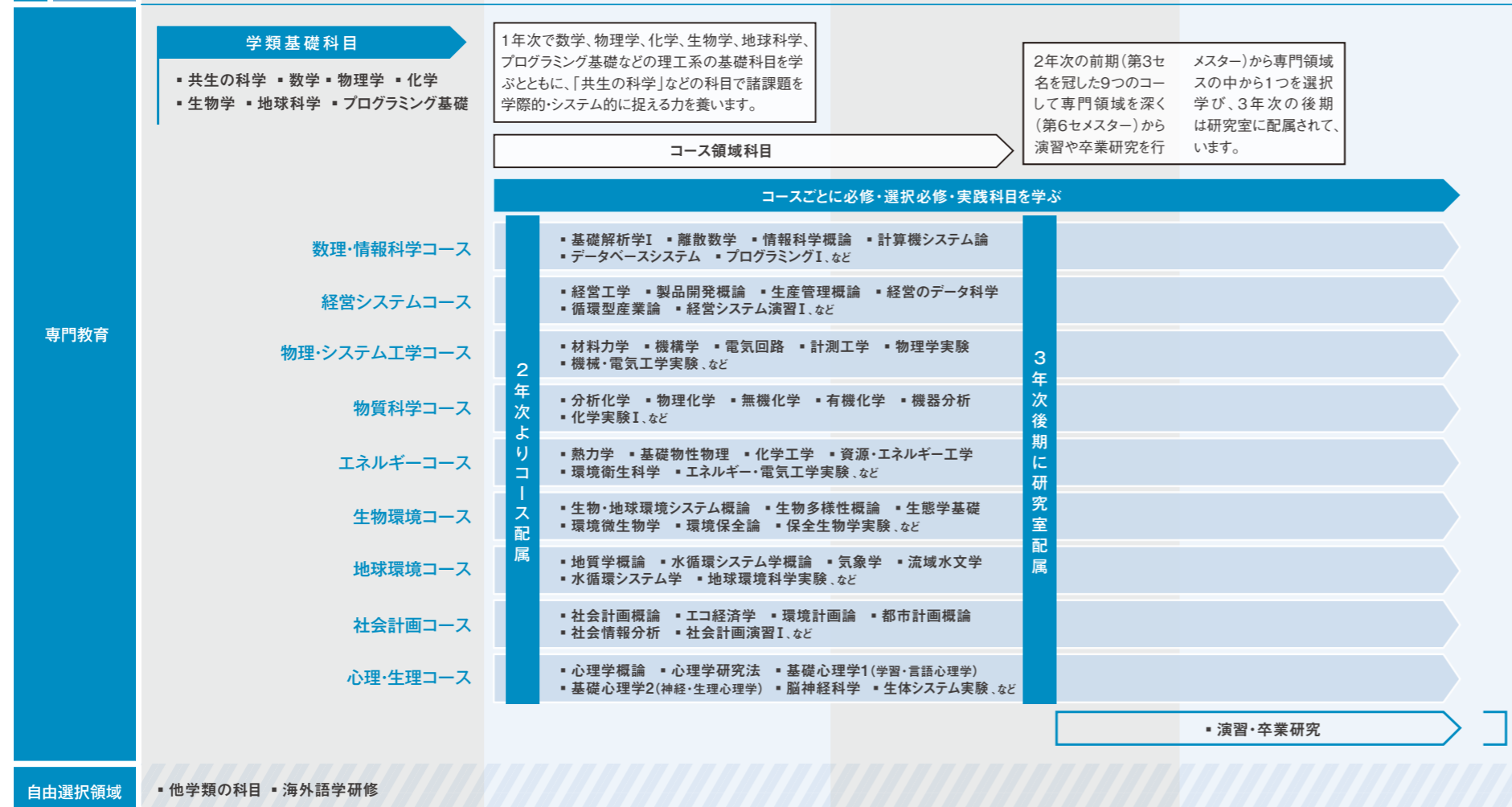
カリキュラムの特長

異分野の専門家と協働できる人材を育成するために

1年次では数学、物理学、化学、地球科学、プログラミングなどを幅広く学び、2年次からは9つの専門コースに分かれて深く学びます。3年次後期からは研究室に配属され、各コースで学んだ知識をもとに新しい知識を生み出す研究プロセスを、教員や大学院生による指導・助言のもとで体験します。ここでは、自分と異なる分野の専門家と適切な討論を行えるようになることも重視されます。

※カリキュラムは構想段階(平成30年4月1日現在)であり、科目名などは変更になる可能性があります。

	1年次	2年次	3年次	4年次
学びの目標	理工系の基礎科目を学ぶとともに、諸課題を学際的・システムの捉える力を養う	コースを1つ選択して専門領域を深く学ぶ	より踏み込んだ学びを展開し、専門的な知識を修得。知識・技能を深化させる	4年間の学びの集大成として「卒業研究」に取り組む
基盤教育	接続領域 ・スタートアップ科目 ・ライフマネジメント科目 外国語コミュニケーション科目			
		教養領域 ・キャリア設計科目 ・学術基礎科目 ・健康・運動科目 ・情報科目 ・外国語科目		
			問題探究領域 ・問題探究セミナーI ・問題探究科目 ・自主学習プログラム	



学類長メッセージ

新たなコース制で創造的人材を

本学類では、今までの文理融合型人材育成の意図を継承し、異分野の専門家とも協力した問題解決や創造ができる人材を育成するために、平成31年度から、現在の3専攻体制を研究・教育の内容を明確に表現した9コースの教育体制とカリキュラムに変更します。具体的には、1年次では数学、物理学、化学、生物学、地球科学、プログラミング基礎、共生の科学などを幅広く学び、2年次からは9コースの専門分野に分かれて深く学びます。そして3年次後期からは研究室に配属されて演習や卒業研究を行います。自分を磨きたいという目的意識を持つ、元気な学生たちの入学を期待しています。

共生システム理工学類長 二見 亮弘 教授



研究テーマ/生体情報の計測・解析・モデリング、脳・神経系の理解に基づくヒューマンインタフェースの構築

教員紹介

- 内海 哲史**
インターネットにおける通信方式の提案・評価を中心とした情報ネットワークに関する研究
- 岡沼 信一**
非線形磁心を用いた計測制御装置への応用をテーマに磁気発振を利用した文直連携装置等の研究開発
- 小沢 喜仁**
人と環境にやさしい材料を目指して、新たな機能性材料の開発・設計と特性評価に関する研究
- 神長 裕明**
情報ネットワークシステムの設計・検証方法などを中心としたソフトウェア工学に関する研究
- 小山 純正**
さまざまな神経生理学的手法を用いて、睡眠・覚醒・夢の発現を調節する神経メカニズムに関する研究
- 篠田 伸夫**
ネットワークの教育利用および情報セキュリティに関する技術・制度の研究
- 高橋 隆行**
新しいコンセプトのロボットを実現するためのシステム技術・要素技術に関する研究開発
- 高原 円**
覚醒から睡眠まで、人間のさまざまな意識水準における認知活動を調べる精神生理学的な研究
- 田中 明**
人工心臓の制御や生体の循環調節の解析など、生体を対象とした信号処理と制御に関する研究
- 簡井 雄二**
人や動物の行動や感情に関する心理学的研究、原子力災害の心理的影響に関する研究
- 永嶋 幸司**
公正で調和のとれた音環境の実現をめざしたサウンドスケープ研究
- 中村 勝一**
ネットワークサービスと知識管理ソフトウェアの設計開発、および知的活動支援への応用に関する研究
- 馬場 一晴**
宇宙の創成と進化を考察する宇宙論、並びに宇宙の発展を支配する重力理論に関する研究
- 藤本 勝成**
人の行う評価や判断を、数理的に表現したり、表現するための数学的枠組みやコンピュータシステムを構成する研究
- 二見 亮弘**
麻痺した手足の運動機能を補助する電気刺激と、脳の感覚・運動系のモデリングの研究
- 増田 正**
福祉機器開発やリハビリテーション評価のための、人体運動の計測とモデリングに関する研究
- 三浦 一之**
いくつかの点とそれらを結びあがるグラフを、構造が理解しやすく、かつ、きれいに、描画する研究
- 山口 克彦**
マイクロな磁石(スピンの)振る舞いを対象として物性物理学に潜む複雑系のメカニズムに関する研究
- 浅田 隆志**
バイオマス炭素化合物の機能性や他材料との複合による機能性材料の開発に関する研究
- 生田 博将**
エネルギー資源の有効利用と環境負荷低減のための新規二次電池の開発と高性能化に関する研究
- 石岡 賢**
経営と技術に視点をついたマーケティング戦略や製品開発マネジメントに関する実践的な研究
- 石川 友保**
配送計画・施設配置計画・在庫計画などの物流・ロジスティクスに関する研究
- 大山 大**
気候変動を含む化合物(金属錯体)を利用した再生可能エネルギー関連物質の創出に関する研究
- 笠井 博則**
自然現象の数理モデリングと、それらに関係した非線形微分方程式の理論的・数値的解析など
- 筑 宗徳**
もの・サービス・人づくりを担う企業が抱える問題を解決するための管理手法に関する研究
- 佐藤 理夫**
リサイクル・再生可能エネルギー・除染技術の解析と、実用化を目指した研究開発
- 島田 邦雄**
電磁場に関連する流体力学、機能性液体、触覚センサー、エネルギーに関する研究
- 杉森 大助**
微生物および遺伝子資源の開発、環境浄化技術の開発、産業用酵素・生体触媒の開発を目指した研究
- 董 彦文**
企業の経営・生産システムの設計と管理に必要な手法の提案、知的経営情報システムの開発に関する研究
- 中川 和重**
社会・自然現象を記述する数理モデルに現れる非線形微分方程式の純粋数学の立場からの研究
- 中村 和正**
ナノ・マイクロレベルでの複合化やプロセス改質による材料の新規開発・高性能化・高付加価値化の研究
- 中山 明**
ネットワーク構造でモデル化された現実の現象や諸問題に対する各種アルゴリズムの開発
- 樋口 良之**
生産、物流、経営などのシステムのモデリング、シミュレーション解析、最適設計、評価に関する研究
- 猪俣 慎二**
遷移金属-カルコゲンクラスター化合物の合成と性質に関する研究
- 大橋 弘範**
貴金属及びアルカリ金属イオンの金属錯体への吸着と構造・状態変化に関する研究
- 兼子 伸吾**
保全生態学、特にさまざまな環境に生育する絶滅危惧種の保全や外来種の管理に関する研究
- 川越 清樹**
気候変動が流域環境(主に水・土砂災害や水資源)に及ぼす影響に関する研究
- 川崎 興太**
都市・地域再生、土地利用、中心市街地活性化、復興まちづくりなど、都市計画・まちづくりに関する研究
- 木村 勝彦**
森林の生態学、特に年輪解析を用いた動態とその履歴に関する研究
- 黒沢 高秀**
アジア産トウダイグサ科植物の分類学的研究および地域の植物相や保全に関する研究
- 後藤 忍**
生物生息空間の計画システム、物質フローや需給バランス、総合的環境指標、環境教育・環境メディア等に関する研究
- 柴崎 直明**
地下水の動態、水収支、地下水障害、地下水資源の開発や地下水盆の保全・管理に関する研究
- 高貝 康隆**
有微量物質の測定方法、測定技術に関する研究
- 高安 徹**
非ベンゼン系芳香族化合物の合成と性質に関する研究
- 嶋 忠彌**
河川・池沼に生息する水生昆虫の分布・生態、地域の昆虫相、アザミウマ類の超微形態に関する研究
- 長橋 良隆**
地質学的手法による平野や盆地の自然史と火山噴火史や火山災害に関する研究
- 難波 譲二**
微生物学を基にした土壌、地質、地下水等の浄化に関する研究
- 横尾 善之**
水循環、水資源、流域地形、放射性物質の動態、森林火災、ダムの堆砂に関する研究
- 吉田 龍平**
気象学を中心とした大気-地表面における物質循環の研究、地球温暖化が農作物に与える影響の評価

※平成30年4月1日現在

再生可能エネルギー寄附講座

2011年3月の東日本大震災と福島第一原子力発電所事故による被害を受けた福島県は「再生可能エネルギー先駆けの地」としての復興を宣言し、2040年頃には県内消費エネルギーに匹敵する規模で再生可能エネルギーを活用するビジョンを制定しました。福島大学では、一般財団法人ふくしま未来研究会様および福島県建設業協会県北支部有志様から御寄附を頂き、再生可能エネルギーに関する教育・研究・産学官連携活動を行う寄附講座を設立しました。

- 青藤 公彦**
シリコン材料を始めとする太陽電池、太陽光発電システムとその応用技術開発
- 佐藤 義久**
電力システム、パワーエレクトロニクス技術をベースとした再生可能エネルギー(小型風力発電)の実用化開発
- 赤井 仁志**
地中熱・地下水熱・温泉排湯熱を活用する建築環境・設備分野(給湯・浴場・空調・換気・融雪等)の実用開発
- 小井土賢二**
バイオマス由来の水素製造・精製の技術開発とモデリング、およびULCAIによる環境エネルギーシステム評価の研究

詳しい経歴はこちら





共生システム理工学類
 数理・情報科学コース
 経営システムコース
 物理・システム工学コース
 物質科学コース
 エネルギーコース
 生物環境コース
 地球環境コース
 社会計画コース
 心理・生理コース

● 1年次:幅広く学びながら将来を考える

共生システム理工学類は、「共生」をテーマに現代社会や地域の問題をシステム科学的にとらえ、解決できる理工系人材を育成します。そのため1年次では以下の履修基準表の接続領域、教養領域、問題探究領域、学群・学類共通領域を学びながら、幅広い教養と専門分野の基礎知識、そして自分の将来を見つめる視点を養います。2019年度からの共生システム理工学類の履修基準表は次のとおりです。



● 共生システム理工学類 履修基準表

※平成30年4月1日時点での予定

領域区分	科目区分	開設科目	セスター	学年	1科目単位数	必修	選必	卒業要件単位数	
基盤教育	接続領域	スタートアップ科目	スタートアップセミナー	1	1	2	2	2	
		ライフマネジメント科目	キャリア形成論	1	1	2	2	3	
		外国語コミュニケーション科目	健康運動科学実習	1	1	1	1	4	
	教養領域	学術基礎科目	英語	人文科学分野の科目	1~	1~	2	2	6
			キャリア設計科目	社会科学分野の科目	1~	1~	2	2	
			キャリアモデル学習	自然科学分野の科目	1~	1~	2	2	
		健康・運動科目	インターンシップ	3	2	2	2	9	
			ワーキングスキル	3~	2~	1または2	2		
			選択スポーツ	5~	3~	1または2	2		
	問題探究領域	外国語科目	英語	1~	1~	1	4	4	
			英語以外の外国語	1~	1~	1	4		
		情報科目	情報リテラシー	1~	1~	2	2	2	
		問題探究科目	問題探究セミナーI	1~	1~	2	2		
自主学習プログラム	1~	1~	1または2	2	2	2			
問題探究セミナー	2	1	2	2	2	2	2		
小計								34	
専門教育	学群・学類共通領域	学類共通科目	共生の科学I・II	1,2	1	2	4	20	
		学類基礎科目	学類基礎科目A(数学I・物理学I・化学I・プログラミング基礎)	1,2	1	2	8		
			学類基礎科目B(数学II・生物学・地球科学)	1	1	2	4		
	コース領域	学類基礎科目C(数学III・物理学II・化学II)	2	1	2	4			
		学類専門科目	共生の科学III	5	3	2	2		2
		必修科目	3~	2~	2	16	16		
		選択必修科目	3~	2~	2	24	24		
実践科目	問題探究セミナーIIを含む	3~	2~	1または2	6	4	10		
演習	演習I・演習II	6,7	3,4	2	4	4	4		
卒業研究	卒業研究I・卒業研究II	7,8	4	2	4	4	4		
小計								80	
自由選択	自由選択領域							10	
全体							総計	124	

PICK UP!

これら4つの領域とは別に、さらに自分の能力を伸ばしたいという意欲ある学生のために、共生システム理工学類では放射線対策科学専修プログラムを準備しました。これを修得するのは決して容易ではありませんが、ぜひチャレンジしてみてください。

放射線対策科学専修プログラム (共生システム理工学類専用)

本プログラムは、原子力発電所災害に伴う放射線への科学的対応を行える人材の育成を目指したものです。このプログラムでは「放射線取扱主任者」資格レベルの放射線科学に関する専門領域科目について、単位取得を課しています。本プログラムには、「放射線科学領域」、「廃炉支援領域」、「環境動態領域」の3つの領域があります。それぞれの領域の授業科目8単位と3領域共通の「共通基礎」の授業科目22単位の計30単位を修得することにより、「放射線対策科学専修プログラム修了」の認定を受けることができます。



学問の知識だけでなく
社会人スキルの向上も

共生システム理工学類は、一般的な理工系学部では学べないジャンルの学問を幅広く学ぶことができます。私もここで初めて心理学に触れ、心理学の研究室を選びました。そこで培った文章の読解力や自分の考えを相手に伝えるプレゼンテーション能力は、国家公務員の採用試験の際にも発揮され、今仕事をするうえでも大いに活かされていると感じています。今後は国家公務員として国民の生活をより良くするために、行政上の問題点の改善を目指す職務に取り組んでいきたいです。

総務省東北管区行政評価局
卒業生 中島 健輔さん
(2017年度共生システム理工学類卒)

卒業生と在学生に
インタビュー!



もともと興味のある学びで
社会に役立つ研究を

福島大学の共生システム理工学類は2年生から専攻に分かれるため、1年間自分の将来についてじっくり考えることができました。また気象の研究を行う数少ない大学でもあるので、もともと気象予測をして社会の役に立ちたいと考えていた私は、環境システムマネジメント専攻を選択し、今後は研究室でさらに気象研究を進めたいと考えています。学問だけでなく、他校の学生が集まるインカレサークルの活動もかけがえのない時間です。皆さんもぜひ福島大学でそんな時間を過ごしてください。

共生システム理工学類3年
小松 彩夏さん
(栃木県立大田原女子高等学校出身) 在学生

2年次:自分の目指す専門分野をより明確にし、専門的な知識を増やす

数理・情報科学
コース

現代の複雑な社会・自然現象を解明するためには、数学的モデル化、シミュレーション、分析が必要です。また、発展・変化の著しい高度情報化社会に対応するためには、情報システムの設計・開発・運用を行える実践的能力も求められています。本コースは、数学・数理科学と情報科学を見渡したカリキュラムを備え、いずれを専門とする学生も隣接領域への視野と実践・応用力を養うための学習・研究を行います。

キーワード

- 数学
- ソフトウェア
- 情報科学
- ネットワーク
- シミュレーション
- データ工学

1. さまざまな分野で利用される基礎的な数学の計算運用能力。
2. 多様な現象を、モデル化・抽象化・記号化・構造化・手続き化し、データの分析・活用を行う能力。
3. 計算機やコンピュータネットワークの仕組みを理解し、ソフトウェアシステムを設計・実装・運用する能力。

などの能力を目指した基礎および実践科目の構成となっている。

経営システム
コース

本コースでは、企業経営の効率化のための工学的手法(IE)とマネジメント手法(MOT)を学びます。企業経営とは、製品開発・生産・流通・サービスなどの企業活動を、管理(計画・実施・評価・改善)・マネジメントすることです。現在直面している・将来必ず起こりうる、さまざまな企業経営の諸問題に対し、俯瞰的的確な解決策を提示できるような学習・研究をします。

キーワード

- 経営
- サービス
- IE
- 開発
- 工学的手法
- MOT
- 生産
- マネジメント
- 流通
- 経営環境

1. 企業経営の効率化に向けた経営工学(IE)と技術経営(MOT)に関連する幅広い基礎知識の習得。
2. 問題を発見する能力と、問題を論理的に解決する能力の習得。
3. 企業が属する産業・社会の諸問題に対して工学的手法で解決策を導く実践力の習得。

などを目指した基礎および実践科目の構成となっている。

物理・システム
工学コース

このコースでは物理や機械・電気工学に関係する基本的な知識の修得をベースとして、社会に役立つ新たな「もの」や「技術」の創出を担う研究者・開発者を育てます。学習・研究分野として、物理、機械、電気といった基本分野のほか、サイバネティクス、バイオニクス、福祉・医工学などの人と工学とが融合した分野も対象としています。

キーワード

- 物理
- 生体・医用工学
- 機械・電気工学
- ものづくり
- 信号処理・制御

1. 物理を基本とする工学的知識の理解。
2. 物事、ヒト、現象などをシステムとみなしてモデル化する方法的理解と応用。
3. ヒトの生活に役立つものづくりのための設計と製作技術の修得。

などを目指した基礎および実践科目の構成となっている。

物質科学
コース

近年、人類は資源・エネルギー・環境分野に対する多くの問題に直面しています。本コースでは、省エネルギー・省資源など低環境負荷の観点から、化学を基盤とした物質科学や材料工学に関する体系的な学問を習得するとともに、化学実験を通して、上記の諸課題に取り組む研究をします。これらの学習・研究とともに、産官学連携を見据えた実践教育も多く取り入れ、環境に配慮した先進的な「ものづくり」に貢献できる人材を育成します。

キーワード

- 先進的なものづくり
- 化学実験
- 化学
- 低環境負荷
- 物質科学(材料工学)

1. 科学技術そして化学工業を支える基盤的学問である化学の基礎知識の体系的な習得。
2. 化学の基礎とともに物質科学や材料工学の基礎も学び、社会における諸課題を多角的に理解・分析する能力の習得。
3. 社会における諸課題を解決・解明するための、基本から応用までの化学実験技術の習得。

などを目指した基礎および実践科目の構成となっている。

エネルギー
コース

原子力発電所事故は福島に大きな被害を与えました。地球温暖化を招く化石エネルギー資源に、過度に依存することも許されません。持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育てるため、本コースではエネルギー資源の状況と省エネ・創エネ・蓄エネの技術とを幅広く学び、エネルギーを切り口に科学技術・社会構造・経済構造の在り方を考えます。

キーワード

- 再生可能エネルギー
- 低炭素社会
- エネルギーシステム
- エネルギー自給自足
- 地球温暖化対策

1. エネルギー関連技術の基礎知識。
2. 地球環境や地域産業を視野に入れて将来のエネルギーのあり方を考える力。
3. 解決策を提案し、自ら行動できる力。

などを涵養するための基礎および実践科目構成となっている。

生物環境
コース

生態学、形態学、分類学、遺伝学、微生物学など生物学の基礎を学び、多様な実験・野外実習科目で実践力をつけ、環境保全・生物保全やバイオテクノロジーなどの応用に取り組むコースです。環境や生物多様性の調査や保全の提言、遺跡出土物の分析、有用な酵素を生み出す微生物の探索やその応用など、社会への貢献を意識した教育・研究に力を入れるのもこのコースの特色です。

キーワード

- 生態学
- 環境微生物学
- 生物多様性
- 生物工学
- 保全生物学

1. さまざまな分野で利用される基礎的な生物学(生物工学も含む)の知識。
2. 多様な生物やそれらを取り巻く環境の調査、有用な酵素を生み出す微生物の探索やその応用など、社会への貢献を意識した調査・分析の経験。
3. 環境保全・生物保全やバイオテクノロジーなど社会的要請の高い分野で活躍できる実践力。

などを涵養するための基礎および実践科目構成となっている。



卒業生と在學生にインタビュー!

理系としての視点や論理的思考を養い、大学院へ

私はもともと自然環境や生き物に興味があったので学類では環境システムマネジメント専攻に所属しました。理系の基礎的知識を身につけたうえで、専門性の高い先生のもとで研究を行うことができたので、理系としての視点や論理的思考が養われたと思います。現在は、大学院に進学し、より高度で専門的な講義を受けながら、野生生物の適切な管理・保全に向けた自分の研究を進めています。いずれ動植物と関わる仕事をするためにも、今は大学院の研究に全力で取り組んでいるところです。

卒業生 福島大学 大学院博士前期課程
藤田 優志さん
(2017年度共生システム理工学類卒)



理系・文系に縛られない学びで得た視野の広がり

共生システム理工学類は、理系・文系に縛られず、自分が興味を持ったものへの学びを深められるところです。専攻配属されてからも、理工学分野を学びながら、生理学や心理学など人間理解のための科学も学べるので、人間を支援するものづくりに興味がある自分にはぴったりだと感じています。また文系の授業を受ける中で、人前で話す力も身につきました。視野が広がり、多角的な見方でもできるようになったので、必要なことをさらに学び、今後の研究テーマにつなげていきたいです。

在學生 共生システム理工学類3年
増子 なつみさん
(福島県立安積黎明高等学校出身)



2年次:自分の目指す専門分野をより明確にし、専門的な知識を増やす

地球環境コース

地球誕生以来の長い時間を経てつくられてきた地球環境は、ここ数百年間の人間活動により急激に変化しています。このコースでは、地球環境を構成する地形・地質・気象・水循環などを基礎から学び、日本や世界で発生する自然災害の予測や防災、人間活動が地域や地球全体の環境に及ぼす影響の解明につながる研究へと発展させます。

キーワード

- 地球環境
- 環境予測
- 水循環
- 防災
- 自然災害

1. 地球環境を構成する地形・地質・気象・水循環の理解。
 2. 日本や世界で発生する自然災害の予測や防災への活用。
 3. 人間活動が地域や地球全体の環境に及ぼす影響の解明。
- を目指した基礎および実践科目の構成となっている。

社会計画コース

持続可能な社会の構築を目指して、文理の垣根を超えた総合的な視点から、計画的にアプローチする方法を学ぶコースです。環境を構成する自然、社会、文化の各側面から問題点を総合的に捉え、都市や農村の空間を効果的にデザイン・計画するとともに、行政・事業者・市民による協働の取り組みを進めていくための専門分野を探究します。

キーワード

- 社会
- 都市
- 持続可能性
- 環境
- 農村
- デザイン(思考)
- 地域
- 計画

1. 環境問題や地域問題等の現代社会が抱える問題に関する基礎知識の習得。
 2. 現代社会が抱える問題を総合的に捉えるための視点の獲得。
 3. 問題解決能力の涵養。
- などを目指した基礎および実践科目の構成となっている。

心理・生理コース

科学技術がいかに発展したとしても、それを支え、利用しているのは人間です。さまざまな視点から人間を理解し、それらの知見を科学技術に応用できる能力の習得をこのコースでは目指します。心理学、生理学、関連する学問分野を学習し、人間の心理・生理的仕組みを解明する研究や、それらを医療、介護、福祉、教育など専門性の高い領域で応用するための研究へと発展させます。

キーワード

- 行動科学
- 心理・生理学実験
- 脳神経科学
- 脳と心

1. 人間の心の働きや脳・神経系の働きに関する基本的知識の習得。
 2. 心や脳・神経系の働きを知るための研究方法の理解。
 3. 現実社会や科学技術におけるヒューマンファクタに関する諸問題について考えることができ、それらの問題を解決していくために必要な基礎能力の獲得。
- などを目指した基礎および実践科目の構成となっている。

PICK UP!

物質科学コース・エネルギーコース

「熱と物質の移動現象論」

化学工学とは、実験室レベルで成功した化学反応を大規模化して実用化するために必要となる学問です。この分野を学ぶには、分離・除去技術、伝熱・攪拌・混合といった理科学科の「化学」とは離れた分野の理解も必要のため、本講義では化学工学概論で学んだ内容を一步深め、物質や熱が移動することを中心に講義します。そして最終的には、化学製品の製造設備内でも、水や大気といった環境中でも、さまざまに動く物質の現象を正しく理解し、イメージできるセンスの習得を目的とします。



地球環境コース

「地球科学」

地球・大気・海洋の構成と運動、またそれらの成り立ちに関する基礎知識は、今後進む専門分野にかかわらず、共通に備えておくべき知識です。この基礎知識は、現在顕在化している地球規模のさまざまな課題を科学的に捉え、思考するうえで役立ちます。そのため本講義では、地球の形や内部構造をはじめ、プレート運動と火山や地震、地層、古生物の変遷、大気構造、地球温暖化、環境問題といった地球に関する広範な講義を段階的に行いながら、地球の未来について科学的に思考する力を養います。



大学院

学類／学士課程

- 人間発達文化学類
- 行政政策学類
- 経済経営学類
- 共生システム理工学類

大学院／修士課程（博士前期課程）

大学院／博士後期課程

人間発達文化研究科

人間発達文化研究科は、地域の抱える課題を克服し、次世代を切り開いていくために、学類の教育理念をさらに発展させ、今日必要とされる高度な知識・技術をもって人材育成を図る「人材育成のエキスパート」を養成します。



教職実践専攻(教職大学院)

ミドル・リーダー養成コース／教育実践高度化コース／特別支援教育高度化コース

学校現場にあるさまざまな教育的課題に取り組みながら、学校改革、授業改革に結びつける実践研究を行います。その研究と学びを通して、理論と実践を往還させながら4つの資質・能力〔マネジメント経験を積みながら省察する力〕「高度な授業力」〔アクティブな理論的探究力〕「新たな教員への自覚と強い責任感」を育成し、福島の未来を創造する独自の教育を創出できる高度な専門性を持つ(ミドルリーダー)の養成を目指します。

地域文化創造専攻

人間発達支援領域／日英言語文化領域／地域生活文化領域／数理科学領域／スポーツ健康科学領域／芸術文化領域

それぞれの領域の高度な専門性を背景として、地域の諸課題に関してその横断的・重層的な問題構造を把握しながら、人間と文化・社会とのリアルな関係を踏まえ、諸問題の解決に向けた学際的実践的研究を進めます。その研究と学びを通して専門的学問分野における研究・実践力を形成するとともに、地域支援に必要なコーディネート力および人材育成力を合わせ持つ(地域支援エキスパート)の養成を目指します。

学校臨床心理専攻

臨床心理領域／学校福祉臨床領域

臨床心理学に関わる高度な専門的知識と技能を習得しながら、学校、家庭、地域、専門諸機関などが相互に連携した臨床的支援策について研究を進めます。その研究と学びを通して学校臨床、とりわけいじめや不登校、非行、あるいは発達障害などの特別なニーズを持つ子どもや青年、そしてその家族に対応する効果的な指導・援助・支援を行う公認心理師などの養成を目指します。

地域政策科学研究科

専門領域は5つの履修分野によって構成されています。分野横断的で学際的な研究環境を活かし、地域社会の諸問題に政策的に対応し、地域社会の発展に寄与できる高度な知識を持った人材を養成します。



地方行政

政治学・行政学の基礎理論および地方自治体の行政を具体的な制度や実態に即しながら法的・政治的側面から研究します。

【授業科目】 国家と行政、地域社会と行政、社会と政治、比較政治、国際社会と政治、地域社会と政治、地域社会と法、地方行政特殊研究

社会経済法

地域社会における社会的・経済的諸問題を法的側面から具体的に研究します。

【授業科目】 社会と法、労働・社会福祉と法、企業と法、経済と法、社会経済法特殊研究

行政基礎法

地域の行政の基礎となっている法制度を理論的かつ具体的に研究します。

【授業科目】 国家と法、市民と法、紛争処理科学と法、国際社会と法、行政基礎法特殊研究

社会計画

社会の基本構造の把握やそれに基づく地域社会の構造的課題の把握を踏まえ、地域社会の再建、活性化に不可欠な社会計画について、特にそれを政策化する視点から研究します。

【授業科目】 地域社会と社会計画、地域社会と環境、地域社会と社会福祉、地域社会と社会調査、社会と生活、社会と社会科学、社会の基礎理論、社会の構造と階層、社会計画特殊研究、地域社会総論、地域社会とコミュニケーション

地域文化

地域生活の基礎となる地域社会の諸側面を、地域文化として総括する方法について研究するとともに、社会情報について理論的かつ実証的に研究します。

【授業科目】 地域社会と歴史、地域社会とジェンダー、地域社会と教育、社会と情報、国際社会の言語と文化、地域文化特殊研究

経済学研究科

経済学研究科は経済学専攻と経営学専攻から構成されています。さめ細やかな指導と教育により、地域に密着しつつも世界的視野に立つ高度な職業人の養成を目的としています。



経済学専攻

本専攻では、経済学のさまざまな理論や手法をしっかりと身につけながら、自分のテーマに沿った研究を行います。制度や政策を深く理解したり、物事を歴史的に考察したり、国際社会や地域、市場や産業の諸問題を掘り下げたりして理論的・実証的な分析に取り組み、論理的思考力を磨きます。

① 地域産業復興プログラム

ふくしま未来食・農教育領域と公共政策デザイン領域から構成されます。フィールドにおける実践を通じた研究教育(PBL: Project Based Learning)を重視しており、日本の地域産業復興、とりわけ震災・原発事故後の福島県における食と農のエキスパートを養成するためのプログラムです。火曜および木曜の夜間に専門科目と演習を開講しています(土曜の集中講義が一部あります)。

② グローバル政治経済学プログラム

グローバル(グローバル・バルト・ローカル)な視点で地域と世界をつなぐエキスパートを養成することを目的とします。経済学や歴史を学び、近年の世界情勢・研究動向に応じて知見をバージョンアップするとともに、国内外のフィールドワークによる問題発見型学習を行います。

経営学専攻

本専攻は、大きく経営学領域と会計学領域に二分されます。経営学と会計学について、さまざまな受講生のニーズにこたえるため、研究者による理論的な講義だけでなく、実務家による実践的な講義も提供しています。

③ 会計税務プログラム

本学の同窓生や地元の会計専門家の協力も得ながら、次世代の会計専門家養成のためのプログラムです。経理マン、商業高校教諭、税理士など、会計専門家を目指す方にお勧めです。主に平日夜間に専門科目と演習を開講しています。

④ ビジネスキャリア・プログラム

ビジネスに関わる多様な科目群を、仕事と両立しやすい土日の昼間(10:30-17:00、休憩含む)に集中的に提供するプログラムです。主に社会人の受講を想定しており、キャリアの節目に備えるためのビジネスリテラシーの学習を体系的に支援します。また、8-9月はビジネスの第一線で活躍する実務家による科目群も用意しています。

先進的に取り組む4つの研究科

4つの学類を礎とした人間発達文化研究科、地域政策科学研究科、経済学研究科、共生システム理工学研究科をおき、高度な教育研究活動を展開し、各研究科の専門性を活かした高度専門職業人・研究者を育成します。また、社会人にも広く門戸を開き、社会人特別入試、昼夜開講制、長期履修制度、土日集中開講などを導入し、社会人の学び直しにも対応します。東日本大震災以降、「福島」の使命として、災害復興、食農問題、再生可能エネルギーなどに対応したプログラムにより、地域だけでなくグローバルに起こりうる諸課題に先進的に取り組みます。

共生システム理工学研究科

「共生」の観点からさらに専門性を深化させ、新しいシステム科学を構築、発展、継承できる人材と、これらの課題解決に実践的に貢献できる高度専門職業人・研究者を養成します。



共生システム理工学専攻

共生システム理工学専攻では、人一産業一環境における共生のための新たなシステム科学の構築を志し、課題解決に向けて積極的に挑戦しようとする強い意欲を持つ人材を養成します。

【博士前期課程】

数理・情報システム分野

数学、情報科学、経営システム工学、およびそれらを基礎とする数理・情報システム分野の研究

物理・メカトロニクス分野

物理学、機械工学、電気電子工学、制御工学、およびそれらを基礎とする物理・メカトロニクス分野の研究

物質・エネルギー科学分野

化学、材料工学、化学工学、エネルギー工学、およびそれらを基礎とする物質・エネルギー科学分野の研究

生命・環境分野

生物学、心理学、地学、気象学、水文学、およびそれらを基礎とする生命・環境分野の研究

【博士後期課程】

共生機械システム領域

人理解科学、メカトロニクス、情報技術を軸とした高度な機械システムに関する研究を行っています。

産業共生システム領域

資源材料・エネルギーなどの工学技術、数理情報、コンピュータ科学、産業政策、技術経営に関する高度な研究を行っています。

環境共生システム領域

環境のモニタリング、実践的な保全・浄化技術の開発ならびに改善した環境の管理・計画に関する高度な研究を行っています。

NEW

環境放射能学専攻 (2019年4月設置予定)

環境放射能学専攻では、人工および天然放射性核種の環境中の動態を解明し、計測、モニタリング計画、制御、予測、評価などに中長期的視点で総合的に取り組みます。積極的に挑戦しようとする強い意欲を持つ人材を養成します。

生態学分野

生態学、生物学、またはそれらを基礎とする放射生態学分野の研究を行っています。

モデリング分野

地球科学、現象数理学、またはそれらを基礎とする放射能モデリング分野の研究を行っています。

計測分野

化学、物理学、機械工学、電気工学、またはそれらを基礎とする放射能計測分野の研究を行っています。



ここから、世界に羽ばたこう。

国際交流

留学生活の中で得た国際感覚をもとに 海外に向けて日本文化を発信していきたい

高校生の頃から海外留学に興味があり、福島大学入学後は英語を使って国際交流するサークル「ESS」に入りました。さらに経済経営学類の特修プログラムである英語副専攻の授業も積極的に受講し、3年の時にはフィリピンでの語学研修に1カ月ほど参加しました。ただ、その語学研修は旅行気分から抜け出すことができなかつたため、海外で生きるという本当の意味での留学を経験したいと考え、1年間の交換留学を決意しました。目的は英語能力の向上と国際交流。留学先はハンガリーの首都ブダペストのカーロリ・ゲーシュパール・カルヴィン派大学です。

実際に留学が始まると、友だちをつくるのに苦労したり、自分の英語能力の低さに落

ち込んだりすることもありました。しかしその試行錯誤の中で、物事に対する広い視野や異文化の友人とのコミュニケーション力といった国際感覚を学び、「世界の一員としての自分」を感じられるようになりました。同時に発見したのが、日本という国のすばらしさと、海外の人にまだまだ知られていない文化や自然が、日本にはあふれていると感じたことです。私はこの感覚と経験を活かし、将来は海外に向けて日本文化を発信するような仕事に就きたいと考えています。

Profile

経済経営学類 国際地域経済専攻4年
瀬川 将也さん
宮城県多賀城高等学校出身
ハンガリー ブダペスト(1年間)

福島大学は学内留学や語学研修、
無料の語学セミナーなど、
国際関係に対するプログラムが整っています。
海外に興味がある人、大学で
何かがんばりたいと思っている人は、
福島大学から世界に
羽ばたいてみませんか。



友人の誕生日に、国を超えて50人ほどが集まってサプライズをしました。



大学対抗スポーツ大会。試合は全敗でした。

Fukushima Ambassadors Program

Fukushima Ambassadors Program (通称F.A.P.)とは、アメリカ、ドイツなどの海外の協定大学から福島に関心を持った留学生(これまで延べ168名)を約2週間のプログラムに招き、福島大学の学生とともに被災地をまわる短期留学プログラムです。平成30年4月現在、福島大学を中心に550名以上の県内の大学生がプログラム・アシスタントとして参加しています。さまざまな背景を持った学生たち同士が、ともに英語で福島の「過去」、「現在」、そして「未来」の課題について学び、理解を深めています。



福島にしながら学ぶ 学内留学

海外へ留学してみたいけれど、語学力や異文化での生活に不安がある。経済的な負担をかけずに生きた英語を学んでみたい。そんな学生の皆さんに対応できるよう、福島にしながら世界中の学生と国際交流をすることができる「Fukushima Ambassadors Program (F.A.P.)」を年に2回開催しています。これまで566名の学生と、168名の外国人学生が参加しています。

開催期間：10日間



短期間で学ぶ世界の文化と言葉 短期語学研修

短期語学研修とは、長期休暇中に海外の協定締結大学で語学を学んだりフィールドワークなどを行うものです。オーストラリア・クイーンズランド大学付属語学学校での5週間の英語研修や、コロラド州立大学でアメリカの放射線研究について学ぶ研修、韓国、中国、フィリピンでの語学研修など、さまざまなプログラムが用意されています。

留学期間：10日～3ヶ月



協定締結校へ1年間の長期留学 交換留学

「交換留学」とは、学生交流協定校への長期留学で、福島大学の方に学費を納める必要がある留学を指します。福島大学では、現在、大学間交流協定に基づき、海外の33大学と学生交流協定を締結しています。国際交流センターが留学先との連絡調整をするため、留学前の準備はもちろん、留学中の相談や帰国後の単位の互換などの手続きを安心して行うことができます。

留学期間：半年～1年



海外で働く、という体験 海外インターンシップ

平成28年度から「実際の現場で英語を使うことにより実用的な英語を身につける」をテーマとした海外インターンシップ「WEA」を開講しています。海外で働くために必要なスキルや知識を学んだ後、夏休みに渡米し、現地でインターンシップを行います。

例：Real English Business Internshipプログラム
(テキサス・ヒューストンでの8週間のインターン)など

インターンシップ期間：約2ヶ月



気軽に参加できる 語学力強化

英語圏への交換留学などを目指す方には、IELTSやTOEFLなどの語学試験で目標スコアをクリアすることが前提として求められます。福島大学では少人数で参加できる語学力強化プログラムや、語学試験のコーチングを実施しています。中でも国際交流センターが提供する「ITT」は、語学試験対策のスペシャリストによるきめ細やかな受験指導に定評があります。

開催回数：毎週3回



!
**奨学金制度
について**

福島大学には、留学にかかる経済的負担を軽減するため、給付型の奨学金制度が準備されています。平成29年度は、99名の学生が奨学金を受給して、留学に挑みました。

詳しくは、国際交流センターに
お問い合わせください!

Fukushima University International Center 国際交流センター 平日9:00-12:30 / 13:30-17:00

福島大学国際交流センターは、日本人学生や留学生の皆さんが留学や国際交流活動について相談したり、資料を閲覧したりできる施設です。本学と学術・学生交流協定を締結している大学の情報や、留学経験者の報告書なども閲覧することができます。留学や語学学習に関する図書の貸出のほか、希望者には語学試験対策学習指導も行っています。留学生から生活や学習についての相談を受けたり、在留資格、地域のイベントの案内と手続きも行っています。



CAMPUS MAP



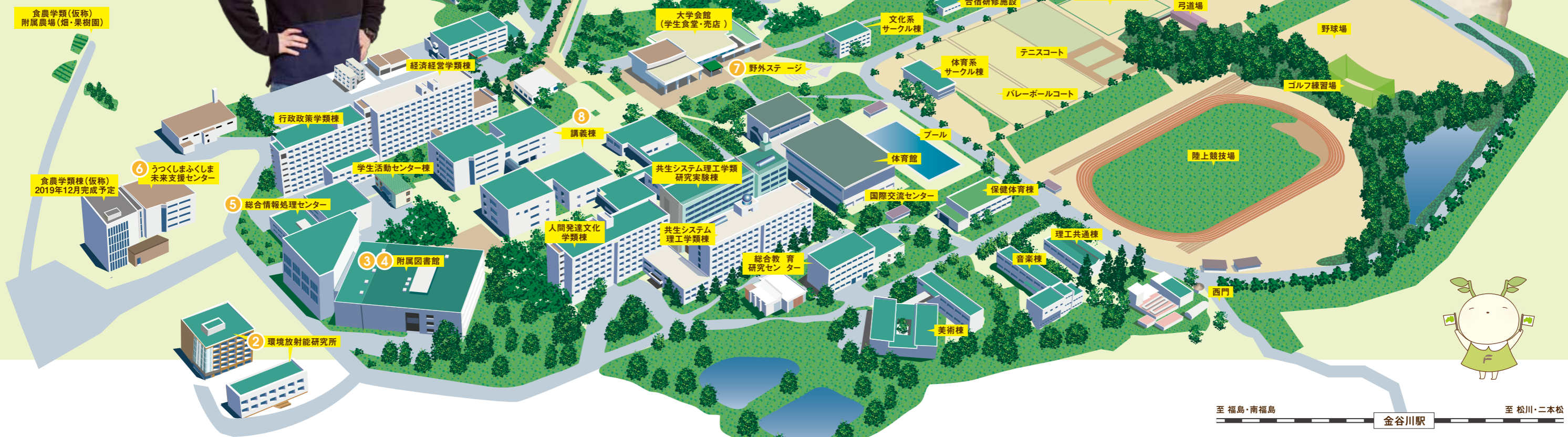
緑に囲まれたキャンパス。
自然とともに学ぶ。

キャンパスの魅力を
僕たちが紹介します!

人間発達文化学類
文化探究専攻数理科学クラス2年
大平 博大さん

みんな、一つのキャンパスで
学んでいます!

行政政策学類 法学専攻2年
渡邊 裕香さん



1 保健管理センター
医師・保健師がいて、心身の健康相談、救急処置、健康診断などを行っています。受付は、平日の9:00~16:30です。



2 環境放射能研究所 9ページ
2013年7月設置。環境放射能動態に関する先端研究拠点を目指し、国内外の研究者が活動しています。



3 附属図書館 64ページ
約90万冊の蔵書を利用できるほか、パソコンエリアなどさまざまな学習環境が整っています。



5 総合情報処理センター
5つの演習室とリフレッシュコーナーがあり、最新のパソコンが設置されています。自習でも利用できます(平日21時まで)。



6 うつくしまふくしま未来支援センター
東日本大震災後の復旧・復興への支援のため2011年4月設立。地域に寄り添う「支援センター」として実践的な活動を展開します。



7 野外ステージ
緑の芝生に覆われた憩いの空間。サークルの催し物も行っていきます。



4 ラーニングcommons(図書館内) 64ページ
さまざまなスタイルで学習できる空間。グループでの学習にも便利です。ホワイトボードなどを使って学習できます。



8 講義棟
大きさでS・M・Lに分かれています。S棟には学生課・教務課・就職支援課もあります。

学生寮

キャンパス内にあり、通学に便利! 家賃も格安です。部屋は個室ですが、異なる学類、先輩・後輩など多様な人との交流が魅力です。

<p>男子寮</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 如月寮 (200名) ● 信夫寮 (150名) 	<p>女子寮</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 葵寮 (150名)
--	---

¥ 寄宿料 4,300円/月
🏠 居室は個室(約5.5畳、エアコン完備)

👥 共用スペース (バス、トイレ、キッチン、洗濯室)
※ 食事の提供はありません

STUDENT Life

案内役をしてくれた二人の1日に密着!

case 01

家事とアルバイトと学業と。
忙しいけれど充実した毎日です。

行政政策学類 法学専攻 2年 渡邊 裕香さん
(宮城県仙台台山高高等学校出身)

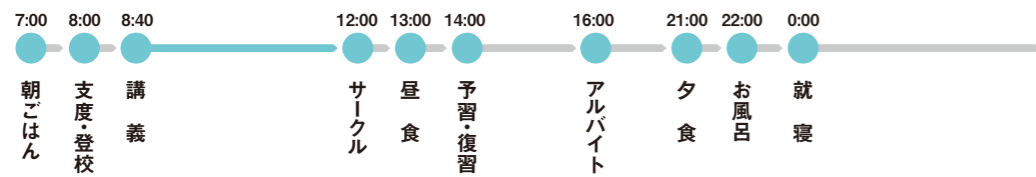
実家が宮城県にあること、一人暮らしをして自炊のスキルを上げたことから、アパートへの入居を選びました。実際に生活を始めると、家事の大変さを思い知り、親の偉大さが身にしみてわかりました。

一人暮らしにかかる光熱費や食費は、いずれ親に返金する予定です。奨学金の返還もあるので、アルバイトはかなり重視しています。仕事先はせっかくなら自分の成長につながることを考え、先生に紹介していただきました。就職支援課にはアルバイト募集の冊子もあるので、バイトをする場合は、こうした大学のサポートを活用するのもおすすめです。



Time schedule

講義・サークル活動・アルバイトと、毎日大忙し!



1限目の講義は遅刻なし!
アパートが近いので1限もゆとりを持って受講できます。

サークルは2つかけもち!
生協学生委員会では学生向けのイベントを企画運営。構内にいるネコをケアするサークルにも入っています。



12:00



ランチは友人のおしゃべりタイム
学食で食べたり生協で買って食べたり。いろんな情報を友人と交換します。

アルバイトも学びの場
週2~3日はNPO法人などでアルバイト。ひとつひとつが勉強になります。



16:00



金谷川駅のすぐ近く。大学からも近くて便利!
大学には徒歩10分で行ける距離なので、電車の遅れや天候などに左右されずに講義を受けることができ便利です。

通学時間 徒歩10分 月々の家賃・食費 家賃4万円 食費約1万5,000円

House



case 02

学生寮の生活は部活動にも
集中できる環境です。

人間発達文化学類 文化探究専攻
数理科学クラス 2年 大平 博太さん
(福島県立磐城高等学校出身)

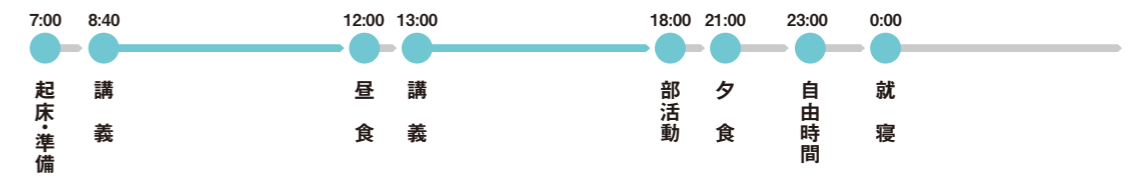
私は親から仕送りももらわず、奨学金のみで生活しています。そのため経済的負担の少ない学生寮での暮らしはとても助かっています。

特に自分は水泳部に所属し、福島県内の他大学との大学対抗戦や猪苗代湖で泳ぐ遠征大会など、さまざまな大会に参加しています。こうした活動を思う存分できるのも、負担の少ない寮生活のおかげだと思います。

また当初は不安だった一人暮らしですが、実際に生活し始めると思っていた以上に楽しく、充実した日々を送っています。精神的に自立することもできたので、一人暮らしは自分が成長できるチャンスだと思います。

Time schedule

学業と部活動、バランスよく頑張っています。

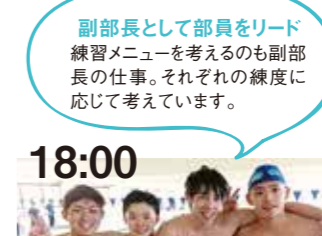


目標は教員免許の取得!
数学と英語の教員免許を取得するため、講義もまじめに頑張っています!



8:40

ランチは肉系!
学食は気軽なのでよく利用しています。肉系メニューでパワー充電!



18:00
副部長として部員をリード
練習メニューを考えるのも副部長の仕事。それぞれの練度に
応じて考えています。



くつろぎタイム
読書しながら体を休めたりと、
自分の時間を大切にしています。

大学構内の学生寮。朝が苦手な人にもピッタリ。
学生寮は5.5畳の一人部屋。トイレ・お風呂・キッチン・洗濯機・乾燥機は
共同で、男子寮が2つ、女子寮が1つあります。

学生寮から徒歩10分 月々の家賃・食費 家賃4,300円 食費約1万5,000~2万円

House



Yuuka's curriculum

渡邊さんの
2年次前期時間割

空き時間は図書館で予習・復習をしています。とてもきれいで静かだし、勉強に必要な資料も豊富にありますよ。

	月	火	水	木	金
1	地方行政論	スペイン語中級A			キャリアモデル学習
2	民法(家族)	憲法(統治)I	民法(債権総論)	法社会学I	地理学概説
3	憲法(人権)I			スペイン語中級B	
4	行政学II			専攻入門科目	
5					

ぼく・わたしのお気に入り!

六法は、法学専攻には必須アイテム。勉強で疲れて甘さが欲しかったときは、購買で売っている豆乳をよく飲みます。いろんな味があって選ぶのが楽しいです(*o*)



好きなものに
囲まれて幸せ!



Hiroto's curriculum

大平さんの
2年次前期時間割

主に必修科目と教員免許取得に必要な科目を履修しています。数学や英語の専門的な内容を学習しています。

	月	火	水	木	金
1	英語B1				教育と人間関係
2	教育心理学	英語学概論	英語B2	グラフ理論	幾何学I
3	教育の方法B	教育の歴史			代数学II
4	英文法	異文化理解		教職入門A	解析学II
5					基礎演習H

ぼく・わたしのお気に入り!

先輩にゆずってもらったギターとつけ麺が最近のお気に入りです。毎日体を動かさずせいか、肉系の料理も大好きです。



梓なき“キャンパス” めばえる福大人!



大学は学業のみをする場ではありません。まちや地域、全国、海外と、さまざまなフィールドで活躍するチャンスを創る場でもあります。自らの能力や思いを胸に、それぞれのフィールドで力を発揮している福大人を紹介します。

社会人、陸上選手、学生。 妥協せずに自分の選んだ道を。

現代教養コース文化教養モデル2年

青木 りんさん(私立相洋高等学校出身(神奈川県小田原市))

高校卒業後はより高いレベルで陸上に挑戦したいと考え、実業団を選択しました。しかし“学ぶ”ことも諦めきれなかったため、午前中は東邦銀行に勤め、午後は東邦銀行陸上競技部員として練習し、夕方から福島大学に通う日々を送っています。昨年は日本陸上競技選手権大会で第5位、同大会リレー優勝、日中韓交流大会には日本代表として参加することができました。毎日慌ただしいですが、自分で選んだ道なのでどの点でも妥協したくないと思っています。



トライアスロンで福島から世界へ。 目指すは東京五輪メダリスト。

人間発達文化学類 スポーツ芸術創造専攻 人間発達文化学類 スポーツ芸術創造専攻1年

蓮沼 哲哉 講師 長正 憲武さん
(福島県立福島高等学校出身)

福島大学にはトライアスロンで世界を目指す先生と学生がいます。お二人からコメントをいただきました。

蓮沼先生「大学で教えるのと並行して、トライアスロン競技のクラブチームを運営し、日本オリンピック委員会専任コーチも担当しています。被災地の復興をスポーツで加速化し、元気になっていくことが目標です」。

長正さん「中2の時から蓮沼先生のクラブチームに所属し、昨年はアジアジュニア選手権と世界ジュニア選手権に日本代表として出場しました。オリンピックでメダルを獲得することが最大の目標です」。



右側が蓮沼先生。左側が長正さん。

大学生の投票率を上げる活動で たくさんの貴重な経験を。

行政政策学類 地域と行政専攻4年

春菜 孝明さん(市立函館高等学校出身)

今、大学生全員が有権者となった一方で、若年層の投票率低下が問題になっています。そのため私は学生団体「福大 Vote プロジェクト」で福大生に向けた選挙啓発活動を行っています。啓発CMを制作したり投票所の空間デザインを工夫したりと、大学生の立場からできることを企画運営の中で、普通の大学生活を送っていたのでは関わらない社会人の方にも出会うことができました。試行錯誤の連続ですが、貴重な経験を成し遂げられたと思っています。



ファーマーズマーケットで 地域の交流の場を創りました。

行政政策学類1年

佐藤 勇樹さん(福島県立ふたば未来学園高等学校出身)

活動のきっかけは高2の夏に参加した渡米プログラムです。その際にみたファーマーズマーケットが販売の場だけでなく交流の場になっていることを知り、また農家さんが自分の作った野菜についていろいろと教えてくれることにも感動し、こんな場所が地元にもあったらいいなと、帰国後に活動を始めました。農家さんから借りた畑で野菜づくりもしてみました。これからも常に誰かから学ぶという気持ちを忘れずにアクションを起こしていきたいです。



たくさんの「福」を「結ぶ」 福島大生の日本酒づくり。

経済経営学類 企業経営専攻3年

間宮 疾人さん(茨城県立水戸商業高等学校出身)

経済経営学類 国際地域経済専攻3年

大泉 孝平さん(宮城県仙台南高等学校出身)

私たち小山ゼミでは、福島県産米の価値を向上させたいとの思いから、5年前より「おかわり農園プロジェクト」としてお米づくりと販売に取り組んでいます。そして昨年度、福島市唯一の酒蔵さんとの共同開発で、新たに日本酒造りにも着手しました。ラベルにデザインされた文字のとおり、たくさんの「福」を「結ぶ」お酒になってほしいとの願いが込められています。



左側が大泉さん。右側が間宮さん。

ミススピーチキャンペーンクルーとして 国内外に足を運んでいます。

経済経営学類 国際地域経済専攻4年

島山 せえなさん(福島県立郡山高等学校出身)

震災後の福島の若者の元気な姿を見たいとミススピーチキャンペーンクルーの活動をしています。福島の魅力やPRするために国内のみならず海外にも足を運び、テレビ出演や首相官邸訪問なども行ってきました。他にもOECD東北スクールや地方創生イノベーションスクール学生スタッフ、中国留学などさまざまなことに挑戦しています。これからも無知を恐れず挑戦・発信し、誰かが一歩を踏み出すきっかけになっていければと思います。



左側が島山せえなさん。

「風とロック芋煮会」で 「風とロックわりばし大作戦」!

共生システム理工学類 産業システム工学専攻3年

七海 航平さん(福島県立郡山高等学校出身)

「とげっちょ組」は、中山間地域の活性化を目指して活動する福島大学非公認サークルです。その活動の一環として県内最大規模のロックフェスティバル「風とロック芋煮会」で、間伐材わりばしの販売や使用済みわりばしの回収といった「風とロックわりばし大作戦」を行っています。昨年は他大学や県とも連携し、売り上げの一部を植樹祭に寄付して協賛セレモニーなども行いました。現在は大学の先生たちと地域活性化ネットワークを構築中です。



右側が七海航平さん。

地域に根ざした大学として 福島の夏まつりで踊っています

わらじおどるべ☆プロジェクト実行委員会

日本一大きいわらじを担いで練り歩く「福島わらじまつり」は福島市の夏祭りです。学内外から参加への機運が高まってきたことを受け、職員有志で実行委員会を立ち上げました。目的は、市民の皆さんとお祭りを盛り上げて地域活性化に貢献すること。参加している学長はじめ教職員、学生、留学生はみな垣根を超えて交流が深まり、一体感が生まれています。今後も地域に根ざした大学として参加し続ける予定です。参加者も随時募集中です!



CLUB CIRCLE ACTIVITY

統一サークル連合公認サークル



福島学生“源種”~seed~



吹奏楽団

学生の自主的な学問探究および文化・スポーツ活動の振興と発展を期することを目的に、学生の自治組織として統一サークル連合が組織されており、その公認サークルに対しては学生自治会などから財政上の助成などが行われています。統一サークル連合に公認されているサークルは次の通りです。



馬術部



陸上競技部



COLORs

文化系公認サークル

- アカベラサークル
- Rainbow Pumpkin
- ESS(英会話研究会)
- 裏千家茶道部
- 映画制作サークル
- SF研究会
- 演劇研究会
- 音楽プロデュース研究会
- 化学研究会
- 管弦楽団
- ギタークラブ
- 競技麻雀部
- 教職サークルFUN
- 考古学研究会
- 混声合唱団
- C.P.A(会計学研究会)
- 児童文化研究会
- 写真部
- ジャグリングサークル
- しゅわ手話研究会 Drops
- 書道研究会
- 吹奏楽団
- HEARTS(学生ボランティア)
- ハートフル☆スタジオ
- はらい川セツルメント
- ピア☆カン
- 美術研究会
- Folk&Rock研究会
- 文芸部
- 漫画研究会
- お笑い同好会
- 放送部
- 旅行同好会
- COLORs

体育系公認サークル

- 合気道部
- 居合道部
- オリエンテーリング部
- 空手道部
- 弓道部
- 競技ダンス部
- 行政政策学類陸上競技部
- 経済バスケットボール部
- 剣道部
- 硬式テニス部
- 硬式野球部
- サッカー部
- 山岳部
- 柔道部
- 準硬式野球部
- 女子バスケットボール部
- 女子バレーボール部
- 女子ハンドボール部
- 女子ラクロス部
- 福島学生“源種”~seed~
- 水泳部
- スキー部
- ストリートダンス同好会(D.FOOL)
- ソフトテニス部
- 卓球部
- 男子バスケットボール部
- 男子バレーボール部
- 男子ソフトボール部(SPARKS)
- 男子ハンドボール部
- 男子ラクロス部
- 馬術部
- バドミントン部
- 夜間主剣道部
- ラグビー部
- 陸上競技部
- ワンダーフォーゲル部
- チアダンスサークル-Peach Graffiti-

東日本大震災をきっかけに結成された学生団体です 福島大学災害ボランティアセンター

福島市内外の仮設住宅約20カ所で足湯を通した傾聴活動や、県内外の子どもたちを対象にリフレッシュ体験事業の実施、また津波被災地でのがれき撤去や学習支援、福島の情報発信など幅広く行っています。震災から継続してきた活動を通して顔見知りの方がたくさんでき、仮設住宅などにお邪魔すると「待ってたよ」と温かい声をかけていただく場面も増えました。8年目に入り、公営住宅への移住も進み中で、昨年度に増して“寄り添い”に力を入れていきたいです。



▲復興公営住宅での住民交流会

▼子どもの力支援…
ふくしま子どもネイチャリングキャンプ



学費・奨学金

入学金

282,000円 夜間主/141,000円

【納入方法】

入学手続前に所定払込用紙により金融機関で振り込み、入学手続時に納入書(大学提出用)を提出。

授業料

年額 535,800円 夜間主/年額 267,900円

【納入方法】

入学後、前期分と後期分に分けて、年額の2分の1相当額をそれぞれ4月、10月に学生本人指定口座から引き落とし。

※入学時および在学中に入学料・授業料の改定が行われた場合は、改定時から新たな入学料・授業料が適用されます。
※入学時には、入学料のほかに別途修学関係経費、各種会費が必要になります(学類によって金額は異なります)。

学費の免除・徴収猶予について

【入学金】 経済的理由により入学金の納入が困難かつ学業優秀と認められる場合、または入学前1年以内に主として学費を負担する方が死亡もしくは風水害などの災害のため入学金の納入が困難であると認められる場合には、選考のうえ入学金徴収猶予または免除を許可されることがあります。

【授業料】 経済的理由により授業料の納入が困難かつ学業優秀と認められる場合などには、選考のうえ授業料の全額もしくは一部の免除、または一定の期日までの納入猶予を許可されることがあります。また、大学院博士後期課程の学生に対し、学業が優秀と認められる場合には、選考のうえ年度分の授業料の全額もしくは一部を免除されることがあります。

奨学金制度

日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構の奨学金には、給付型、第一種(貸与:無利子)、第二種(貸与:有利子)があります。2017年度における日本学生支援機構奨学生は、本学では第一種・第二種合わせて2,033名(日本人学生全体の48.6%)が利用しています。なお、月額金額は表のとおりです。

※1 給付型奨学金は進学の前年度に高等学校等の奨学金窓口に申し出てください。
※2 第二種奨学金は、卒業後、年利率3%を上限とする利息付(在学中は無利息)。

奨学金の種類		金額/月(国立大学の場合)
給付型 ※1	自宅通学	0円+授業料免除
	自宅外通学	20,000円(給付)+授業料免除
貸与型: 第一種 (無利子)	自宅通学	20,000円・30,000円・45,000円から選択
	自宅外通学	20,000円・30,000円・40,000円・51,000円から選択
貸与型: 第二種(有利子)※2		20,000円~120,000円(10,000円刻み)から選択

しのぶ育英奨学金

福島大学独自の給付型奨学金

- 本学に1年以上在学の学類生が対象です。
- 5~6名程度を選抜し、毎月1人5万円で1年間(総額60万円)支給します。
- 返還する必要はありません。

福大生のライフスタイルをご紹介します

高校生までとはまったく異なる大学生の暮らし。学生たちがどんな大学生活を送っているのか、暮らしに役立つ福大生の生活データを紹介します。

お金

●1カ月の平均生活費

	自宅生	寮生	下宿生
	59,460円	85,280円	108,470円

●1カ月の収入源

	小遣い	奨学金	アルバイト
自宅生	13,530円	16,260円	28,130円
寮生	仕送り 10,620円	奨学金 44,120円	アルバイト 33,060円
下宿生	仕送り 49,280円	奨学金 30,540円	アルバイト 28,370円

●奨学金の受給

受けている	受けていない
52.4%	47.6%
うち日本学生支援機構の奨学金受給者(49.4%)	

●生活費以外のお金の使い道

1位	2位	3位	4位	5位
留学費 (300,000円)	運転免許 (238,700円)	海外旅行 (108,800円)	引っ越し	各種スクール

●傷害保険の加入

入っていない	入っている
10.5%	89.5%



就職支援

福島大学では、1・2年次に「キャリア創造科目(キャリア形成論、キャリアモデル学習、インターンシップ)」を開講し、現代社会にふさわしい基本的な職業観とモラルを身につけ、自らの進路選択と大学での学びとを関連づけて考えることができる教育を行っています。就職支援課は、その学びの成果が具体的な進路決定に結びつくように、就職を目指す学生のサポートとして以下のようなさまざまな事業を実施しています。



就職・進路相談

将来の進路を決定し、就職するまでには、さまざまな不安や焦りが生じることがあります。どんな小さなことでもかまいません。キャリア相談員が就職や進路に関するあらゆる相談を受けつけています。

相談日/月曜～金曜 10:00～17:00
※木曜日のみ20:00まで

就職支援課内の利用

就職支援課では、企業からの求人票、会社案内、先輩の貴重な体験が掲載されている就職試験報告書などの資料の閲覧ができます。公務員・教員採用試験関係資料、その他就職に関するガイドブック・DVDの貸し出しも行っています。また、パソコンが設置されており、インターネットによる就職情報の閲覧・収集ができます。各種就職情報サイトへの接続はもちろん、就職システムを利用して、本学に届いている求人情報が検索できます。

保護者の皆様へのサポート

「保護者のための就職セミナー」を毎年、大学祭の時期に合わせて開催し、就職活動の環境や、親はどう関わったらよいのかなどについて、理解を深めていただいています。また、保護者宛てダイレクトメールによる各種情報提供を行っています。



各種就職ガイダンス

年間40種類以上開催される就職ガイダンス、講演会、説明会などを通して、就職活動に必要な知識の提供を行うなど、数多くのサポートを実施しています。

【3・4年生】就職ガイダンス(就職活動を開始するにあたって)、業界研究講座、教員関係、公務員関係、一般常識テスト、インターンシップ対策講座、SPI説明会・web受検講座、自己PR講座、エントリーシート作成講座、面接対策講座、グループディスカッション対策講座、マナー講座ほか



合同企業説明会

民間企業への就職を目指す学類3年次および大学院1年次生のために、本学主催の合同企業説明会を開催しています。福島県内外から200社以上の企業が出展します。



その他支援

- 就職活動のための交通費を一部補助
- キャリア相談員による実践型就職ミニセミナーの開催やゼミなどへの出張就職セミナーの実施
- 首都圏に就職活動に行っても困らないよう、就職活動の拠点として大学の就職課と同じサポートが受けられる「福島大学セカンドキャンパス」を開校(東京都新宿区)

セカンドキャンパスを詳しく知りたい方はこちらへ

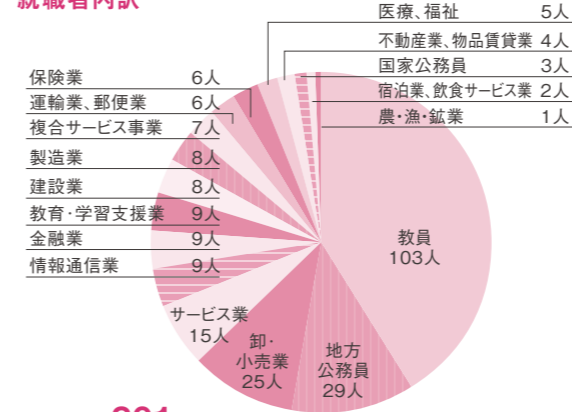


進路状況

※進路データは2017(平成29)年度卒業生実績

人間発達文化学類

就職者内訳



卒業生 301人

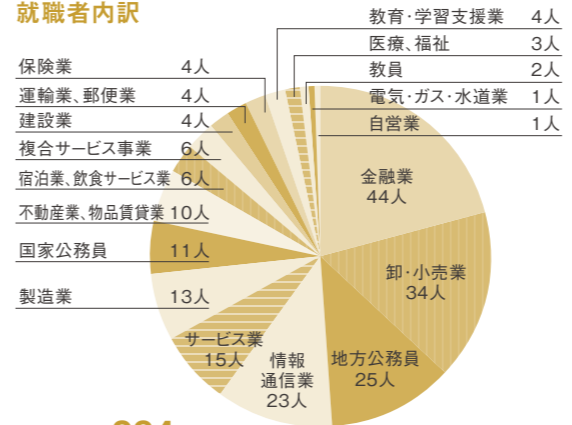
【就職者:249人 進学者等:28人 その他:24人】

就職先一例

【教員(公立)】福島県、大玉村、宮城県、仙台市、秋田県、岩手県、山形県、東京都、埼玉県、神奈川県、横浜市、静岡県、千葉県、茨城県、栃木県 など
【教員(私立)】創志学園、聖和学園、会津若松ザベリオ学園、福島文化学園、松韻学園、開智学園 など
【保育士】福島市、須賀川市、国見町、いわき市、気仙沼市、水戸市 など
【公務員】法務省保護局、福島地方裁判所、福島県、福島市、伊達市、南相馬市、仙台市、多賀城市、警視庁、川崎市、群馬県(警察)など
【企業】(株)みなもと農園、日本住宅(株)、アイリスオーヤマ(株)、笹の川酒造(株)、(株)キッツ、愛知時計電機(株)、日本放送協会(NHK)、東日本旅客鉄道(株)(JR東日本)、(株)七十七銀行、大和証券(株)、ふくしま未来農業協同組合、日本郵便(株)、仙台進学プラザ など

経済経営学類

就職者内訳



卒業生 234人

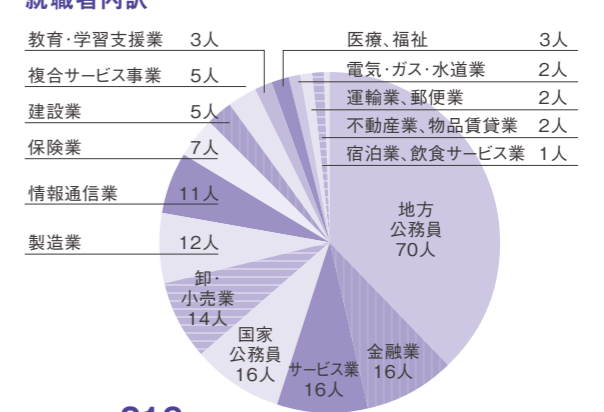
【就職者:210人 進学者等:2人 その他:22人】

就職先一例

【公務員】福島労働局、仙台国税局、仙台法務局、公正取引委員会、関東信越国税局、東北財務局、福島県、福島市、郡山市(消防)、宮城県、花巻市、船橋市、杉並区、茨城県、栃木県 など
【企業】パナソニックホームズ(株)、住友重機工業(株)、常磐共同火力(株)、(株)東日本技術研究所、(株)マクロミル、(株)福島中央テレビ、(株)電通テック、(株)東邦銀行、(株)福島銀行、(株)大東銀行、二本松信用金庫、大和証券(株)、野村證券(株)、(株)七十七銀行、福島県商工信用組合、(株)日本政策金融公庫、(株)山形銀行、(株)岩手銀行、(株)青森銀行、(株)常陽銀行、(株)足利銀行、ヤマトフィナンシャル(株)、あいおいニッセイ同和損害保険(株)、税理士法人三都会計事務所、日本郵便(株)、全国農業協同組合連合会(JA全農) など

行政政策学類

就職者内訳



卒業生 213人

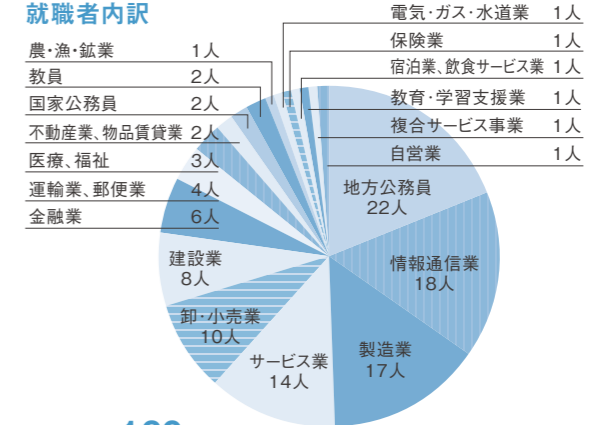
【就職者:185人 進学者等:7人 その他:21人】

就職先一例

【公務員】福島労働局、福島地方検察庁、仙台国税局、仙台法務局、仙台地方検察庁、東北農政局、東北経済産業局、会計検査院、東京労働局、防衛省(専門職)、関東信越国税局、陸上自衛隊、福島県、福島市、郡山市、伊達市、相馬市、会津若松市、喜多方市、二本松市、仙台市、山形県(警察)、置賜広域病院企業団公立置賜総合病院 など
【企業】セキスイハイム東北(株)、日本電通(株)、福島キヤノン(株)、(株)阿部紙工、トヨタ自動車東日本(株)、東日本電信電話(株)(NTT東日本)、東北電力(株)、東日本旅客鉄道(株)(JR東日本)、福島信用金庫、(株)福島銀行、(株)仙台銀行、明治安田生命保険相互会社、第一生命保険(株)、自治医科大学、税理士法人堀江会計事務所、全国農業協同組合連合会、日本郵便(株)、(株)マイナビ、一般社団法人日本自動車連盟(JAF) など

共生システム理工学類

就職者内訳



卒業生 169人

【就職者:115人 進学者等:43人 その他:11人】

就職先一例

【公務員】東北管区行政評価局、独立行政法人統計センター、福島県、福島市、いわき市、山形県(警察)、白石市、栃木県、北海道 など
【企業】(株)ユアテック、矢田工業(株)、福島製鋼(株)、日本たばこ産業(株)(JT)、ゼリア新薬工業(株)、(株)阿部紙工、北芝電機(株)、福島キヤノン(株)、(株)日立パワーソリューションズ、トヨタ自動車東日本(株)、常磐共同火力(株)、(株)福島情報処理センター、富士通エフ・アイ・ピー(株)、(株)NTT東日本-南関東、(株)福島放送、(株)日刊工業新聞社、東武鉄道(株)、東日本旅客鉄道(株)(JR東日本)、三菱電機住環境システムズ(株)、キヤノンシステムアンドサポート(株)、(株)福島マツダ、(株)東邦銀行、(株)福島銀行、福島信用金庫、東日本建設業保証(株)、イオンクレジットサービス(株)、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 など

入試データ

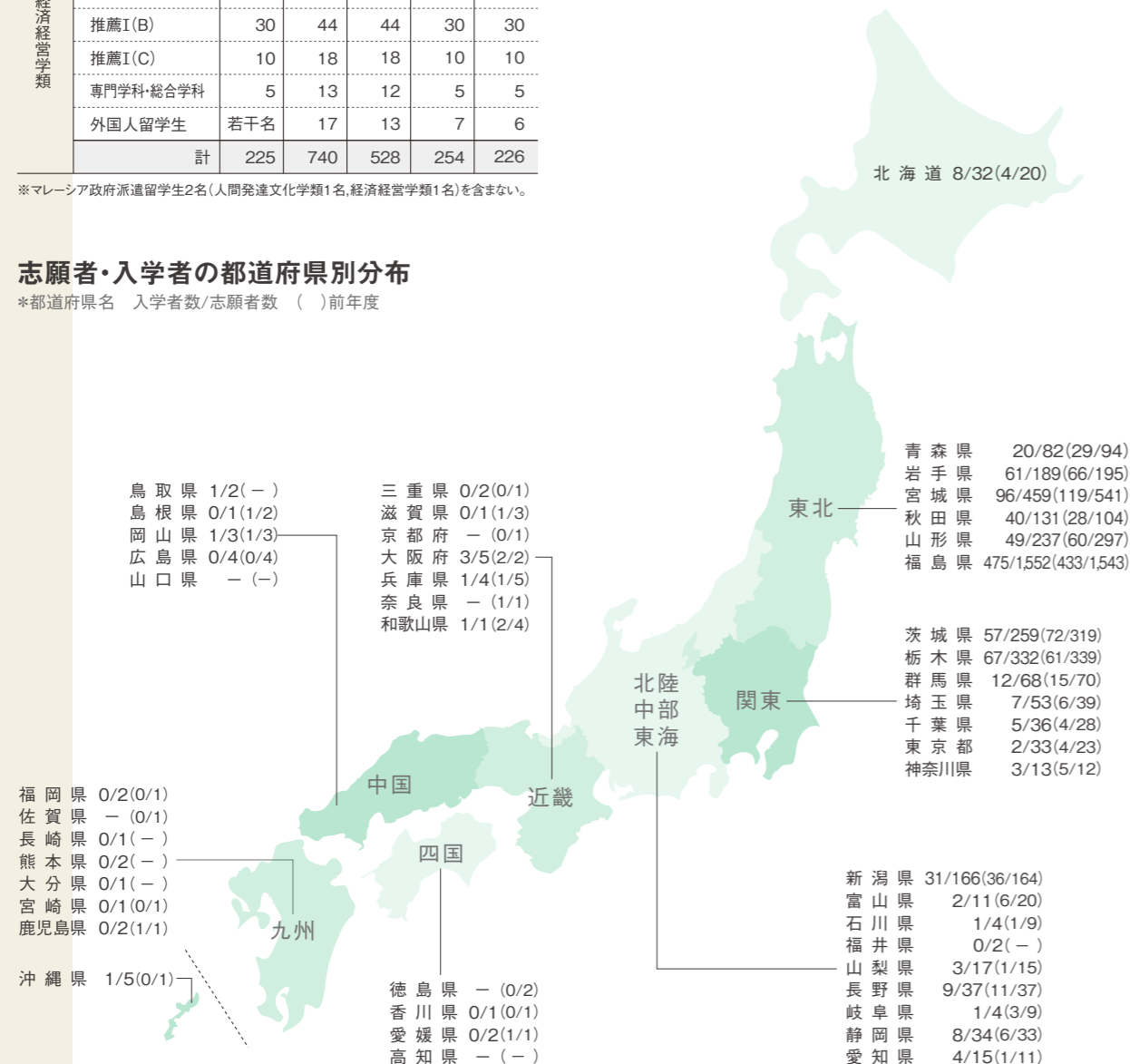
2018(平成30)年度 入学試験統計

学類	入試種別	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
人間発達文化学類	一般入試(前期)	165	618	558	177	162
	一般入試(後期)	30	437	164	45	40
	推薦I	20	42	42	20	20
	推薦II	55	133	133	55	55
	外国人留学生	若干名	4	3	1	1
計		270	1,234	900	298	278
行政政策学類	一般入試(前期)	140	317	311	154	148
	一般入試(後期)	45	515	228	45	38
	推薦I	25	57	57	25	25
	外国人留学生	若干名	4	3	2	2
	計		210	893	599	226
経済経営学類	一般入試(前期)	120	302	293	142	133
	一般入試(後期)	40	323	125	40	22
	推薦I(A)	20	23	23	20	20
	推薦I(B)	30	44	44	30	30
	推薦I(C)	10	18	18	10	10
	専門学科・総合学科	5	13	12	5	5
	外国人留学生	若干名	17	13	7	6
計		225	740	528	254	226

※マレーシア政府派遣留学生2名(人間発達文化学類1名,経済経営学類1名)を含まない。

志願者・入学者の都道府県別分布

*都道府県名 入学者数/志願者数 ()前年度



募集要項の請求方法・発表時期

テレメールでの請求 インターネット(パソコン・スマホ・ケータイ)または自動音声対応電話をご利用ください。

●インターネット(パソコン・スマホ・ケータイ)利用の場合



テレメール
<https://telemail.jp>

●自動音声対応電話利用の場合

IP電話 **050-8601-0101**
(24時間受付)

※住所・氏名などの登録時は、ゆっくり・はっきりとお話ください。
登録された音声不鮮明な場合は資料をお届けできない場合があります。
一般電話回線からの通話料金は日本全国どこからでも3分ごとに約12円です。

ご希望の資料の請求番号6桁を入力してください。自動音声対応電話でのご利用の場合は、音声ガイダンスにしたがって登録してください。

資料名	資料請求番号	料金(送料含む)	発表時期
大学案内	561220	215円	7月下旬
入学者選抜要項	581220	180円	7月中旬
入学者選抜要項・大学案内	561200	250円	7月下旬
一般入試募集要項	541200	215円	11月中旬
推薦入試募集要項	541210	215円	9月上旬
AO入試募集要項	541220	180円	9月上旬
私費外国人留学生入試募集要項	581230	180円	10月下旬
専門学科・総合学科卒業生入試募集要項	541240	140円	11月中旬

資料名	資料請求番号	料金(送料含む)	発表時期
人間発達文化学類	581200	140円	7月中旬
行政政策学類	581210	140円	7月中旬
経済経営学類	581240	140円	7月中旬
夜間主コース	561230	140円	7月中旬
編入学(高専対象推薦入学)募集要項	561180	140円	4月下旬
人間発達文化研究科募集要項	561190	215円	7月中旬
地域政策科学研究科募集要項	581190	215円	7月中旬
経済学研究科募集要項	541190	215円	7月中旬
共生システム理工学研究科(博士前期課程・修士課程)募集要項	581270	180円	7月上旬
共生システム理工学研究科(博士後期課程)募集要項	563720	180円	6月上旬

(テレメールに関するお問合わせ先)
テレメールカスタマーセンター IP 電話 050-8601-0102(受付時間 9:30~18:00)

モバっちよでの請求

インターネット(パソコン・スマホ・ケータイ)をご利用ください。
<http://djcm-b.jp/fukushima-u2/>

(モバっちよに関するお問合わせ先)
モバっちよカスタマーセンター
IP 電話 050-3540-5005
(受付時間:平日/10:00~18:00)



スマホ・ケータイ用
バーコードはこちら

大学窓口での請求

配布場所:福島大学入試課(事務局棟1階) 配布時間帯:平日/9:00~17:00

オープンキャンパス



ここ、福島の地で、
大きな夢と未来を探し、学び、創ろう!

夏のオープンキャンパス

8/5 9:50~
Sun. 14:55(予定)

- 学類説明会
- 模擬講義
- 学生企画
- 相談コーナー

など、多彩な企画を用意しています。



イベント満載!
興味あるものを
どんどんチェック
しよう!

秋のオープンキャンパス

10/20 Sat.
10:00~14:00(予定)

これから進路を考える生徒・保護者向けまたは、夏に参加できなかった方、ご参加ください!

※プログラム詳細については、7月中旬頃にホームページで公開します。 ※お車での来場は大変混み合いますので、公共交通機関をご利用ください。